

# カスタム プロパティのリファ レンス

vRealize Automation 7.1

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、  
ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサ  
ポートします。このドキュメントの最新版をチェックする  
には、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参  
照してください。

JA-002102-01

**vmware**<sup>®</sup>

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります  
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見および感想がある場合は、[docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com) までお送りください。

Copyright © 2008–2016 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報。

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**ヴァイエルムウェア株式会社**  
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5  
浜松町スクエア 13F  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

# 目次

カスタム プロパティのリファレンス	5
更新情報	7
1 カスタム プロパティの使用	9
カスタム プロパティの追加	9
マシン プロビジョニングにおけるプロパティの使用	10
カスタム プロパティの優先順位について	10
カスタム プロパティのタイプ	12
2 機能別にグループ化されたカスタム プロパティ	13
ブループリントと展開用のカスタム プロパティ	15
展開の名前の表示と分析のためのカスタム プロパティ	16
Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ	17
クローン ブループリント用カスタム プロパティ	18
リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ	21
FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ	24
基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ	26
Linux キックスタート ブループリントのカスタム プロパティ	27
SCCM ブループリントのカスタム プロパティ	28
WIM ブループリントのカスタム プロパティ	29
vCloud Air および vCloud Director のブループリントのカスタム プロパティ	32
ネットワークのカスタム プロパティ	35
PXE プロビジョニングのカスタム プロパティ	40
vRealize Automation ゲスト エージェントのカスタム プロパティ	42
BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のカスタム プロパティ	46
HP Server Automation との連携用のカスタム プロパティ	47
3 名前別にグループ化されたカスタム プロパティ	51
カスタム プロパティ アンダースコア ( ) テーブル	52
カスタム プロパティ A テーブル	53
カスタム プロパティ B テーブル	53
カスタム プロパティ C テーブル	54
カスタム プロパティ E テーブル	54
H で始まるカスタム プロパティの表	56
カスタム プロパティ I テーブル	57
カスタム プロパティ L テーブル	58
カスタム プロパティ M テーブル	59
カスタム プロパティ O テーブル	59
カスタム プロパティ P テーブル	60
カスタム プロパティ R テーブル	61

カスタム プロパティ S テーブル	61
カスタム プロパティ V テーブル	65
カスタム プロパティ X テーブル	85

## 4 プロパティ ディクショナリの使用 87

プロパティ定義の使用 87

    カスタム プロパティ定義の作成とテスト 88

    vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成 100

プロパティ グループの使用 105

    プロパティ グループの作成 106

インデックス 107

# カスタム プロパティのリファレンス

---

カスタム プロパティのリファレンス には、VMware vRealize™ Automation を使用するとき使用可能なカスタム プロパティとその使用方法に関する情報が提供されています。

このドキュメントは、VMware vRealize™ Automation のドキュメント ページ (<https://www.vmware.com/support/pubs/vcac-pubs.html>) で入手可能な vRealize Automation の製品ドキュメントと共に参照することを想定しています。

---

注意 vRealize Automation のすべての特徴と機能がすべてのエディションで利用できるわけではありません。各エディションの機能セットの比較については、<https://www.vmware.com/products/vrealize-automation/> を参照してください。

---

## 対象者

この情報は、vRealize Automation の IaaS 管理者、ファブリック管理者、およびビジネス グループ マネージャを対象としています。この内容は、Windows または Linux のシステム管理者としての経験があり、仮想テクノロジーおよび『基盤と概念』に記載されている基本的な概念に詳しい方を対象としています。

## VMware の技術ドキュメントの用語集

VMware の技術ドキュメントには、新しい用語などをまとめた用語集があります。当社の技術ドキュメントで使用される用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。



# 更新情報

---

このカスタム プロパティのリファレンスは、製品のリリースごと、または必要に応じて更新されます。

次の表は、カスタム プロパティのリファレンスの更新履歴を示したものです。

リビジョン	説明
002102-01	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 「<a href="#">プロパティ グループの作成 (P. 106)</a>」 のオプション設定に関する情報が更新されました。</li><li>■ 「<a href="#">カスタム プロパティ アンダースコア ( ) テーブル (P. 52)</a>」 の <code>_deploymentName</code> プロパティに関する情報が更新されました。</li></ul>
002102	初版 7.1 リリース。





# カスタム プロパティの使用

vRealize Automation のカスタム プロパティを使用すると、ネットワーク、プラットフォーム、ゲスト エージェントの設定、および他の多くの展開パラメータを設定するために、値を追加したり、既存またはデフォルトの値をオーバーライドしたりできます。

一部のプロパティは、すべてのマシンに指定する必要がある標準設定によって決まります。たとえば、すべてのブループリントにはメモリ値とディスク サイズ値が必要です。ブループリントおよび予約では、追加のプロパティを個別に指定するか、またはプロパティ グループとして指定することができます。プロパティをブループリントまたはプロパティ グループに追加するときには、それを必須プロパティとしてマークすることができます。プロパティが必須に指定されている場合、ユーザーは、マシンを申請するときに、そのプロパティについて以下の例にあるような値を指定する必要があります。

- マシンの割り当てストレージを共有する複数のディスクに関する情報が必要です。
- マシンのローカル グループに追加するユーザーまたはグループに関する情報が必要です。
- マシンのホスト名が必要です。

Windows ゲスト エージェントは、プロビジョニングされたマシンの `%SystemDrive%\VRMGuestAgent\site\workitem.xml` ファイルにプロパティ値を記録します。

Linux ゲスト エージェントは、プロビジョニングされたマシンの `/usr/share/gugent/site/workitem.xml` ファイルにプロパティ値を記録します。

この章では次のトピックについて説明します。

- [カスタム プロパティの追加 \(P. 9\)](#)
- [マシン プロビジョニングにおけるプロパティの使用 \(P. 10\)](#)
- [カスタム プロパティの優先順位について \(P. 10\)](#)

## カスタム プロパティの追加

カスタム プロパティを使用して、マシン プロビジョニングを制御できます。ブループリント全体、ブループリント内のコンポーネント、および予約にプロパティとプロパティ グループを追加できます。他の vRealize Automation アイテムにカスタム プロパティを追加することもできます (エンドポイント タイプなど)。

ブループリントの作成時、またはブループリントがドラフトまたは公開済みの状態の場合、プロパティとプロパティ グループを追加できます。カスタム プロパティとプロパティ グループは、ブループリントの個々のコンポーネントに追加することもできます。

ブループリント全体に適用されたカスタム プロパティは、コンポーネント レベルで構成されたカスタム プロパティより優先されます。ブループリント レベルのプロパティを編集するには、[ブループリントのプロパティ] ページを使用します。

カスタム プロパティの名前には、大文字と小文字の区別があります。たとえば、**hostname** として表記されるカスタム プロパティと、**HOSTNAME** として表記される別のカスタム プロパティは、異なるカスタム プロパティと見なされます。

カスタム プロパティでは、必要に応じて、ユーザーがマシン申請を作成する際のプロパティ値の指定を必須にできます。プロパティ値は通常、大文字と小文字を区別します。

指定したカスタム プロパティを追加し、独自のプロパティとプロパティ グループを作成および追加することもできます。プロパティとプロパティ グループの作成の詳細については、[第 4 章「プロパティ ディクショナリの使用 \(P. 87\)」](#) を参照してください。

カスタム プロパティの優先順位の詳細については、「[カスタム プロパティの優先順位について \(P. 10\)」](#) を参照してください。

## マシン プロビジョニングにおけるプロパティの使用

カスタム プロパティは、vRealize Automation によって提供されるプロパティです。さらに、独自のプロパティを定義することもできます。プロパティは、マシンの属性の指定またはデフォルト仕様のオーバーライドに使用される名前と値のペアです。

カスタム プロパティを使用し、次の例のように、さまざまなプロビジョニング方法、マシン タイプ、マシン オプションを制御できます。

- 特定のタイプのゲスト OS を指定します。
- リファレンス マシンの Windows イメージ ファイル形式 (WIM) イメージを使用して新規マシンをプロビジョニングする場合の WIM ベースのプロビジョニングを有効にします。
- マシン接続時の Remote Desktop Protocol の動作をカスタマイズします。
- 仮想マシンを XenDesktop Desktop Delivery Controller (DDC) サーバに登録します。
- 複数のディスク ドライブの追加など、仮想マシンのシステム仕様をカスタマイズします。
- 選択したローカル グループに指定ユーザーを追加するなど、マシンのゲスト OS をカスタマイズします。
- ネットワークおよびセキュリティの設定を指定します。

ブループリント、予約、または他のフォームにプロパティを追加する場合、プロパティを暗号化するかどうかと、プロビジョニング時に値を指定するようにプロンプト表示する必要があるかどうかを指定できます。これらのオプションは、プロビジョニング時にはオーバーライドできません。

ブループリントで指定されたプロパティが、プロパティ グループで指定された同一のプロパティをオーバーライドします。これにより、プロパティ グループのプロパティの多くを使用しながら、異なるプロパティのみをブループリントで設定できます。たとえば、標準的な開発者ワークステーション プロパティ グループが組み込まれたブループリントで、グループの英語（米国）設定を英語（英国）設定にオーバーライドします。

予約およびビジネス グループ内のプロパティを多くのマシンに適用できます。通常、その用途は、リソース管理などのソースに関連する目的に限定されます。プロビジョニングされるマシンの特性の指定は、一般にブループリントとプロパティ グループにプロパティを追加することによって行います。

## カスタム プロパティの優先順位について

適切な権限が与えられたユーザーは、ブループリント、エンドポイント、ビジネス グループ、および予約のカスタム プロパティを指定できます。複数のソース内に同じプロパティが存在する場合、vRealize Automation は、一定の優先順位に従って、マシンにプロパティを適用します。

プロビジョニングされたマシンに適用するカスタム プロパティは、次の要素に追加できます。

- 予約：予約からプロビジョニングされるすべてのマシンにカスタム プロパティを適用する。
- ビジネス グループ：ビジネス グループ メンバーによってプロビジョニングされるすべてのマシンにカスタム プロパティを適用する。
- ブループリント：ブループリントからプロビジョニングされるすべてのマシンにカスタム プロパティを適用する。

- プロパティ グループ：ブループリントに設定可能。ブループリントからプロビジョニングされるすべてのマシンに、グループ内のすべてのカスタム プロパティを適用する。

ブループリントには、1 つ以上のプロパティ グループが含まれます。

- マシン申請：プロビジョニングされるマシンにカスタム プロパティを適用する。
- 承認ポリシー（高度な承認サポートが有効な場合）：承認するマシンの値を提供するように承認者に要求する。

次のリストに、カスタム プロパティの優先順位を示します。ソースで指定されているプロパティ値は、このリスト内で数字が大きい方が、小さい方より優先されます。

---

注意 vRealize Automation で指定されたプロパティ名とユーザー定義によるプロパティ名との間で競合が発生する場合、vRealize Automation で指定されたカスタム プロパティ名が優先されます。

---

- 1 プロパティ グループ
- 2 ブループリント
- 3 ビジネス グループ
- 4 コンピュート リソース
- 5 予約
- 6 エンドポイント
- 7 ランタイム

プロパティ グループ、ブループリント、およびビジネス グループのカスタム プロパティは申請時に割り当てられ、他のコンピュート リソース、予約、およびエンドポイントのプロパティはプロビジョニング時に割り当てられます。

この順序は、次のようにさらに分類されます。

- 1 ブループリント レベル全体でのカスタム プロパティおよびグループ
- 2 コンポーネント レベルでのカスタム プロパティおよびグループ
- 3 ビジネス グループ用のカスタム プロパティ
- 4 コンピュート リソース用のカスタム プロパティ
- 5 予約用のカスタム プロパティ
- 6 エンドポイント用のカスタム プロパティ
- 7 ネストされたブループリント申請レベルでのカスタム プロパティ
- 8 コンポーネント申請レベルでのカスタム プロパティ

ほとんどの場合、ランタイム プロパティは、他のプロパティよりも優先されます。ランタイム プロパティを使用するには、次の条件を満たす必要があります。

- ユーザーにプロンプトを表示するプロパティ オプションが選択されている。これは、ユーザーがマシンのプロビジョニングを申請するときにプロパティの値を指定する必要があることを表します。
- ビジネス グループ マネージャがマシンのプロビジョニングを要求していて、マシン申請の確認ページのカスタム プロパティ リストにプロパティが表示される。

この優先ルールには例外があります。たとえば、**VMware.VirtualCenter.Folder** カスタム プロパティをビジネス グループに追加し、プロパティ値を指定しますが、申請でプロパティを表示するオプションを選択しないとします。さらに、同じカスタム プロパティをブループリントに追加し、申請でプロパティを表示することを指定するとします。指定されたユーザーがカタログからプロビジョニングを申請するとき、プロパティはカタログ申請フォームに表示されません。これは、プロパティは、プロビジョニングの申請時ではなくプロビジョニングが開始された後でのみ入手可能な予約情報に適用されるためです。

## カスタム プロパティのタイプ

クローン作成されたマシンで、vRealize Automation の外部およびアップデートされたプロパティ タイプを使用できます。クローン作成されたマシンでは、内部および読み取り専用のプロパティ タイプは使用できません。

次の vRealize Automation カスタム プロパティ タイプを利用できます。

### ■ 内部

指定された値はデータベースのみで保持されます。たとえば、マシン申請を承認したマネージャの電子メール アドレスは **VirtualMachine.Admin.Approver** プロパティに記録されますが、プロパティはマシンに影響しません。

### ■ 読み取り専用

指定された値はマシンに実装されますが、変更できません。たとえば、**VirtualMachine.Admin.UUID** ではマシンの UUID を指定しますが、その UUID は変更できません。

### ■ 外部

仮想化プラットフォームがマシンを作成するとき、またはビルド プロセスの WinPE フェーズ中に、マシンの外部プロパティが決定されます。これらのプロパティを設定するには、プロパティの値をプロキシ エージェントに提供する必要があります。プロキシ エージェントがその値を仮想化プラットフォームまたはゲスト エージェントに渡すと、その値は WinPE フェーズに実装されます。

指定された値はマシンに実装されますが、アップデートされません。たとえばプロパティ **VirtualMachine.Admin.AddOwnerToAdmins** が true に設定された場合、マシンの所有者がローカル管理者グループに追加されます。所有者が後でこのグループから削除されても、プロパティは false にアップデートされません。

### ■ 最終アップデート

指定された値はマシンに実装され、データ収集時にアップデートされます。たとえば、マシンのコンピュータリソースが変更されると、プロキシ エージェントによってマシンの **VirtualMachine.Admin.Hostname** プロパティの値がアップデートされます。

内部および読み取り専用プロパティ タイプは、テンプレートで決められる属性を設定します。

vRealize Automation マシン メニューを使用して、読み取り専用プロパティの **VirtualMachine.Admin.AgentID**、**VirtualMachine.Admin.UUID**、および **VirtualMachine.Admin.Name** を除く、予約されたすべてのカスタム プロパティを変更できます。

# 機能別にグループ化されたカスタム プロパティ

# 2

カスタム プロパティを使用して、vRealize Automation の追加の制御を提供できます。

ここで示すカスタム プロパティは、機能別にグループ化されています。名前別にグループ化されたカスタム プロパティについては、[第 3 章「名前別にグループ化されたカスタム プロパティ \(P. 51\)」](#)を参照してください。

- [ブループリントと展開用のカスタム プロパティ \(P. 15\)](#)

vRealize Automation では、すべてまたは大半のブループリントおよび展開に通常適用可能な多数のカスタム プロパティが用意されています。vRealize Automation ユーザー インターフェイスでは、カスタム プロパティを使用することなく、これらのプロパティの多くを設定できます。

- [展開の名前の表示と分析のためのカスタム プロパティ \(P. 16\)](#)

プロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はカタログ アイテムに含まれるすべてのリソースをロールバックします。複数のコンポーネントが含まれるデプロイ環境の場合、カスタム プロパティを使用してデフォルト値をオーバーライドし、エラーのデバッグ用の情報を得ることができます。これらのプロパティは、ブループリント全体に適用することをお勧めします。

- [Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ \(P. 17\)](#)

vRealize Automation には、vRealize Automation で Openstack エンドポイントを構成するときに使用できるカスタム プロパティが用意されています。

- [クローン ブループリント用カスタム プロパティ \(P. 18\)](#)

vRealize Automation には、クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

- [リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ \(P. 21\)](#)

vRealize Automation には、リンク クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

- [FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 24\)](#)

vRealize Automation には、FlexClone ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

- [基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 26\)](#)

vRealize Automation には、基本ワークフロー ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

- [Linux キックスタート ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 27\)](#)

vRealize Automation には、Linux キックスタート ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

- [SCCM ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 28\)](#)

vRealize Automation には、SCCM ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

- [WIM ブループリントのカスタム プロパティ \(P. 29\)](#)

vRealize Automation には、WIM ブループリント用の追加の制御を提供するカスタム プロパティが含まれます。

- [vCloud Air および vCloud Director のブループリントのカスタム プロパティ \(P. 32\)](#)

特定のカスタム プロパティを、ブループリント内の vCloud Air または vCloud Director のマシン コンポーネント定義に追加できます。

- [ネットワークのカスタム プロパティ \(P. 35\)](#)

ネットワークの vRealize Automation カスタム プロパティでは、マシン上の特定のネットワーク デバイスの構成を指定します。

- [PXE プロビジョニングのカスタム プロパティ \(P. 40\)](#)

PXE は、Cisco UCS Manager でサポートされている唯一のプロビジョニング方法です。ネットワーク ブートストラップ プログラムと vRealize Automation カスタム プロパティを併用して、WIM、SCCM、または Linux キックスタート プロビジョニングを開始できます。またカスタム プロパティを使用して、独自の PowerShell スクリプトを呼び出すこともできます。Linux キックスタート プロビジョニングでは、カスタム プロパティは必要ありません。

- [vRealize Automation ゲスト エージェントのカスタム プロパティ \(P. 42\)](#)

vRealize Automation ゲスト エージェントをクローン作成用のテンプレートまたは WinPE にインストールした場合、マシンが完全に展開された後にカスタム プロパティを使用して、プロビジョニングされたマシンのゲスト OS 内でカスタム スクリプトを実行できます。

- [BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のカスタム プロパティ \(P. 46\)](#)

vRealize Automation には、BMC BladeLogic Configuration Manager と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。

- [HP Server Automation との連携用のカスタム プロパティ \(P. 47\)](#)

vRealize Automation には、HP Server Automation と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。HP Server Automation との連携には、いくつかのカスタム プロパティが必要です。その他のカスタム プロパティは、必要に応じて使用します。

## ブループリントと展開用のカスタム プロパティ

vRealize Automation では、すべてまたは大半のブループリントおよび展開に通常適用可能な多数のカスタム プロパティが用意されています。vRealize Automation ユーザー インターフェイスでは、カスタム プロパティを使用することなく、これらのプロパティの多くを設定できます。

表 2-1. ブループリントと展開用のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>_debug_deployment</code>	<p>展開の部分的な完了が許可される拡張処理を除いて、デフォルトの動作では、個々のリソースのいずれかでプロビジョニングに失敗すると、展開全体が破棄されます。<code>_debug_deployment</code> カスタム プロパティ値を <b>true</b> に設定し、デフォルトの動作をオーバーライドできます。プロビジョニングが失敗した場合は、プロビジョニングできなかったコンポーネントを特定できるように、デバッグ用のカスタム プロパティによってリソースのロールバックが停止されます。エラーが発生したカタログ アイテムのコンポーネントにユーザーはアクセスできないため、このカスタム プロパティは新しいブループリントの開発とテスト期間で使用するのに適しています。ブループリントにカスタム プロパティを適用するには、ブループリントの作成または編集時に [プロパティ] タブを使用して、<code>_debug_deployment</code> を [ブループリント プロパティ] ページに追加します。このプロパティは、複合ブループリントなどの複数のコンポーネントを含むブループリント用であり、スタンドアロンのブループリントに適用された場合は無視されます。<code>_debug_deployment</code> プロパティは、ゲスト エージェントやマシン プロビジョニングのレベルではなく、ソフトウェア プロビジョニングのレベルで使用されます。</p>
<code>_deploymentName</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、<code>_deploymentName</code> の値をカスタム文字列に設定して、展開のカスタム名を指定できます。この展開の複数のインスタンスを単一の申請でプロビジョニングする場合は、カスタム名がプリフィックスになります。ユーザーが展開名を指定できるようにするには、このカスタム プロパティを設定してオーバーライドを許可します。このプロパティの使用には、次の2点の注意事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ このプロパティは、コンポーネント レベルではなく、ブループリント レベルで追加する必要があります。たとえば、ブループリントを作成または編集する際に、[プロパティ] タブをクリックして、[カスタム プロパティ] - [新規] の順に選択し、<code>_deploymentName</code> プロパティをブループリントに追加します。このプロパティは、マシンやブループリントに含まれる他のコンポーネントに追加しないでください。</li> <li>■ このプロパティは、プロパティ グループのメンバーとしてではなく、別個のプロパティとして追加する必要があります。</li> </ul>
<code>_number_of_instances</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、単一の申請でユーザーがプロビジョニングできる環境のインスタンス数を指定できます。</p>

## 展開の名前の表示と分析のためのカスタム プロパティ

プロビジョニングが失敗すると、vRealize Automation はカタログ アイテムに含まれるすべてのリソースをロールバックします。複数のコンポーネントが含まれるデプロイ環境の場合、カスタム プロパティを使用してデフォルト値をオーバーライドし、エラーのデバッグ用の情報を得ることができます。これらのプロパティは、ブループリント全体に適用することをお勧めします。

**表 2-2. 展開を分析するためのカスタム プロパティ**

カスタム プロパティ	説明
<code>_debug_deployment</code>	<p>展開の部分的な完了が許可される拡張処理を除いて、デフォルトの動作では、個々のリソースのいずれかでプロビジョニングに失敗すると、展開全体が破棄されます。<code>_debug_deployment</code> カスタム プロパティ値を <b>true</b> に設定し、デフォルトの動作をオーバーライドできます。プロビジョニングが失敗した場合は、プロビジョニングできなかったコンポーネントを特定できるように、デバッグ用のカスタム プロパティによってリソースのロールバックが停止されます。エラーが発生したカタログ アイテムのコンポーネントにユーザーはアクセスできないため、このカスタム プロパティは新しいブループリントの開発とテスト期間で使用するのに適しています。</p> <p>ブループリントにカスタム プロパティを適用するには、ブループリントの作成または編集時に [プロパティ] タブを使用して、<code>_debug_deployment</code> を [ブループリント プロパティ] ページに追加します。このプロパティは、複合ブループリントなどの複数のコンポーネントを含むブループリント用であり、スタンドアロンのブループリントに適用された場合は無視されます。</p> <p><code>_debug_deployment</code> プロパティは、ゲスト エージェントやマシン プロビジョニングのレベルではなく、ソフトウェア プロビジョニングのレベルで使用されます。</p>
<code>_deploymentName</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、<code>_deploymentName</code> の値をカスタム文字列に設定して、展開のカスタム名を指定できます。この展開の複数のインスタンスを単一の申請でプロビジョニングする場合は、カスタム名がプリフィックスになります。ユーザーが展開名を指定できるようにするには、このカスタム プロパティを設定してオーバーライドを許可します。このプロパティの使用には、次の 2 点の注意事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ このプロパティは、コンポーネント レベルではなく、ブループリント レベルで追加する必要があります。たとえば、ブループリントを作成または編集する際に、[プロパティ] タブをクリックして、[カスタム プロパティ] - [新規] の順に選択し、<code>_deploymentName</code> プロパティをブループリントに追加します。このプロパティは、マシンやブループリントに含まれる他のコンポーネントに追加しないでください。</li> <li>■ このプロパティは、プロパティ グループのメンバーとしてではなく、別個のプロパティとして追加する必要があります。</li> </ul>



## Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ

vRealize Automation には、vRealize Automation で Openstack エンドポイントを構成するときに使用できるカスタム プロパティが用意されています。

表 2-3. Openstack エンドポイント用のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<b>VirtualMachine.Admin.ConnectAddress.Regex</b>	<p>vRealize Automation 管理者が RDP 接続のようなターミナル接続の IP アドレスと一致する正規表現を定義するために使用します。一致した場合、IP アドレスは <b>VirtualMachine.Admin.ConnectAddress</b> カスタム プロパティに保存されます。それ以外の場合、最初に使用可能な IP アドレスが指定されます。</p> <p>たとえば、プロパティ値を <b>10.10.0.</b> に設定すると、仮想マシンに割り当てられている 10.10.0.* サブネットから IP アドレスを選択できます。サブネットが割り当てられていない場合、このプロパティは無視されます。</p> <p>このプロパティは、Openstack に対して使用できます。</p>
<b>VirtualMachine.NetworkN.AdditionAddress&lt;M&gt;</b>	<p>ネットワーク &lt;N&gt; の Openstack インスタンス用に割り当てられる追加の &lt;M&gt; IP アドレスを定義します。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;Address</b>。プロパティによって指定された IP アドレス セットは除外します。[ネットワーク] タブの [追加アドレス] 列に、他のアドレスが表示されます。</p> <p>このプロパティは、Openstack のマシン状態のデータ収集で使用されます。</p> <p>OpenStack エンドポイントによってのみデータ収集が実行されますが、このプロパティは OpenStack に固有ではなく、他のエンドポイント タイプのライフサイクルの拡張性のために使用することができます。</p>
<b>VMware.Endpoint.Openstack.IdentityProvider.Version</b>	<p>Openstack エンドポイントを認証するときに使用する Openstack ID プロバイダ (Keystone) のバージョンを指定します。Keystone バージョン 3 OpenStack ID プロバイダに対して認証するために、値 <b>3</b> を設定します。他の値を使用する場合、またはこのカスタム プロパティを使用しない場合、デフォルトで Keystone バージョン 2 を使用して認証が行われます。</p>

## クローン ブループリント用カスタム プロパティ

vRealize Automation には、クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

表 2-4. クローン ブループリント用カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<b>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy</b>	<p>ディスク &lt;N&gt; のストレージを検出するために使用するストレージ予約ポリシーを指定します。また、名前付きストレージ予約ポリシーをボリュームに割り当てます。このプロパティを使用するには、プロパティ名の&lt;N&gt;をボリューム番号に置き換えて、ストレージ予約ポリシー名をその値として指定します。このプロパティは、ブループリントで指定されているストレージ予約ポリシー名と同等です。ディスク番号は連番にする必要があります。このプロパティは、すべての仮想および vCloud 予約で有効です。このプロパティは、物理、Amazon、または OpenStack 予約では無効です。</p>
<b>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</b>	<p>ネットワーク プロファイルの名前を指定します。このネットワーク プロファイルに基づいて、固定 IP アドレスをネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当てたり、クローン作成されたマシンのネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当て可能な固定 IP アドレスの範囲を取得したりします。&lt;N&gt;=0 は最初のデバイス、以降 &lt;N&gt;=1 は 2 番目、2 は 3 番目のデバイスというように指定します。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</b> プロパティを使用する際には、これが指し示すネットワーク プロファイルを使用して、IP アドレスが割り当てられます。ただし、プロビジョニングされたマシンは、ラウンド ロビン方式モデルを使用して予約で選択されたネットワークに接続されます。</p> <p>ネットワークが割り当てられた後でこのプロパティ値を変更しても、指定のマシンに割り当てられる IP アドレス値には影響しません。</p> <p>仮想マシンの WIM ベース プロビジョニングでは、このプロパティを使用して、ネットワーク プロファイルおよびネットワーク インターフェイスを指定できます。または、[仮想予約] ページの [ネットワーク] セクションを使用することもできます。さらに、<b>VirtualMachine.NetworkN.Name</b> カスタム プロパティを使用して、ネットワーク インターフェイスを仮想ネットワークに割り当てすることもできます。</p> <p>ネットワーク プロファイルの次の属性を使用して、クローン作成ブループリントで固定 IP アドレスを割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</b></li> </ul> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使わないでください。</p>

表 2-4. クローン ブループリント用カスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Linux.ExternalScript.Name</code>	オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲスト エージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <code>config.sh</code> )。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。 外部スクリプトを指定する場合は、 <code>Linux.ExternalScript.LocationType</code> プロパティおよび <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用して、その場所も定義する必要があります。
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。 また、 <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用してスクリプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、 <code>Linux.ExternalScript.Server</code> プロパティも使用します。
<code>Linux.ExternalScript.Server</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> で指定された Linux 外部カスタマイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: <code>lab-ad.lab.local</code> )。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカル パスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポート パスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code> )。

カスタム プロパティを受け入れ、プロビジョニングされたマシンをカスタマイズするスクリプトを実行するため、管理者がゲスト エージェントをインストールしている場合、カスタム プロパティを使用して、ゲスト エージェントを使用するクローン マシンをさらにカスタマイズできます。

表 2-5. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.AddOwnerToAdmins</code>	<code>VirtualMachine.Admin.Owner</code> プロパティで指定されたマシンの所有者をマシンのローカル管理者グループに追加する場合は、 <code>True</code> (デフォルト) に設定します。
<code>VirtualMachine.Admin.AllowLogin</code>	<code>VirtualMachine.Admin.Owner</code> プロパティでの指定に従ってマシン所有者をローカルのリモート デスクトップ ユーザー グループに追加するには、 <code>True</code> (デフォルト) に設定します。
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	クローン作成用テンプレートのサービスとしてゲスト エージェントがインストールされている場合、マシン ブループリントで <code>True</code> に設定すると、そのテンプレートからクローン作成されたマシンのゲスト エージェント サービスが有効になります。マシンを起動すると、ゲスト エージェント サービスが起動します。ゲスト エージェントを無効にする場合は、 <code>False</code> に設定します。 <code>False</code> に設定すると、拡張クローン ワークフローでゲスト OS タスクにゲスト エージェントが使用されなくなり、機能が <code>VMwareCloneWorkflow</code> に制限されます。指定しない場合、または <code>False</code> 以外に設定した場合、拡張クローン ワークフローからゲスト エージェントに作業アイテムが送信されます。
<code>VirtualMachine.DiskN.Active</code>	マシンのディスク <N> が有効であることを指定する場合は、 <code>True</code> (デフォルト) に設定します。マシンのディスク <N> が有効ではないことを指定する場合は、 <code>False</code> に設定します。

表 2-5. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.Size</code>	ディスク <N> のサイズ (GB) を定義します。たとえば、150 GB のサイズをディスク G に割り当てるには、カスタム プロパティ <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> を定義し、値として 150 と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。デフォルトで、マシンには <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> で参照されるディスクが 1 台あります。サイズは、マシンのプロビジョニング元のブループリントにあるストレージ値によって指定されます。ブループリント ユーザー インターフェイスのストレージ値は、 <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> プロパティの値に上書きされます。 <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> プロパティは、ブループリントのストレージ オプションとの関係により、カスタム プロパティとして使用することはできません。 <code>VirtualMachine.Disk1.Size</code> 、 <code>VirtualMachine.Disk2.Size</code> のように指定することで、ディスクをさらに追加できます。 <code>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</code> は、常に <code>.DiskN.Size</code> プロパティと <code>VMware.Memory.Reservation</code> のサイズ割り当ての合計を表します。
<code>VirtualMachine.DiskN.Label</code>	マシンのディスク <N> のラベルを指定します。ディスク ラベルの最大文字数は 32 文字です。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントに対して使用する場合は、ゲスト OS 内でマシンのディスク <N> のラベルを指定します。
<code>VirtualMachine.DiskN.Letter</code>	マシンのディスク N のドライブ文字またはマウント ポイントを指定します。デフォルトは C です。たとえば、ディスク 1 に文字 D を指定するには、カスタム プロパティを <code>VirtualMachine.Disk1.Letter</code> として定義し、値として D と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントと組み合わせて使用する場合、ゲスト エージェントは、この値によって指定されたドライブ文字またはマウント ポイントを使用して、追加ディスク <N> をゲスト OS にマウントします。
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	カスタマイズが完了してからゲスト OS のカスタマイズが開始するまでの待機時間を指定します。値は HH:MM:SS 形式にする必要があります。値が設定されていない場合、デフォルト値は 1 分 (00:01:00) になります。このカスタム プロパティを含めない場合、ゲスト エージェントの作業アイテムが完了する前に仮想マシンが再起動すると、プロビジョニングに失敗する場合があります。
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	すべてのカスタマイズが完了するまで、プロビジョニング ワークフローで作業アイテムがゲスト エージェントに送信されないようにする場合は、True に設定します。
<code>VirtualMachine.SoftwareN.Name</code>	プロビジョニング中にインストールまたは実行するソフトウェア アプリケーション <N> やスクリプトの分かりやすい名前を指定します。これは、任意の参照専用プロパティです。このプロパティは、拡張クローン ワークフローやゲスト エージェントでは実質的に機能しませんが、ユーザー インターフェイスでカスタム ソフトウェアを選択する場合や、ソフトウェアの使用状況をレポートする場合に役立ちます。

表 2-5. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath	<p>アプリケーションのインストール スクリプトへの完全パスを指定します。このパスは、ゲスト OS で参照される有効な絶対パスにする必要があります。また、スクリプト ファイル名が含まれている必要があります。</p> <p>パスの文字列に {&lt;CustomPropertyName&gt;} を挿入することで、カスタム プロパティ値をパラメータとしてスクリプトに渡すことができます。たとえば、名前が <b>ActivationKey</b> で値が 1234 のカスタム プロパティがある場合、スクリプト パスは、<b>D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}</b> となります。ゲスト エージェントはコマンド <b>D:\InstallApp.bat -key 1234</b> を実行します。その後、この値を受け入れて使用するようスクリプト ファイルをプログラムできます。</p>
VirtualMachine.SoftwareN.ISOName	<p>データストアのルートに対する ISO ファイルの相対パスおよびファイル名を指定します。形式は <b>&lt;/folder_name/subfolder_name/file_name&gt;.iso</b> です。値が設定されていない場合、ISO はマウントされません。</p>
VirtualMachine.SoftwareN.ISOLocation	<p>アプリケーションまたはスクリプトで使用する ISO イメージ ファイルが含まれるストレージ パスを指定します。ホスト予約で表示されるパスの形式に設定します (例: <b>netapp-1:it_nfs_1</b>)。値が設定されていない場合、ISO はマウントされません。</p>

## リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ

vRealize Automation には、リンク クローン ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

特定の vRealize Automation カスタム プロパティをリンク クローン ブループリントで使用する必要があります。

表 2-6. リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.DiskN.Storage	<p>マシン ディスク &lt;N&gt; を配置するデータストア (たとえば、DATASTORE01) を指定します。このプロパティは、1 つのデータストアをリンク クローン ブループリントに追加するために使用されることもあります。&lt;N&gt; は、割り当てるボリュームのインデックス (0 から開始) です。ボリュームに割り当てるデータストアの名前を入力します。これは、[コンピュート リソースの編集] ページの [ストレージ パス] に表示されるデータストア名です。ディスク番号は連番にする必要があります。</p>
VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy	<p>ディスク &lt;N&gt; のストレージを検出するために使用するストレージ予約ポリシーを指定します。また、名前付きストレージ予約ポリシーをボリュームに割り当てます。このプロパティを使用するには、プロパティ名の &lt;N&gt; をボリューム番号に置き換えて、ストレージ予約ポリシー名をその値として指定します。このプロパティは、ブループリントで指定されているストレージ予約ポリシー名と同等です。ディスク番号は連番にする必要があります。このプロパティは、すべての仮想および vCloud 予約で有効です。このプロパティは、物理、Amazon、または OpenStack 予約では無効です。</p>

表 2-6. リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<b>VirtualMachine.DiskN.Size</b>	<p>ディスク &lt;N&gt; のサイズ (GB) を定義します。たとえば、150 GB のサイズをディスク G に割り当てるには、カスタム プロパティ <b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> を定義し、値として 150 と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。デフォルトで、マシンには <b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> で参照されるディスクが 1 台あります。サイズは、マシンのプロビジョニング元のブループリントにあるストレージ値によって指定されます。ブループリント ユーザー インターフェイスのストレージ値は、<b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> プロパティの値に上書きされます。<b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> プロパティは、ブループリントのストレージ オプションとの関係により、カスタム プロパティとして使用することはできません。</p> <p><b>VirtualMachine.Disk1.Size</b>、<b>VirtualMachine.Disk2.Size</b> のように指定することで、ディスクをさらに追加できます。</p> <p><b>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</b> は、常に <b>.DiskN.Size</b> プロパティと <b>VMware.Memory.Reservation</b> のサイズ割り当ての合計を表します。</p>
<b>VirtualMachine.DiskN.Label</b>	<p>マシンのディスク &lt;N&gt; のラベルを指定します。ディスク ラベルの最大文字数は 32 文字です。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントに対して使用する場合は、ゲスト OS 内でマシンのディスク &lt;N&gt; のラベルを指定します。</p>
<b>VirtualMachine.DiskN.Letter</b>	<p>マシンのディスク <b>N</b> のドライブ文字またはマウント ポイントを指定します。デフォルトは <b>C</b> です。たとえば、ディスク 1 に文字 <b>D</b> を指定するには、カスタム プロパティを <b>VirtualMachine.Disk1.Letter</b> として定義し、値として <b>D</b> と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントと組み合わせて使用する場合、ゲスト エージェントは、この値によって指定されたドライブ文字またはマウント ポイントを使用して、追加ディスク &lt;N&gt; をゲスト OS にマウントします。</p>
<b>MaximumProvisionedMachines</b>	<p>1 つのマシン スナップショットに対するリンク クローンの最大数を指定します。デフォルトは無制限です。</p>
<b>Linux.ExternalScript.Name</b>	<p>オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲスト エージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <b>config.sh</b>)。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。</p> <p>外部スクリプトを指定する場合は、<b>Linux.ExternalScript.LocationType</b> プロパティおよび <b>Linux.ExternalScript.Path</b> プロパティを使用して、その場所も定義する必要があります。</p>
<b>Linux.ExternalScript.LocationType</b>	<p><b>Linux.ExternalScript.Name</b> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。</p> <p>また、<b>Linux.ExternalScript.Path</b> プロパティを使用してスクリプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、<b>Linux.ExternalScript.Server</b> プロパティも使用します。</p>

表 2-6. リンク クローン ブループリント用カスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Linux.ExternalScript.Server</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> で指定された Linux 外部カスタマイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: <code>lab-ad.lab.local</code> )。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカル パスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポート パスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code> )。

クローン作成されたマシンをカスタマイズするためにゲスト エージェントをインストールした場合、一部のカスタム プロパティの使用頻度が高まります。

表 2-7. ゲスト エージェントを使用したクローン マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	クローン作成用テンプレートのサービスとしてゲスト エージェントがインストールされている場合、マシン ブループリントで <code>True</code> に設定すると、そのテンプレートからクローン作成されたマシンのゲスト エージェント サービスが有効になります。マシンを起動すると、ゲスト エージェント サービスが起動します。ゲスト エージェントを無効にする場合は、 <code>False</code> に設定します。 <code>False</code> に設定すると、拡張クローン ワークフローでゲスト OS タスクにゲスト エージェントが使用されなくなり、機能が <code>VMwareCloneWorkflow</code> に制限されます。指定しない場合、または <code>False</code> 以外に設定した場合、拡張クローン ワークフローからゲスト エージェントに作業アイテムが送信されます。
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	カスタマイズが完了してからゲスト OS のカスタマイズが開始するまでの待機時間を指定します。値は HH:MM:SS 形式にする必要があります。値が設定されていない場合、デフォルト値は 1 分 (00:01:00) になります。このカスタム プロパティを含めない場合、ゲスト エージェントの作業アイテムが完了する前に仮想マシンが再起動すると、プロビジョニングに失敗する場合があります。
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	すべてのカスタマイズが完了するまで、プロビジョニング ワークフローで作業アイテムがゲスト エージェントに送信されないようにする場合は、 <code>True</code> に設定します。
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code>	アプリケーションのインストール スクリプトへの完全パスを指定します。このパスは、ゲスト OS で参照される有効な絶対パスにする必要があります。また、スクリプト ファイル名が含まれている必要があります。 パスの文字列に {<CustomPropertyName>} を挿入することで、カスタム プロパティ値をパラメータとしてスクリプトに渡すことができます。たとえば、名前が <code>ActivationKey</code> で値が 1234 のカスタム プロパティがある場合、スクリプト パスは、 <code>D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}</code> となります。ゲスト エージェントはコマンド <code>D:\InstallApp.bat -key 1234</code> を実行します。その後、この値を受け入れて使用するようにスクリプト ファイルをプログラムできます。

## FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、FlexClone ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

表 2-8. FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<b>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</b>	<p>ネットワーク プロファイルの名前を指定します。このネットワーク プロファイルに基づいて、固定 IP アドレスをネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当てたり、クローン作成されたマシンのネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当て可能な固定 IP アドレスの範囲を取得したりします。&lt;N&gt;=0 は最初のデバイス、以降 &lt;N&gt;=1 は 2 番目、2 は 3 番目のデバイスというように指定します。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</b> プロパティを使用する際には、これが指し示すネットワーク プロファイルを使用して、IP アドレスが割り当てられます。ただし、プロビジョニングされたマシンは、ラウンドロビン方式モデルを使用して予約で選択されたネットワークに接続されます。</p> <p>ネットワークが割り当てられた後でこのプロパティ値を変更しても、指定のマシンに割り当てられる IP アドレス値には影響しません。</p> <p>仮想マシンの WIM ベース プロビジョニングでは、このプロパティを使用して、ネットワーク プロファイルおよびネットワーク インターフェイスを指定できます。または、[仮想予約] ページの [ネットワーク] セクションを使用することもできます。さらに、<b>VirtualMachine.NetworkN.Name</b> カスタム プロパティを使用して、ネットワーク インターフェイスを仮想ネットワークに割り当てすることもできます。</p> <p>ネットワーク プロファイルの次の属性を使用して、クローン作成ブループリントで固定 IP アドレスを割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</b></li> </ul> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使わないでください。</p>
<b>Linux.ExternalScript.Name</b>	<p>オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲスト エージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <b>config.sh</b>)。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。</p> <p>外部スクリプトを指定する場合は、<b>Linux.ExternalScript.LocationType</b> プロパティおよび <b>Linux.ExternalScript.Path</b> プロパティを使用して、その場所も定義する必要があります。</p>



表 2-8. FlexClone ブループリントのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<p><b>Linux.ExternalScript.Name</b> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。</p> <p>また、<b>Linux.ExternalScript.Path</b> プロパティを使用してスクリプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、<b>Linux.ExternalScript.Server</b> プロパティも使用します。</p>
<code>Linux.ExternalScript.Server</code>	<p><b>Linux.ExternalScript.Name</b> で指定された Linux 外部カスタマイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: lab-ad.lab.local)。</p>
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	<p>Linux カスタマイズ スクリプトへのローカル パスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポート パスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: /scripts/linux/config.sh)。</p>

次の「ゲスト エージェントを使用した FlexClone マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ」の表では、クローン作成されたマシンをカスタマイズするためにゲスト エージェントをインストールしている場合に、最もよく使用されるプロパティについて説明しています。

表 2-9. ゲスト エージェントを使用した FlexClone マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent</code>	<p>クローン作成用テンプレートのサービスとしてゲスト エージェントがインストールされている場合、マシン ブループリントで <b>True</b> に設定すると、そのテンプレートからクローン作成されたマシンのゲスト エージェント サービスが有効になります。マシンを起動すると、ゲスト エージェント サービスが起動します。ゲスト エージェントを無効にする場合は、<b>False</b> に設定します。<b>False</b> に設定すると、拡張クローン ワークフローでゲスト OS タスクにゲスト エージェントが使用されなくなり、機能が<b>VMwareCloneWorkflow</b>に制限されます。指定しない場合、または <b>False</b> 以外に設定した場合、拡張クローン ワークフローからゲスト エージェントに作業アイテムが送信されます。</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.Size</code>	<p>ディスク &lt;N&gt; のサイズ (GB) を定義します。たとえば、150 GB のサイズをディスク G に割り当てるには、カスタム プロパティ <b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> を定義し、値として 150 と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。デフォルトで、マシンには<b>VirtualMachine.Disk0.Size</b>で参照されるディスクが1台あります。サイズは、マシンのプロビジョニング元のブループリントにあるストレージ値によって指定されます。ブループリント ユーザー インターフェイスのストレージ値は、<b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> プロパティの値に上書きされます。<b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> プロパティは、ブループリントのストレージ オプションとの関係により、カスタム プロパティとして使用することはできません。<b>VirtualMachine.Disk1.Size</b>、<b>VirtualMachine.Disk2.Size</b> のように指定することで、ディスクをさらに追加できます。<b>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</b> は、常に <b>.DiskN.Size</b> プロパティと <b>VMware.Memory.Reservation</b> のサイズ割り当ての合計を表します。</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.Label</code>	<p>マシンのディスク &lt;N&gt; のラベルを指定します。ディスク ラベルの最大文字数は 32 文字です。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントに対して使用の場合は、ゲスト OS 内でマシンのディスク &lt;N&gt; のラベルを指定します。</p>

表 2-9. ゲスト エージェントを使用した FlexClone マシンのカスタマイズに必要なカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.Letter</code>	マシンのディスク <b>N</b> のドライブ文字またはマウント ポイントを指定します。デフォルトは <b>C</b> です。たとえば、ディスク 1 に文字 <b>D</b> を指定するには、カスタム プロパティを <b>VirtualMachine.Disk1.Letter</b> として定義し、値として <b>D</b> と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントと組み合わせて使用する場合、ゲスト エージェントは、この値によって指定されたドライブ文字またはマウント ポイントを使用して、追加ディスク <N> をゲスト OS にマウントします。
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	カスタマイズが完了してからゲスト OS のカスタマイズが開始するまでの待機時間を指定します。値は HH:MM:SS 形式にする必要があります。値が設定されていない場合、デフォルト値は 1 分 (00:01:00) になります。このカスタム プロパティを含めない場合、ゲスト エージェントの作業アイテムが完了する前に仮想マシンが再起動すると、プロビジョニングに失敗する場合があります。
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	すべてのカスタマイズが完了するまで、プロビジョニング ワークフローで作業アイテムがゲスト エージェントに送信されないようにする場合は、 <b>True</b> に設定します。
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code>	アプリケーションのインストール スクリプトへの完全パスを指定します。このパスは、ゲスト OS で参照される有効な絶対パスにする必要があります。また、スクリプト ファイル名が含まれている必要があります。  パスの文字列に {<CustomPropertyName>} を挿入することで、カスタム プロパティ値をパラメータとしてスクリプトに渡すことができます。たとえば、名前が <b>ActivationKey</b> で値が 1234 のカスタム プロパティがある場合、スクリプト パスは、 <b>D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}</b> となります。ゲスト エージェントはコマンド <b>D:\InstallApp.bat -key 1234</b> を実行します。その後、この値を受け入れて使用するようスクリプト ファイルをプログラムできます。

## 基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、基本ワークフロー ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

表 2-10. 基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.CDRom.Attach</code>	CD-ROM デバイスを使用せずにマシンをプロビジョニングする場合は、 <b>False</b> に設定します。デフォルトは <b>True</b> です。
<code>VirtualMachine.Admin.ThinProvision</code>	ローカル ストレージまたは iSCSI ストレージを使用する ESX コンピュータ リソースでシン プロビジョニングを使用するかどうかを決定します。シン プロビジョニングを使用する場合は、 <b>True</b> に設定します。標準のプロビジョニングを使用する場合は、 <b>False</b> に設定します。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy</code>	ディスク <N> のストレージを検出するために使用するストレージ予約ポリシーを指定します。また、名前付きストレージ予約ポリシーをボリュームに割り当てます。このプロパティを使用するには、プロパティ名の <N> をボリューム番号に置き換えて、ストレージ予約ポリシー名をその値として指定します。このプロパティは、ブループリントで指定されているストレージ予約ポリシー名と同等です。ディスク番号は連番にする必要があります。このプロパティは、すべての仮想および vCloud 予約で有効です。このプロパティは、物理、Amazon、または OpenStack 予約では無効です。
<code>VirtualMachine.Storage.AllocationType</code>	収集したグループを単一データストアに保存します。分散環境では、ラウンドロビン方式でディスクが保存されます。

表 2-10. 基本ワークフロー ブループリントのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Storage.Name</code>	マシンが存在するストレージパスを識別します。デフォルトは、マシンのプロビジョニングで使用された予約で指定されている値です。
<code>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</code>	vSwap ストレージ割り当てを管理して可用性を確保し、予約で割り当てを設定する場合は、True に設定します。vSwap 割り当ては、仮想マシンを作成または再構成するときに考慮されます。vSwap 割り当てチェックは、vSphere エンドポイントでのみ使用できます。 注意 vRealize Automation からマシンを作成またはプロビジョニングするときに <b>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</b> カスタム プロパティを指定しないと、スワップ容量の可用性は確保されません。すでにプロビジョニング済みのマシンにこのプロパティを追加するときに、割り当て済みの予約がいっぱいになっていると、予約での割り当てストレージが実際の割り当てストレージの容量を超過する可能性があります。
<code>VMware.Hardware.Version</code>	vSphere 設定で使用する仮想マシン ハードウェア バージョンを指定します。現在サポートされている値は、vmx-04、vmx-07、vmx-08、vmx-09 および vmx-10 です。このプロパティは、仮想マシンの作成フローおよびアップデートフローに適用され、基本ワークフローのブループリントでのみ使用できます。

## Linux キックスタート ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、Linux キックスタート ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

特定の vRealize Automation カスタム プロパティを、Linux キックスタート ブループリントで使用する必要があります。

表 2-11. Linux キックスタート ブループリントの必須カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	vCenter Server がマシンの作成時に使用する vCenter Server ゲスト OS のバージョン ( <b>VirtualMachineGuestOsIdentifier</b> ) を指定します。このオペレーティングシステムのバージョンは、プロビジョニングされたマシンにインストールされるオペレーティングシステムのバージョンと一致する必要があります。管理者は、いずれかのプロパティ セット (正しい <b>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</b> 値が含まれるように事前定義された <b>VMware[OS_Version]Properties</b> など) を使用してプロパティ グループを作成できます。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。 関連情報については、vSphere API/SDK ドキュメントにある列挙タイプ <b>VirtualMachineGuestOsIdentifier</b> を参照してください。現在使用できる値のリストについては、vCenter Server のドキュメントを参照してください。
<code>Image.ISO.Location</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例: <a href="http://192.168.2.100/site2/winpe.iso">http://192.168.2.100/site2/winpe.iso</a> )。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。

表 2-11. Linux キックスタート ブループリントの必須カスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Image.ISO.Name</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: <code>/ISO/Microsoft/WinPE.iso</code> )。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
<code>Image.ISO.UserName</code>	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、 <code>&lt;username@domain&gt;</code> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<code>Image.ISO.Password</code>	<code>Image.ISO.UserName</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。

オプションのカスタム プロパティも用意されています。

表 2-12. Linux キックスタート ブループリント用のオプションのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.ThinProvision</code>	ローカル ストレージまたは iSCSI ストレージを使用する ESX コンピュータ リソースでシン プロビジョニングを使用するかどうかを決定します。シン プロビジョニングを使用する場合は、 <code>True</code> に設定します。標準のプロビジョニングを使用する場合は、 <code>False</code> に設定します。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。
<code>Machine.SSH</code>	このブループリントからプロビジョニングされた Linux マシンの vRealize Automation の [アイテム] ページにある [SSH を使用して接続] オプションを有効にするには、 <code>True</code> に設定します。 <code>True</code> に設定して、[RDP または SSH を使用した接続] によるマシン操作をブループリントで有効にした場合、ブループリントからプロビジョニングされるすべての Linux マシンが、[SSH を使用して接続] オプションを資格のあるユーザーに表示します。  [SSH を使用して接続] オプションを使用するには、SSH をサポートするプラグインがブラウザにインストールされている必要があります (たとえば、Mozilla Firefox および Google Chrome 用の FireSSH SSH ターミナル クライアント)。プラグインが存在する場合、[SSH を使用して接続] を選択すると、SSH コンソールが開き、管理者の認証情報の入力が求められます。

## SCCM ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、SCCM ブループリントの制御に使用できるカスタム プロパティが含まれます。

SCCM ブループリントでは、特定のカスタム プロパティを使用する必要があります。

表 2-13. SCCM ブループリントの必須カスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Image.ISO.Location</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例: <code>http://192.168.2.100/site2/winpe.iso</code> )。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
<code>Image.ISO.Name</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: <code>/ISO/Microsoft/WinPE.iso</code> )。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
<code>Image.ISO.UserName</code>	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、 <code>&lt;username@domain&gt;</code> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<code>Image.ISO.Password</code>	<code>Image.ISO.UserName</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<code>SCCM.Collection.Name</code>	オペレーティングシステムの展開タスク シーケンスが含まれる SCCM コレクションの名前を指定します。
<code>SCCM.Server.Name</code>	このコレクションが存在する SCCM サーバの完全修飾ドメイン名を指定します (例: <code>lab-sccm.lab.local</code> )。
<code>SCCM.Server.SiteCode</code>	SCCM サーバのサイト コードを指定します。
<code>SCCM.Server.UserName</code>	SCCM サーバに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。
<code>SCCM.Server.Password</code>	<code>SCCM.Server.UserName</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。

SCCM ブループリントでは、特定のカスタム プロパティを頻繁に使用します。

表 2-14. SCCM ブループリントによく使用されるカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>SCCM.CustomVariable.&lt;Name&gt;</code>	カスタム変数の値を指定します。 <code>&lt;Name&gt;</code> は、プロビジョニングされたマシンが SCCM コレクションに登録された後で SCCM タスク シーケンスが使用できるカスタム変数の名前です。値は、選択するカスタム変数によって決まります。統合で必要になる場合は、 <code>SCCM.RemoveCustomVariablePrefix</code> を使用して、カスタム変数から <code>SCCM.CustomVariable.</code> プリフィックスを削除できます。
<code>SCCM.RemoveCustomVariablePrefix</code>	カスタム プロパティ <code>SCCM.CustomVariable.&lt;Name&gt;</code> を使用して作成した SCCM カスタム変数から <code>SCCM.CustomVariable.</code> プリフィックスを削除するには、 <code>&lt;true&gt;</code> に設定します。

## WIM ブループリントのカスタム プロパティ

vRealize Automation には、WIM ブループリント用の追加の制御を提供するカスタム プロパティが含まれます。

WIM ブループリントには、特定の vRealize Automation カスタム プロパティが必要です。

表 2-15. WIM ブループリントに必要なカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Image.ISO.Location</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例: <code>http://192.168.2.100/site2/winpe.iso</code> )。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
<code>Image.ISO.Name</code>	このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: <code>/ISO/Microsoft/WinPE.iso</code> )。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。
<code>Image.ISO.UserName</code>	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、 <code>&lt;username@domain&gt;</code> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<code>Image.ISO.Password</code>	<code>Image.ISO.UserName</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<code>Image.Network.Letter</code>	プロビジョニングされたマシンで WIM イメージ パスがマッピングされているドライブを示す文字を指定します。デフォルト値は K です。
<code>Image.WIM.Path</code>	WIM ベースのプロビジョニングでイメージの展開元となる WIM ファイルの UNC パスを指定します。パスの形式は <code>\\&lt;server&gt;\&lt;share\$&gt;</code> となります (例: <code>\\lab-ad\dfs\$</code> )。
<code>Image.WIM.Name</code>	<code>Image.WIM.Path</code> プロパティによって配置された WIM ファイルの名前を指定します (例: <code>win2k8.wim</code> )。
<code>Image.WIM.Index</code>	WIM ファイルから正しいイメージを展開するために使用されるインデックスを指定します。
<code>Image.Network.User</code>	プロビジョニングされたマシン上のネットワーク ドライブに WIM イメージ パス ( <code>Image.WIM.Path</code> ) をマッピングするために使用されるユーザー名を指定します。これは、通常、ネットワーク共有へのアクセス権限があるドメイン アカウントです。
<code>Image.Network.Password</code>	<code>Image.Network.User</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。

表 2-15. WIM ブループリントに必要なカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.Admin.Owner	マシン所有者のユーザー名を指定します。
VMware.VirtualCenter.OperatingSystem	<p>vCenter Server がマシンの作成時に使用する vCenter Server ゲスト OS のバージョン (<b>VirtualMachineGuestOsIdentifier</b>) を指定します。このオペレーティング システムのバージョンは、プロビジョニングされたマシンにインストールされるオペレーティング システムのバージョンと一致する必要があります。管理者は、いずれかのプロパティ セット (正しい <b>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</b> 値が含まれるように事前定義された <b>VMware[OS_Version]Properties</b> など) を使用してプロパティ グループを作成できます。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。</p> <p>関連情報については、vSphere API/SDK ドキュメントにある列挙タイプ <b>VirtualMachineGuestOsIdentifier</b> を参照してください。現在使用できる値のリストについては、vCenter Server のドキュメントを参照してください。</p>

WIM ブループリントでは、オプションのカスタム プロパティも使用できます。

表 2-16. WIM ブループリントに共通するカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
SysPrep.<Section.Key> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SysPrep.GuiUnattended.AdminPassword</li> <li>■ SysPrep.GuiUnattended.EncryptedAdminPassword</li> <li>■ SysPrep.GuiUnattended.TimeZone</li> </ul>	<p>プロビジョニングの WinPE ステージで、マシン上の SysPrep 応答ファイルに追加する情報を指定します。SysPrep 応答ファイルにすでに存在する情報は、これらのカスタム プロパティで上書きされます。&lt;Section&gt; は、SysPrep 応答ファイルのセクションの名前を表します。たとえば、GuiUnattended や UserData のように指定します。&lt;Key&gt; は、セクション内のキー名を表します。たとえば、プロビジョニングされたマシンのタイムゾーンを西太平洋標準時に設定するには、カスタム プロパティ <b>GuiUnattended.UserData.TimeZone</b> を定義し、値を 275 に設定します。</p> <p>セクション、キー、および指定できる値の詳細な一覧については、System Preparation Utility for Windows のドキュメントを参照してください。</p> <p>次に示す &lt;Section.Key&gt; ペアは、WIM ベース プロビジョニングに対して指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ GuiUnattended               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ AdminPassword</li> <li>■ EncryptedAdminPassword</li> <li>■ TimeZone</li> </ul> </li> <li>■ UserData               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ProductKey</li> <li>■ FullName</li> <li>■ ComputerName</li> <li>■ OrgName</li> </ul> </li> <li>■ 識別名               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DomainAdmin</li> <li>■ DomainAdminPassword</li> <li>■ JoinDomain</li> <li>■ JoinWorkgroup</li> </ul> </li> </ul>
Sysprep.Identification.DomainAdmin	<p>Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。</p>

表 2-16. WIM ブループリントに共通するカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>Sysprep.Identification.DomainAdminPassword</code>	<code>Sysprep.Identification.DomainAdmin</code> プロパティに関連付けるパスワードを指定します。
<code>Sysprep.Identification.JoinDomain</code>	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。
<code>Sysprep.Identification.JoinWorkgroup</code>	ドメインを使用しない場合は、参加させるワークグループの名前を指定します。
<code>SysPrep.UserData.ComputerName</code>	マシン名を指定します (例: lab-client005)。
<code>SysPrep.UserData.FullName</code>	ユーザーの氏名を指定します。
<code>SysPrep.UserData.OrgName</code>	ユーザーの組織名を指定します。
<code>SysPrep.UserData.ProductKey</code>	Windows のプロダクト キーを指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.ThinProvision</code>	ローカル ストレージまたは iSCSI ストレージを使用する ESX コンピュータ リソースでシン プロビジョニングを使用するかどうかを決定します。シン プロビジョニングを使用する場合は、True に設定します。標準のプロビジョニングを使用する場合は、False に設定します。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。

## vCloud Air および vCloud Director のブループリントのカスタム プロパティ

特定のカスタム プロパティを、ブループリント内の vCloud Air または vCloud Director のマシン コンポーネント定義に追加できます。

[ネットワーク] または [セキュリティ] タブが表示されないマシン コンポーネントの場合は、`VirtualMachine.Network0.Name` などのネットワークおよびセキュリティのカスタム プロパティを、ブループリント キャンパスの [プロパティ] タブに追加できます。NSX ロード バランサ プロパティは、vSphere マシンのみに適用可能です。

表 2-17. ブループリント キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Sysprep.Identification.DomainAdmin</code>	Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。
<code>Sysprep.Identification.DomainAdminPassword</code>	<code>Sysprep.Identification.DomainAdmin</code> プロパティに関連付けるパスワードを指定します。
<code>Sysprep.Identification.JoinDomain</code>	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。
<code>VirtualMachine.DiskN.IsFixed</code>	マシンの再構成時に特定のディスクを編集することを無効にします。特定のボリュームの編集容量オプションの表示を無効にする場合は、True に設定します。値 True の大文字と小文字は区別されます。<N> 値は、ディスクの 0 ベース インデックスです。 あるいは、データベースの VirtualMachineProperties テーブルで <code>VirtualMachine.Disk&lt;N&gt;.IsFixed</code> カスタム プロパティを True に設定するか、リポジトリ API を使用して、 <code>../Repository/Data/ManagementModelEntities.svc/VirtualMachines(guid'60D93A8A-F541-4CE0-A6C6-78973AC0F1D2')/VirtualMachineProperties</code> などの URI 値を指定することができます。



表 2-17. ブループリント キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy</code>	ディスク <N> のストレージを検出するために使用するストレージ予約ポリシーを指定します。また、名前付きストレージ予約ポリシーをボリュームに割り当てます。このプロパティを使用するには、プロパティ名の <N> をボリューム番号に置き換えて、ストレージ予約ポリシー名をその値として指定します。このプロパティは、ブループリントで指定されているストレージ予約ポリシー名と同等です。ディスク番号は連番にする必要があります。このプロパティは、すべての仮想および vCloud 予約で有効です。このプロパティは、物理、Amazon、または OpenStack 予約では無効です。
<code>VirtualMachine.EULA.AcceptAll</code>	vCloud Air または vCloud Director エンドポイントの仮想マシンテンプレートの EULA すべてがプロビジョニング中に承諾されるように指定するには、true に設定します。
<code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code>	<p>接続先のネットワークの名前、たとえばマシンの接続先のネットワーク デバイス &lt;N&gt; を指定します。これは、ネットワーク インターフェイス カード (NIC) と同等です。</p> <p>デフォルトの場合、マシンがプロビジョニングされる予約で利用できるネットワーク パスからネットワークが割り当てられます。<b>[VirtualMachine.NetworkN.AddressType]</b> も参照してください。</p> <p>ネットワーク デバイスが確実に特定のネットワークに接続されるようにするには、このプロパティの値を使用可能な予約のネットワーク名に設定します。たとえば、プロパティを <code>N=0</code> および <code>N=1</code> と指定すると、関連付けられている予約でネットワークが選択されている場合には、2 つの NIC とその割り当て値が得られます。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、ブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p> <p>このプロパティは、ブループリントにある vCloud Air または vCloud Director マシン コンポーネントに追加できます。</p> <p>詳細については、「<a href="#">ネットワークのカスタム プロパティ (P. 35)</a>」を参照してください。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.AddressType</code>	<p>ネットワーク プロバイダに対して IP アドレスを割り当てる方法を指定します。ここでの <code>Network&lt;N&gt;</code> は 0 から始まるネットワーク番号です。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DHCP</li> <li>■ Static</li> <li>■ MANUAL (vCloud Air と vCloud Director でのみ使用可能)</li> </ul> <p>このプロパティは、ブループリントにおいて、vCloud Air、vCloud Director、および vSphere マシン コンポーネントを構成する場合に使用できます。</p> <p><b>[VirtualMachine.NetworkN.Name]</b> も参照してください。</p>

表 2-17. ブループリント キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu</code>	<p>マシンの再構成アクションで指定されたマシンが再起動されるように指定するには、<code>true</code> に設定します。デフォルトでは、マシンの再構成アクション時にマシンは再起動されません。</p> <p>CPU、メモリ、またはストレージのホット アドを実行すると、vSphere でマシンまたはテンプレートの <b>Hot Add</b> 設定が有効になっていなければ、マシンの再構成アクションに失敗し、マシンが再起動されません。</p> <p><b>VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu=true</b> を vRealize Automation ブループリントのマシン コンポーネントに追加して <b>Hot Add</b> 設定を無効にし、vSphere の <b>Hot Add</b> 設定に関係なくマシンを強制的に再起動することができます。このカスタム プロパティは、ハードウェアの再構成をサポートするマシン タイプ、すなわち vSphere、vCloud Air、および vCloud Director でのみ使用できます。</p>
<code>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</code>	<p>vCloud Director または vCloud Air でプロビジョニングされたマシンで、vCloud Director または vCloud Air でその期間内に有効期限が切れるように設定されている場合にのみ vCloud Director と vRealize Automation 間のリースの同期が行われるように、コンピュート リソースの整数のしきい値を指定します。競合が見つかった場合、リース値は vRealize Automation で定義されているリースの長さに合わせて同期されます。</p> <p><b>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</b> のデフォルト値は 720 分 (12 時間) です。</p> <p><b>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</b> が存在しない場合、デフォルト値が使用されます。たとえば、デフォルト値が使用される場合、vRealize Automation によってリースの同期チェック ワークフローが 45 分 (ワークフローのデフォルト) ごとに実行され、12 時間以内に有効期限が切れるように設定されたマシンのリースのみが、vRealize Automation で定義されているリースの長さに合わせて変更されます。</p>
<code>VCloud.Owner.UseEndpointAccount</code>	<p>プロビジョニングおよびインポート操作で vCloud Air または vCloud Director のマシン所有者としてエンドポイント アカウントを割り当てる場合は、<code>true</code> に設定します。所有権の変更操作の場合、その所有者はエンドポイントでは変更されません。指定しなかったり、<code>false</code> に設定されていたりする場合、vRealize Automation の所有者はマシン所有者です。</p>
<code>VCloud.Template.MakeIdenticalCopy</code>	<p>マシン プロビジョニングで vCloud Air または vCloud Director テンプレートの同一コピーをクローン作成する場合は、<code>true</code> に設定します。マシンは、テンプレートの同一コピーとしてプロビジョニングされます。ストレージ パスを含め、テンプレートで指定される設定は、ブループリントで指定される設定より優先されます。テンプレートからの唯一の変更点は、ブループリントで指定されたマシンプリフィックスから生成される、クローン作成されたマシンの名前です。</p> <p>同一コピーとしてプロビジョニングされる vCloud Air または vCloud Director マシンでは、vRealize Automation 予約では使用することができないネットワークとストレージ プロファイルを使用できます。不明な予約の割り当てが発生するのを防止するため、テンプレートで指定されているストレージ プロファイルまたはネットワークが予約に含まれていることを確認してください。</p>

表 2-17. ブループリント キャンパス内の vCloud Air および vCloud Director のマシン コンポーネント用のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<b>VMware.SCSI.Sharing</b>	<p>マシンの VMware SCSI バスの共有モードを指定します。使用可能な値は、<b>VirtualSCSISharing</b> ENUM 値に基づいており、noSharing、physicalSharing、および virtualSharing などが含まれます。</p> <p><b>VMware.SCSI.Sharing</b> プロパティは、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローでは使用できません。ブループリント デザイン キャンパスでマシン コンポーネントを設定するときに、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローを指定する場合は、<b>VMware.SCSI.Sharing</b> プロパティを使用できません。</p>
<b>VMware.SCSI.Type</b>	<p>ブループリントの vCloud Air、vCloud Director、または vSphere マシン コンポーネントの場合は、以下の値のいずれかを使用して、SCSI マシン タイプを指定します (大文字と小文字は区別されます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ buslogic 仮想ディスクに BusLogic エミュレーションを使用します。</li> <li>■ lsilogic 仮想ディスクに LSILogic エミュレーションを使用します (デフォルト)。</li> <li>■ lsilogicsas 仮想ディスクに LSILogic SAS 1068 エミュレーションを使用します。</li> <li>■ pvscsi 仮想ディスクに準仮想化エミュレーションを使用します。</li> <li>■ none このマシンの SCSI コントローラが存在しない場合に使用します。</li> </ul> <p><b>VMware.SCSI.Type</b> プロパティは、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローでは使用できません。ブループリント デザイン キャンパスでマシン コンポーネントを設定するときに、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローを指定する場合は、<b>VMware.SCSI.Type</b> プロパティを使用できません。</p>

## ネットワークのカスタム プロパティ

ネットワークの vRealize Automation カスタム プロパティでは、マシン上の特定のネットワーク デバイスの構成を指定します。

マシンの割り当て中に、ネットワーク割り当てが実行されます。vRealize Automation は、ブループリントからネットワーク情報を取得します。複数のネットワークを割り当てる場合は、マシン ブループリントの **VirtualMachine.NetworkN.Name** カスタム プロパティを使用します。カスタム プロパティを指定しない場合、ラウンド ロビン方式と選択された予約を併用して選ばれた、1 つのネットワークのみが割り当てられます。

[ネットワーク] または [セキュリティ] タブが表示されないマシン コンポーネントの場合は、**VirtualMachine.Network0.Name** などのネットワークおよびセキュリティのカスタム プロパティを、ブループリント キャンパスの [プロパティ] タブに追加できます。NSX ロード バランサ プロパティは、vSphere マシンのみに適用可能です。

注意 この情報は Amazon Web Services には適用されません。

マシンには、デフォルトで、**VirtualMachine.Network0.Name** プロパティを使用して構成された 1 つのネットワーク デバイスがあります。追加のネットワーク デバイスは、**VirtualMachine.NetworkN.Name** カスタム プロパティを使用して設定します (<N> はネットワーク番号です)。

注意 サポートされていないオンデマンド ネットワークを示す、ネットワークに固有のカスタム プロパティ。たとえば、オンデマンド NAT およびオンデマンドルーティング ネットワーク コンポーネントに対して

**VirtualMachine.Network0.NetworkProfileName** のようなネットワーク カスタム プロパティを使用することはできません。

ネットワーク プロパティの番号は、0 から始まる連番である必要があります。たとえば、**VirtualMachine.Network0** と **VirtualMachine.Network2** にだけカスタム プロパティを指定すると、**VirtualMachine.Network2** のプロパティは無視されます。これは、1 つ前のネットワーク **VirtualMachine.Network1** が指定されなかったためです。

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<b>VirtualMachine.NetworkN.Address</b>	<p>固定 IP アドレスを使用してプロビジョニングされるマシンのネットワーク デバイス &lt;N&gt; の IP アドレスを指定します。</p> <p>Amazon については、<b>「Amazon.elasticIpAddress.ipAddress」</b> を参照してください。</p>
<b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</b>	<p>これにより、ネットワーク デバイス &lt;N&gt; の MAC アドレスが生成されるのか、またはユーザー定義（固定）なのかを指定します。このプロパティは、クローン作成で使用できます。</p> <p>デフォルト値は <b>generated</b> です。値が <b>static</b> の場合は、<b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddress</b> を使用して MAC アドレスも指定する必要があります。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p>
<b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddress</b>	<p>ネットワーク デバイス &lt;N&gt; の MAC アドレスを指定します。このプロパティは、クローン作成で使用できます。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</b> の値が <b>generated</b> の場合、このプロパティには生成されたアドレスが含まれます。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</b> の値が <b>static</b> の場合は、このプロパティで MAC アドレスを指定します。ESX Server ホストでプロビジョニングされた仮想マシンの場合、アドレスは、VMware で指定された範囲内に収まっている必要があります。詳細については、vSphere のドキュメントを参照してください。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p>

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<b>VirtualMachine.NetworkN.Name</b>	<p>接続先のネットワークの名前、たとえばマシンの接続先のネットワーク デバイス &lt;N&gt; を指定します。これは、ネットワーク インターフェイス カード (NIC) と同等です。</p> <p>デフォルトの場合、マシンがプロビジョニングされる予約で使用できるネットワーク パスからネットワークが割り当てられます。<b>VirtualMachine.NetworkN.AddressType</b> も参照してください。</p> <p>ネットワーク デバイスが確実に特定のネットワークに接続されるようにするには、このプロパティの値を使用可能な予約のネットワーク名に設定します。たとえば、プロパティを <b>N=0</b> および <b>N=1</b> と指定すると、関連付けられている予約でネットワークが選択されている場合には、2 つの NIC とその割り当て値が得られます。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、ブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使わないでください。</p> <p>このプロパティは、ブループリントにある vCloud Air または vCloud Director マシン コンポーネントに追加できます。</p>
<b>VirtualMachine.NetworkN.PortID</b>	<p>vSphere Distributed Switch で dvPort グループを使用する場合、ネットワーク デバイス &lt;N&gt; で使用するポート ID を指定します。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使わないでください。</p>

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code>	<p>ネットワーク プロファイルの名前を指定します。このネットワーク プロファイルに基づいて、固定 IP アドレスをネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当てたり、クローン作成されたマシンのネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当て可能な固定 IP アドレスの範囲を取得したりします。&lt;N&gt;=0 は最初のデバイス、以降 &lt;N&gt;=1 は 2 番目、2 は 3 番目のデバイスというように指定します。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</b> プロパティを使用する際には、これが指し示すネットワーク プロファイルを使用して、IP アドレスが割り当てられます。ただし、プロビジョニングされたマシンは、ラウンド ロビン方式モデルを使用して予約で選択されたネットワークに接続されます。</p> <p>ネットワークが割り当てられた後でこのプロパティ値を変更しても、指定のマシンに割り当てられる IP アドレス値には影響しません。</p> <p>仮想マシンの WIM ベース プロビジョニングでは、このプロパティを使用して、ネットワーク プロファイルおよびネットワーク インターフェイスを指定できます。または、[仮想予約] ページの [ネットワーク] セクションを使用することもできます。さらに、<b>VirtualMachine.NetworkN.Name</b> カスタム プロパティを使用して、ネットワーク インターフェイスを仮想ネットワークに割り当てすることもできます。</p> <p>ネットワーク プロファイルの次の属性を使用して、クローン作成ブループリントで固定 IP アドレスを割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</b></li> </ul> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使わないでください。</p> <p>このカスタム プロパティは、オンデマンド NAT やオンデマンドルーティング ネットワークのプロファイル名を定義するためには使用できません。オンデマンド ネットワーク プロファイル名は割り当て時 (プロビジョニング中) に生成されるため、ブループリントの作成または編集中にはそれらの名前はまだ不明です。NSX オンデマンド ネットワーク情報を指定するには、vSphere マシン コンポーネント用のブループリント デザイン キャンバスで該当するネットワーク コンポーネントを使用します。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</b></li> <li>■ <b>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</b></li> </ul>	<p><b>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</b> で指定されたネットワーク プロファイルの属性を構成します。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使わないでください。</p>

表 2-18. ネットワーク設定のカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.<name>	<p>プロビジョニング中に仮想マシンが割り当てられる vCloud Networking and Security ロード バランシング プールを指定します。仮想マシンは、指定したすべてのプールの全サービスポートに割り当てられます。値は &lt;edge/pool&gt; 名またはコンマで区切られた &lt;edge/pool&gt; 名のリストになります。名前の大文字と小文字は区別されます。</p> <p>注意 VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names のカスタム プロパティを使用して、マシン IP アドレスを既存のロード バランサに追加できます。vRealize Automation および NSX は、指定の Edge ロード バランサ プールの最初のメンバーを使用し、新しいメンバー ポートを特定してポート設定を監視します。ただし、NSX 6.2 ではメンバーのポート設定を指定する必要がありません。NSX 6.2 で VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names を使用して、マシンを既存のプールに追加する場合にプロビジョニングが失敗しないように、NSX でロード バランサ プールの最初のメンバーにポート値を指定する必要があります。</p> <p>名前を追加すると、複数のバージョンのカスタム プロパティを作成できます。たとえば、次のプロパティでは、一般用途向けに設定されるロード バランシング プールや、高、中、低のパフォーマンス要件があるマシンに設定されるロード バランシング プールを一覧表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names</li> <li>■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.moderate</li> <li>■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.high</li> <li>■ VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.low</li> </ul>
VCNS.SecurityGroup.Names.<name>	<p>プロビジョニング中に仮想マシンが割り当てられる 1 つ以上の vCloud Networking and Security セキュリティ グループを指定します。値はセキュリティ グループ名またはコンマで区切られた名前のリストになります。名前の大文字と小文字は区別されます。</p> <p>名前を追加すると、複数のバージョンのプロパティを作成できます。これは、個別に使用することも、組み合わせて使用することもできます。たとえば、次のプロパティでは、一般用途、販売部、およびサポートのためのセキュリティ グループを一覧表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ VCNS.SecurityGroup.Names</li> <li>■ VCNS.SecurityGroup.Names.sales</li> <li>■ VCNS.SecurityGroup.Names.support</li> </ul>
VCNS.SecurityTag.Names.<name>	<p>プロビジョニング中に仮想マシンが関連付けられる 1 つ以上の vCloud Networking and Security セキュリティ タグを指定します。この値は、セキュリティ タグの 1 つの名前、またはコンマ区切りの名前のリストです。名前の大文字と小文字は区別されます。</p> <p>名前を追加すると、複数のバージョンのプロパティを作成できます。これは、個別に使用することも、組み合わせて使用することもできます。たとえば、次のプロパティでは、一般用途、販売部、およびサポートのためのセキュリティ タグを一覧表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ VCNS.SecurityTag.Names</li> <li>■ VCNS.SecurityTag.Names.sales</li> <li>■ VCNS.SecurityTag.Names.support</li> </ul>

## PXE プロビジョニングのカスタム プロパティ

PXE は、Cisco UCS Manager でサポートされている唯一のプロビジョニング方法です。ネットワーク ブートストラップ プログラムと vRealize Automation カスタム プロパティを併用して、WIM、SCCM、または Linux キックスタート プロビジョニングを開始できます。またカスタム プロパティを使用して、独自の PowerShell スクリプトを呼び出すこともできます。Linux キックスタート プロビジョニングでは、カスタム プロパティは必要ありません。

### PowerShell スクリプトを使用したプロビジョニングのカスタム プロパティ

これらのプロパティを使用して、PowerShell スクリプトを呼び出すことができます。

表 2-19. PowerShell スクリプトを呼び出すためのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Pxe.Setup.ScriptName</code>	PXE ネットワーク起動プログラムを使用して開始する前に、マシン上で実行するカスタム EPI PowerShell スクリプトを指定します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: <code>setup.ps1</code> )。
<code>Pxe.Clean.ScriptName</code>	vRealize Automation Model Manager にインストールされた EPI PowerShell スクリプトの名前を指定し、マシンのプロビジョニング後にマシン上で実行します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: <code>clean.ps1</code> )。

### PXE および SCCM プロビジョニングのカスタム プロパティ

これらのプロパティを使用して、PXE および SCCM プロビジョニングを実行できます。

表 2-20. PXE および SCCM プロビジョニングのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>SCCM.Collection.Name</code>	オペレーティングシステムの展開タスク シーケンスが含まれる SCCM コレクションの名前を指定します。
<code>SCCM.Server.Name</code>	このコレクションが存在する SCCM サーバの完全修飾ドメイン名を指定します (例: <code>lab-sccm.lab.local</code> )。
<code>SCCM.Server.SiteCode</code>	SCCM サーバのサイト コードを指定します。
<code>SCCM.Server.UserName</code>	SCCM サーバに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。
<code>SCCM.Server.Password</code>	<code>SCCM.Server.UserName</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<code>SCCM.CustomVariable.</code>	カスタム変数の値を指定します。<Name> は、プロビジョニングされたマシンが SCCM コレクションに登録された後で SCCM タスク シーケンスが使用できるカスタム変数の名前です。値は、選択するカスタム変数によって決まります。統合で必要になる場合は、 <code>SCCM.RemoveCustomVariablePrefix</code> を使用して、カスタム変数から <code>SCCM.CustomVariable.</code> プリフィックスを削除できます。

### PXE および WIM プロビジョニングのカスタム プロパティ

これらのプロパティを使用して、PXE および WIM プロビジョニングを実行できます。



表 2-21. PXE および WIM プロビジョニングのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
<code>Image.Network.Letter</code>	プロビジョニングされたマシンで WIM イメージ パスがマッピングされているドライブを示す文字を指定します。デフォルト値は K です。
<code>Image.WIM.Path</code>	WIM ベースのプロビジョニングでイメージの展開元となる WIM ファイルの UNC パスを指定します。パスの形式は \\<server>\<share\$> となります (例: \\lab-ad\dfs\$)。
<code>Image.WIM.Name</code>	<code>Image.WIM.Path</code> プロパティによって配置された WIM ファイルの名前を指定します (例: win2k8.wim)。
<code>Image.WIM.Index</code>	WIM ファイルから正しいイメージを展開するために使用されるインデックスを指定します。
<code>Image.Network.User</code>	プロビジョニングされたマシン上のネットワーク ドライブに WIM イメージパス ( <code>Image.WIM.Path</code> ) をマッピングするために使用されるユーザー名を指定します。これは、通常、ネットワーク共有へのアクセス権限があるドメイン アカウントです。
<code>Image.Network.Password</code>	<code>Image.Network.User</code> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<b>SysPrep.&lt;Section.Key&gt;</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>SysPrep.GuiUnattended.AdminPassword</code></li> <li>■ <code>SysPrep.GuiUnattended.EncryptedAdminPassword</code></li> <li>■ <code>SysPrep.GuiUnattended.TimeZone</code></li> </ul>	<p>プロビジョニングの WinPE ステージで、マシン上の SysPrep 応答ファイルに追加する情報を指定します。SysPrep 応答ファイルにすでに存在する情報は、これらのカスタム プロパティで上書きされます。&lt;Section&gt; は、SysPrep 応答ファイルのセクションの名前を表します。たとえば、GuiUnattended や UserData のように指定します。&lt;Key&gt; は、セクション内のキー名を表します。たとえば、プロビジョニングされたマシンのタイムゾーンを西太平洋標準時に設定するには、カスタム プロパティ <code>GuiUnattended.UserData.TimeZone</code> を定義し、値を 275 に設定します。</p> <p>セクション、キー、および指定できる値の詳細な一覧については、System Preparation Utility for Windows のドキュメントを参照してください。</p> <p>次に示す &lt;Section.Key&gt; ペアは、WIM ベース プロビジョニングに対して指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ GuiUnattended <ul style="list-style-type: none"> <li>■ AdminPassword</li> <li>■ EncryptedAdminPassword</li> <li>■ TimeZone</li> </ul> </li> <li>■ UserData <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ProductKey</li> <li>■ FullName</li> <li>■ ComputerName</li> <li>■ OrgName</li> </ul> </li> <li>■ 識別名 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DomainAdmin</li> <li>■ DomainAdminPassword</li> <li>■ JoinDomain</li> <li>■ JoinWorkgroup</li> </ul> </li> </ul>
<code>Sysprep.Identification.DomainAdmin</code>	Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。
<code>Sysprep.Identification.DomainAdminPassword</code>	<code>Sysprep.Identification.DomainAdmin</code> プロパティに関連付けるパスワードを指定します。
<code>Sysprep.Identification.JoinDomain</code>	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。

表 2-21. PXE および WIM プロビジョニングのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
Sysprep.Identification.JoinWorkgroup	ドメインを使用しない場合は、参加させるワークグループの名前を指定します。
SysPrep.UserData.ComputerName	マシン名を指定します (例: lab-client005)。
SysPrep.UserData.FullName	ユーザーの氏名を指定します。
SysPrep.UserData.OrgName	ユーザーの組織名を指定します。
SysPrep.UserData.ProductKey	Windows のプロダクト キーを指定します。

## vRealize Automation ゲスト エージェントのカスタム プロパティ

vRealize Automation ゲスト エージェントをクローン作成用のテンプレートまたは WinPE にインストールした場合、マシンが完全に展開された後にカスタム プロパティを使用して、プロビジョニングされたマシンのゲスト OS 内でカスタム スクリプトを実行できます。

表 2-22. ゲスト エージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.Admin.AddOwnerToAdmins	<b>VirtualMachine.Admin.Owner</b> プロパティで指定されたマシンの所有者をマシンのローカル管理者グループに追加する場合は、True (デフォルト) に設定します。
VirtualMachine.Admin.AllowLogin	<b>VirtualMachine.Admin.Owner</b> プロパティでの指定に従ってマシン所有者をローカルのリモート デスクトップ ユーザー グループに追加するには、True (デフォルト) に設定します。
VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent	クローン作成用テンプレートのサービスとしてゲスト エージェントがインストールされている場合、マシン プループリントで True に設定すると、そのテンプレートからクローン作成されたマシンのゲスト エージェント サービスが有効になります。マシンを起動すると、ゲスト エージェント サービスが起動します。ゲスト エージェントを無効にする場合は、False に設定します。False に設定すると、拡張クローン ワークフローでゲスト OS タスクにゲスト エージェントが使用されなくなり、機能が <b>VMwareCloneWorkflow</b> に制限されます。指定しない場合、または False 以外に設定した場合、拡張クローン ワークフローからゲスト エージェントに作業アイテムが送信されます。
VirtualMachine.DiskN.Active	マシンのディスク <N> が有効であることを指定する場合は、True (デフォルト) に設定します。マシンのディスク <N> が有効ではないことを指定する場合は、False に設定します。

表 2-22. ゲスト エージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.Size</code>	ディスク <N> のサイズ (GB) を定義します。たとえば、150 GB のサイズをディスク G に割り当てるには、カスタム プロパティ <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> を定義し、値として 150 と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。デフォルトで、マシンには <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> で参照されるディスクが 1 台あります。サイズは、マシンのプロビジョニング元のブループリントにあるストレージ値によって指定されます。ブループリント ユーザー インターフェースのストレージ値は、 <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> プロパティの値に上書きされます。 <code>VirtualMachine.Disk0.Size</code> プロパティは、ブループリントのストレージ オプションとの関係により、カスタム プロパティとして使用することはできません。 <code>VirtualMachine.Disk1.Size</code> 、 <code>VirtualMachine.Disk2.Size</code> のように指定することで、ディスクをさらに追加できます。 <code>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</code> は、常に <code>.DiskN.Size</code> プロパティと <code>VMware.Memory.Reservation</code> のサイズ割り当ての合計を表します。
<code>VirtualMachine.DiskN.Label</code>	マシンのディスク <N> のラベルを指定します。ディスク ラベルの最大文字数は 32 文字です。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントに対して使用する場合は、ゲスト OS 内でマシンのディスク <N> のラベルを指定します。
<code>VirtualMachine.DiskN.Letter</code>	マシンのディスク <b>N</b> のドライブ文字またはマウント ポイントを指定します。デフォルトは <b>C</b> です。たとえば、ディスク 1 に文字 <b>D</b> を指定するには、カスタム プロパティを <code>VirtualMachine.Disk1.Letter</code> として定義し、値として <b>D</b> と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントと組み合わせて使用する場合、ゲスト エージェントは、この値によって指定されたドライブ文字またはマウント ポイントを使用して、追加ディスク <N> をゲスト OS にマウントします。
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	カスタマイズが完了してからゲスト OS のカスタマイズが開始するまでの待機時間を指定します。値は HH:MM:SS 形式にする必要があります。値が設定されていない場合、デフォルト値は 1 分 (00:01:00) になります。このカスタム プロパティを含めない場合、ゲスト エージェントの作業アイテムが完了する前に仮想マシンが再起動すると、プロビジョニングに失敗する場合があります。
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	すべてのカスタマイズが完了するまで、プロビジョニング ワークフローで作業アイテムがゲスト エージェントに送信されないようにする場合は、 <code>True</code> に設定します。
<code>VirtualMachine.SoftwareN.Name</code>	プロビジョニング中にインストールまたは実行するソフトウェア アプリケーション <N> やスクリプトの分かりやすい名前を指定します。これは、任意の参照専用プロパティです。このプロパティは、拡張クローン ワークフローやゲスト エージェントでは実質的に機能しませんが、ユーザー インターフェイスでカスタム ソフトウェアを選択する場合や、ソフトウェアの使用状況をレポートする場合に役立ちます。

表 2-22. ゲスト エージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath	<p>アプリケーションのインストール スクリプトへの完全パスを指定します。このパスは、ゲスト OS で参照される有効な絶対パスにする必要があります。また、スクリプト ファイル名が含まれている必要があります。</p> <p>パスの文字列に {&lt;CustomPropertyName&gt;} を挿入することで、カスタム プロパティ値をパラメータとしてスクリプトに渡すことができます。たとえば、名前が <b>ActivationKey</b> で値が 1234 のカスタム プロパティがある場合、スクリプト パスは、<b>D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}</b> となります。ゲスト エージェントはコマンド <b>D:\InstallApp.bat -key 1234</b> を実行します。その後、この値を受け入れて使用するようスクリプト ファイルをプログラムできます。</p> <p>マシン所有者名をスクリプトに渡すには、{Owner} を挿入します。また、パスの文字列に {&lt;YourCustomProperty&gt;} を挿入すると、カスタム プロパティ値をパラメータとしてスクリプトに渡すことができます。たとえば、</p> <p>値 <b>\\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat</b> を入力すると、共有された場所から <b>changeIP.bat</b> スクリプトが実行されますが、</p> <p>値 <b>\\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat {VirtualMachine.Network0.Address}</b> を入力すると、<b>changeIP</b> スクリプトが実行され、さらに <b>VirtualMachine.Network0.Address</b> プロパティ値がパラメータとしてスクリプトに渡されます。</p>

表 2-22. ゲスト エージェントを使用してプロビジョニングされたマシンをカスタマイズするためのカスタム プロパティ (続き)

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code>	<p>適切にフォーマットされた <code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code> カスタム プロパティ ステートメントとして <code>gugent</code> コマンド ラインに渡される暗号化文字列を <code>vRealize Automation</code> が取得できるようにします。</p> <p>パスワードなどの暗号化文字列をコマンドライン引数のカスタム プロパティとして指定することができます。これにより、ゲスト エージェントが復号化して有効なコマンドライン引数として認識可能な、暗号化された情報を格納できます。たとえば、  <code>VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat &lt;password&gt;</code> カスタム プロパティ文字列は、実際のパスワードを含むため、安全ではありません。</p> <p>パスワードを暗号化するには、<code>vRealize Automation</code> カスタム プロパティ (たとえば、<code>MyPassword = password</code>) を作成し、使用可能なチェック ボックスをオンにして暗号化を有効にします。ゲスト エージェントは、<code>[MyPassword]</code> エントリをカスタム プロパティ <code>MyPassword</code> の値に復号化し、このスクリプトを <code>c:\dosomething.bat password</code> として実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ カスタム プロパティ <code>MyPassword = &lt;password&gt;</code> を作成します。ここで、<code>&lt;password&gt;</code> は、実際のパスワードの値です。使用可能なチェック ボックスをオンにして暗号化を有効にします。</li> <li>■ カスタム プロパティ <code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code> を <code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt = true</code> として設定します。</li> <li>■ カスタム プロパティ <code>VirtualMachine.Software0.ScriptPath</code> を <code>VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat [MyPassword]</code> として設定します。</li> </ul> <p><code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code> を <code>false</code> に設定した場合、または <code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code> カスタム プロパティを作成しない場合、角かっこ ([ および ]) 内の文字列は復号化されません。</p>
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ISOName</code>	<p>データストアのルートに対する ISO ファイルの相対パスおよびファイル名を指定します。形式は <code>&lt;/folder_name/subfolder_name/file_name&gt;.iso</code> です。値が設定されていない場合、ISO はマウントされません。</p>
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ISOLocation</code>	<p>アプリケーションまたはスクリプトで使用する ISO イメージ ファイルが含まれるストレージ パスを指定します。ホスト予約で表示されるパスの形式に設定します (例: <code>netapp-1:it_nfs_1</code>)。値が設定されていない場合、ISO はマウントされません。</p>

## BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のカスタム プロパティ

vRealize Automation には、BMC BladeLogic Configuration Manager と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。

**表 2-23. BMC BladeLogic Configuration Manager 統合に必要なカスタム プロパティ**

カスタム プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.EPI.Type</code>	外部プロビジョニングインフラストラクチャのタイプを指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.Owner</code>	マシン所有者のユーザー名を指定します。
<code>BMC.Software.Install</code>	BMC BladeLogic Configuration Manager 統合を有効にするには、True に設定します。
<code>EPI.Server.Name</code>	外部プロビジョニングインフラストラクチャ サーバの名前 (BMC BladeLogic をホストしているサーバの名前など) を指定します。 BMC BladeLogic Configuration Manager ホストが指定されることなく 1 つ以上の汎用 BMC EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。 特定の BMC BladeLogic Configuration Manager ホスト専用である BMC EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。
<code>BMC.Service.Profile</code>	BMC BladeLogic サーバでデフォルト認証プロファイル名を指定します。
<code>BMC.Software.BatchLocation</code>	ソフトウェア ジョブが展開される場所を BMC BladeLogic 構成で指定します。この値は、 <code>Vrm.Software.IdNNNN</code> の適切な値と一致する必要があります。たとえば、有効な値には <code>/Application Deployment</code> があります。
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	vCenter Server がマシンの作成時に使用する vCenter Server ゲスト OS のバージョン ( <code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code> ) を指定します。 このオペレーティングシステムのバージョンは、プロビジョニングされたマシンにインストールされるオペレーティングシステムのバージョンと一致する必要があります。管理者は、いずれかのプロパティ セット (正しい <code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code> 値が含まれるように事前定義された <code>VMware[OS_Version]Properties</code> など) を使用してプロパティ グループを作成できます。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。 関連情報については、vSphere API/SDK ドキュメントにある列挙タイプ <code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code> を参照してください。現在使用できる値のリストについては、vCenter Server のドキュメントを参照してください。

## BMC BladeLogic Configuration Manager のソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

vRealize Automation と連携するために、BMC BladeLogic Configuration Manager のジョブを構成します。マシン申請者がすべてのソフトウェア ジョブの中から選択できるようにするか、ブループリントに基づいてプロビジョニングされたすべてのマシンに適用するソフトウェア ジョブを指定します。

表 2-24. ソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

カスタム プロパティ	説明
LoadSoftware	ソフトウェア インストール オプションを有効にするには、True に設定します。
Vrm.Software.Id<NNNN>	<p>ブループリントからプロビジョニングされたすべてのマシンに適用されるソフトウェア ジョブまたはポリシーを指定します。値を <b>job_type=job_path</b> に設定します。ここで、<b>job_type</b> は BMC BladeLogic ジョブタイプを表す数字で、<b>job_path</b> は BMC BladeLogic のジョブの場所です。たとえば、<b>4=/Utility/putty</b> のようになります。&lt;NNNN&gt; は、1000 ~ 1999 の数値です。最初のプロパティは 1000 から始まり、番号順に各追加プロパティの値が 1 つずつ増えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 – AuditJob</li> <li>2 – BatchJob</li> <li>3 – ComplianceJob</li> <li>4 – DeployJob</li> <li>5 – FileDeployJob</li> <li>6 – NSHScriptJob</li> <li>7 – PatchAnalysisJob</li> <li>8 – SnapshotJob</li> </ul>

## BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のオプションのカスタム プロパティ

BMC BladeLogic Configuration Manager のブループリントでよく使用されるオプションのカスタム プロパティを使用することもできます。

表 2-25. BMC BladeLogic Configuration Manager との連携用のオプションのカスタム プロパティ

プロパティ	定義
BMC.AddServer.Delay	BMC BladeLogic Configuration Manager にマシンを追加までの待機時間（秒単位）を指定します。デフォルトは 30 です。
BMC.AddServer.Retry	BMC BladeLogic Configuration Manager へのマシンの最初の追加で失敗した場合、再試行するまでの待機時間（秒単位）を指定します。デフォルトは 100 です。

## HP Server Automation との連携用のカスタム プロパティ

vRealize Automation には、HP Server Automation と連携するために必要なカスタム プロパティがあります。HP Server Automation との連携には、いくつかのカスタム プロパティが必要です。その他のカスタム プロパティは、必要に応じて使用します。

### HP Server Automation との連携用の必須のカスタム プロパティ

ブループリントで HP Server Automation を使用するには、特定のカスタム プロパティが必要です。

表 2-26. HP Server Automation との連携に必須のカスタム プロパティ

プロパティ	定義
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	vCenter Server がマシンの作成時に使用する vCenter Server ゲスト OS のバージョン ( <code>VirtualMachineGuestOsIdentifier</code> ) を指定します。このオペレーティングシステムのバージョンは、プロビジョニングされたマシンにインストールされるオペレーティングシステムのバージョンと一致する必要があります。管理者は、いずれかのプロパティ セット (正しい <code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code> 値が含まれるように事前定義された <code>VMware[OS_Version]Properties</code> など) を使用してプロパティ グループを作成できます。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。
<code>VirtualMachine.EPI.Type</code>	外部プロビジョニング インフラストラクチャのタイプを指定します。
<code>EPI.Server.Name</code>	外部プロビジョニング インフラストラクチャ サーバの名前 (BMC BladeLogic をホストしているサーバの名前など) を指定します。BMC BladeLogic Configuration Manager ホストが指定されることなく 1 つ以上の汎用 BMC EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。
<code>Opware.Software.Install</code>	HP Server Automation がソフトウェアをインストールできるようにするためには、True に設定します。
<code>Opware.Server.Name</code>	HP Server Automation サーバの完全修飾名を指定します。
<code>Opware.Server.Username</code>	エージェント ディレクトリ内のパスワード ファイルが作成されたときに提供されるユーザー名を指定します (例: <code>opwareadmin</code> )。このユーザー名は、HP Server Automation インスタンスにアクセスするための管理者権限のあるものでなければなりません。
<code>Opware.BootImage.Name</code>	HP Server Automation で定義されている 32 ビット WinPE イメージの起動イメージ値を指定します (例: <code>winpe32</code> )。クローン作成によるプロビジョニングの場合、このプロパティは不要です。
<code>Opware.Customer.Name</code>	HP Server Automation で定義されているユーザー名の値を指定します (例: <code>MyCompanyName</code> )。
<code>Opware.Facility.Name</code>	HP Server Automation で定義されている設備名の値を指定します (例: <code>Cambridge</code> )。
<code>Opware.Machine.Password</code>	HP Server Automation で定義されている <code>Opware.OSSequence.Name</code> などのオペレーティング システム シーケンス WIM イメージのデフォルトのローカル管理者パスワードを指定します (例: <code>P@ssword1</code> )。
<code>Opware.OSSequence.Name</code>	HP Server Automation で定義されているオペレーティング システム シーケンス名の値を指定します (例: <code>Windows 2008 WIM</code> )。
<code>Opware.Realm.Name</code>	HP Server Automation で定義されているレルム名の値を指定します (例: <code>Production</code> )。
<code>Opware.Register.Timeout</code>	プロビジョニング ジョブの作成が完了するまでの待機時間を秒単位で指定します。
<code>VirtualMachine.CDRom.Attach</code>	CD-ROM デバイスを使用せずにマシンをプロビジョニングする場合は、False に設定します。デフォルトは True です。
<code>Linux.ExternalScript.Name</code>	オペレーティングシステムがインストールされた後に、Linux ゲスト エージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定します (例: <code>config.sh</code> )。このプロパティは、Linux エージェントがインストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使用可能です。



表 2-26. HP Server Automation との連携に必須のカスタム プロパティ (続き)

プロパティ	定義
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> プロパティで指定されたカスタマイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のいずれかを指定できます。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカル パスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポート パスを指定します。値はスラッシュから始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code> )。

## HP Server Automation との連携用のオプションのカスタム プロパティ

ブループリントで HP Server Automation を使用するには、必要に応じて特定のカスタム プロパティを使用します。

表 2-27. HP Server Automation との連携用のオプションのカスタム プロパティ

プロパティ	定義
<code>Opsware.ProvFail.Notify</code>	(オプション) プロビジョニングで障害が発生した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します (例: <code>provisionfail@lab.local</code> )。
<code>Opsware.ProvFail.Notify</code>	(オプション) プロビジョニングで障害が発生した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。
<code>Opsware.ProvSuccess.Notify</code>	(オプション) プロビジョニングが成功した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します。
<code>Opsware.ProvSuccess.Owner</code>	(オプション) プロビジョニングが成功した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。

## HP Server Automation のソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

ファブリック管理者が、vRealize Automation 統合のために HP Server Automation ジョブを構成する方法に応じて、マシン申請者がすべてのソフトウェア ジョブの中から選択できるようにするか、ブループリントに基づいてプロビジョニングされたすべてのマシンに適用されるジョブを指定するかを選択できます。

表 2-28. ソフトウェア ジョブを有効にするカスタム プロパティ

プロパティ	定義
<code>LoadSoftware</code>	ソフトウェア インストール オプションを有効にするには、 <code>True</code> に設定します。
<code>Vrm.Software.Id</code>	(オプション) ブループリントからプロビジョニングされたすべてのマシンに適用される HP Server Automation ポリシーを指定します。<NNNN> は、1000 ~ 1999 の数値です。最初のプロパティは 1000 から始まり、番号順に各追加プロパティの値が 1 つずつ増えていきます。



# 名前別にグループ化されたカスタム プロパティ

---

# 3

カスタム プロパティを使用して、vRealize Automation の追加の制御を提供できます。

ここで示すカスタム プロパティは、名前別にグループ化されています。機能別にグループ化されたカスタム プロパティについては、[第 2 章「機能別にグループ化されたカスタム プロパティ \(P. 13\)」](#)を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [カスタム プロパティ アンダースコア \( \\_ \) テーブル \(P. 52\)](#)
- [カスタム プロパティ A テーブル \(P. 53\)](#)
- [カスタム プロパティ B テーブル \(P. 53\)](#)
- [カスタム プロパティ C テーブル \(P. 54\)](#)
- [カスタム プロパティ E テーブル \(P. 54\)](#)
- [H で始まるカスタム プロパティの表 \(P. 56\)](#)
- [カスタム プロパティ I テーブル \(P. 57\)](#)
- [カスタム プロパティ L テーブル \(P. 58\)](#)
- [カスタム プロパティ M テーブル \(P. 59\)](#)
- [カスタム プロパティ O テーブル \(P. 59\)](#)
- [カスタム プロパティ P テーブル \(P. 60\)](#)
- [カスタム プロパティ R テーブル \(P. 61\)](#)
- [カスタム プロパティ S テーブル \(P. 61\)](#)
- [カスタム プロパティ V テーブル \(P. 65\)](#)
- [カスタム プロパティ X テーブル \(P. 85\)](#)

## カスタム プロパティ アンダースコア ( \_ ) テーブル

このセクションには、アンダースコア ( \_ ) で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-1. カスタム プロパティ アンダースコア ( \_ ) テーブル

プロパティ	説明
<code>_debug_deployment</code>	<p>展開の部分的な完了が許可される拡張処理を除いて、デフォルトの動作では、個々のリソースのいずれかでプロビジョニングに失敗すると、展開全体が破棄されます。<code>_debug_deployment</code> カスタム プロパティ値を <b>true</b> に設定し、デフォルトの動作をオーバーライドできます。プロビジョニングが失敗した場合は、プロビジョニングできなかったコンポーネントを特定できるように、デバッグ用のカスタム プロパティによってリソースのロールバックが停止されます。エラーが発生したカタログアイテムのコンポーネントにユーザーはアクセスできないため、このカスタム プロパティは新しいブループリントの開発とテスト期間で使用するのに適しています。</p> <p>ブループリントにカスタム プロパティを適用するには、ブループリントの作成または編集時に [プロパティ] タブを使用して、<code>_debug_deployment</code> を [ブループリント プロパティ] ページに追加します。このプロパティは、複合ブループリントなどの複数のコンポーネントを含むブループリント用であり、スタンドアロンのブループリントに適用された場合は無視されます。<code>_debug_deployment</code> プロパティは、ゲスト エージェントやマシン プロビジョニングのレベルではなく、ソフトウェア プロビジョニングのレベルで使用されます。</p> <p><b>VRMAgent.exe.config</b> ファイルの設定を使用して、導入の失敗後に vRealize Automation によって仮想マシンが削除されないように設定することもできます。</p>
<code>_deploymentName</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、<code>_deploymentName</code> の値をカスタム文字列に設定して、展開のカスタム名を指定できます。この展開の複数のインスタンスを単一の申請でプロビジョニングする場合は、カスタム名がプリフィックスになります。ユーザーが展開名を指定できるようにするには、このカスタム プロパティを設定してオーバーライドを許可します。このプロパティの使用には、次の 2 点の注意事項があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ このプロパティは、コンポーネント レベルではなく、ブループリント レベルで追加する必要があります。たとえば、ブループリントを作成または編集する際に、[プロパティ] タブをクリックして、[カスタム プロパティ]-[新規] の順に選択し、<code>_deploymentName</code> プロパティをブループリントに追加します。このプロパティは、マシンやブループリントに含まれる他のコンポーネントに追加しないでください。</li> <li>■ このプロパティは、プロパティ グループのメンバーとしてではなく、別個のプロパティとして追加する必要があります。</li> </ul>
<code>_number_of_instances</code>	<p>このプロパティをブループリントに追加すると、単一の申請でユーザーがプロビジョニングできる環境のインスタンス数を指定できます。</p>

## カスタム プロパティ A テーブル

このセクションには、A で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-2. カスタム プロパティ A テーブル

プロパティ	説明
AD.Lookup.Department	承認者に送信される通知メールに含まれるコスト センター値を指定します。このプロパティ値は、ブループリント内で指定する必要があります。
amazon.AmazonEC2Config.ServiceURL	Amazon GovCloud 用の Amazon 構成サービス URL を指定します (例: <b>amazon.AmazonEC2Config.ServiceURL=https://ec2.us-gov-west-1.amazonaws.com</b> )。
amazon.ElasticLoadBalancingConfig.ServiceURL	Amazon GovCloud 用の Amazon ロード バランサ構成サービス URL を指定します (例: <b>amazon.ElasticLoadBalancingConfig.ServiceURL=https://elasticloadbalancing.us-gov-west-1.amazonaws.com</b> )。
Amazon.ElasticLoadBalancer.Names	ブループリントによりプロビジョニングされるマシンを、指定の値と一致する Elastic ロード バランサに割り当てます。このプロパティは、vSphere、Amazon、および Hyper-V 構成での使用に有効です。
amazon.IAMInstanceProfile.ARN	AWS インスタンスを要求するときに AWS Identity and Access Management (IAM) インスタンス プロファイルの Amazon リソース ネーム (ARN) を指定します。このプロパティ (たとえば、 <b>amazon.IAMInstanceProfile.ARN = &lt;IAM Instance Profile ARN(s) value&gt;</b> ) をブループリントに追加し、カタログからプロビジョニングを要求した場合、プロビジョニングされた Amazon 仮想マシンまたはインスタンスに指定された IAM ロールが含まれます。
Amazon.Instance.Id	Amazon EC2 エンドポイントにプロビジョニングされたマシンの Amazon インスタンス ID を指定します。このプロパティは、vSphere および Amazon 構成での使用に有効です。
Amazon.elasticIpAddress.ipAddress	<ipAddress> がインスタンスに割り当てる特定の IP アドレスの場合、Amazon IP アドレスを指定します。

## カスタム プロパティ B テーブル

このセクションには、B で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-3. カスタム プロパティ B テーブル

プロパティ	定義
BMC.AddServer.Delay	BMC BladeLogic Configuration Manager にマシンを追加までの待機時間 (秒単位) を指定します。デフォルトは 30 です。
BMC.AddServer.Retry	BMC BladeLogic Configuration Manager へのマシンの最初の追加で失敗した場合、再試行するまでの待機時間 (秒単位) を指定します。デフォルトは 100 です。
BMC.Service.Profile	BMC BladeLogic サーバでデフォルト認証プロファイル名を指定します。
BMC.Software.BatchLocation	ソフトウェア ジョブが展開される場所を BMC BladeLogic 構成で指定します。この値は、 <b>Vrm.Software.IdNNNN</b> の適切な値と一致する必要があります。たとえば、有効な値には <b>/Application Deployment</b> があります。
BMC.Software.Install	BMC BladeLogic Configuration Manager 統合を有効にするには、True に設定します。

## カスタム プロパティ C テーブル

このセクションには、C で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-4. カスタム プロパティ C テーブル

プロパティ	定義
<code>Cisco.Organization.Dn</code>	org-root/org-Engineering など、ビジネス グループによりプロビジョニングされた Cisco UCS マシンが配置される Cisco UCS Manager 組織の識別名を指定します。指定組織が、マシンを管理する Cisco UCS Manager インスタンス内に存在しない場合、プロビジョニングは失敗します。このプロパティはビジネス グループでのみ使用できます。
<code>CloneFrom</code>	vCenter Server のテンプレートなど、クローン作成元の既存のマシンまたは仮想プラットフォーム オブジェクトの名前を指定します (例: Win2k8tmpl)。
<code>CloneSpec</code>	vCenter Server の事前定義された <b>SysPrep</b> オブジェクトなど、クローン作成されたマシンのカスタム仕様 の名前を指定します (例: Win2k カスタム仕様)。デフォルト値はブループリントで指定されています。
<code>Command.DiskPart.Options</code>	ESX Server ホスト上で WIM ベースの仮想プロビジョニングを使用し、マシンのディスクをフォーマットしてパーティションを作成する場合、Align=64 を設定して推奨アライメント パラメータを使用します。このプロパティは物理プロビジョニングでは使用できません。
<code>Command.FormatDisk.Options</code>	ESX Server ホスト上で WIM ベースの仮想プロビジョニングを使用し、マシンのディスクをフォーマットしてパーティションを作成する場合、/A:32K を設定して推奨アライメント パラメータを使用します。このプロパティは物理プロビジョニングでは使用できません。

## カスタム プロパティ E テーブル

このセクションでは、英字 E で始まる vRealize Automation カスタム プロパティを示します。

表 3-5. カスタム プロパティ E テーブル

プロパティ	定義
<code>EPI.Server.Collection</code>	マシンが登録される Citrix プロビジョニング コレクションの名前を指定します。
<code>EPI.Server.Name</code>	<p>外部プロビジョニング インフラストラクチャ サーバの名前 (BMC BladeLogic をホストしているサーバの名前など) を指定します。BMC BladeLogic Configuration Manager ホストが指定されることなく 1 つ以上の汎用 BMC EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。</p> <p>特定の BMC BladeLogic Configuration Manager ホスト専用である BMC EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。</p> <p>HP Server Automation をホストしているサーバの名前を指定します。Server Automation サーバが指定されることなく 1 つ以上の汎用 Opsware EPI エージェントがインストールされた場合、この値は必要なサーバに申請を送ります。</p> <p>特定の HP Server Automation サーバ専用の EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。</p> <p>サーバが指定されることなく適切なタイプ (<b>VirtualMachine.EPI.Type</b>) の汎用 EPI エージェントが 1 つ以上インストールされた場合、この値は申請されたサーバに申請を送ります。適切なタイプの特定のサーバ専用の EPI エージェントだけがインストールされた場合、この値はそれらのエージェントの 1 つに構成されたサーバ名と完全に一致する必要があります。</p>
<code>EPI.Server.Port</code>	プロビジョニング サーバとの通信に使用するポートを指定します。Citrix プロビジョニング サーバを使用している場合は、デフォルトのポート値 54321 の指定を省略します。

表 3-5. カスタム プロパティ E テーブル (続き)

プロパティ	定義
<code>EPI.Server.Site</code>	<code>EPI.Server.Collection</code> プロパティと <code>EPI.Server.Store</code> プロパティで特定されたコレクションとストアが含まれる Citrix プロビジョニング サイトの名前を指定します (例: <code>site1</code> )。
<code>EPI.Server.Store</code>	<code>EPI.Server.VDiskName</code> プロパティで特定された vDisk が含まれる Citrix プロビジョニング スタアの名前を指定します (例: <code>store1</code> )。
<code>EPI.Server.VDiskName</code>	プロビジョニングで使用される Citrix プロビジョニング vDisk の名前を指定します (例: <code>disk1</code> )。
<code>ext.policy.activedirectory.customizationWorkflowTag</code>	vRealize Orchestrator のカスタム ワークフローに追加されたタグです。Active Directory ポリシーでは、指定したタグの付いたカスタム ワークフローを検索し、これが見つかると、Active Directory レコードが作成される際にタグ付きワークフローを使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.customizationDeleteWorkflowTag</code>	vRealize Orchestrator のカスタム ワークフローに追加されたタグです。Active Directory ポリシーでは、指定したタグの付いたカスタム ワークフローを検索し、これが見つかると、Active Directory レコードが削除される際にタグ付きワークフローを使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.domain</code>	現在の Active Directory ポリシーで指定されているドメインよりも優先して使用するドメイン。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.domain</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.endpoint.id</code>	ポリシーの指定やオーバーライドに使用されるポリシー ID です。指定する ID は、既存の Active Directory ポリシーのものである必要があります。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.endpoint.id</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.id</code>	使用する組織単位は、既存の Active Directory ポリシーに含まれる組織単位ではありません。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.id</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.machineName</code>	現在の Active Directory ポリシーで指定されている名前よりも優先して使用する、Active Directory 内のマシンの名前。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.machineName</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.orgunit</code>	現在の Active Directory ポリシーで指定されているドメインよりも優先して使用する組織単位。 Active Directory ポリシーで指定される <code>ext.policy.activedirectory.system.orgunit</code> の値をオーバーライドします。
<code>ext.policy.activedirectory.system.domain</code>	Active Directory に含まれるマシンのドメインに使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.domain</code> を使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.system.endpoint.id</code>	Active Directory vRealize Orchestrator エンドポイントの名前に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.endpoint.id</code> を使用します。

表 3-5. カスタム プロパティ E テーブル (続き)

プロパティ	定義
<code>ext.policy.activedirectory.system.id</code>	Active Directory ポリシーのユーザーが判別可能な ID に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.id</code> を使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.system.machineName</code>	Active Directory に含まれるマシンの名前に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.machineName</code> を使用します。
<code>ext.policy.activedirectory.system.orgunit</code>	Active Directory 組織単位の識別名に使用するシステム プロパティです。 このプロパティを変更する場合に、プロパティが定義済みのポリシーで使用されているときには、ポリシーを無効にできます。ポリシーの値をオーバーライドするには、 <code>ext.policy.activedirectory.orgunit</code> を使用します。

## H で始まるカスタム プロパティの表

このセクションには、H で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-6. H で始まるカスタム プロパティの表

プロパティ	定義
<code>Hostname</code>	<code>VirtualMachine.Admin.Name</code> プロパティに含まれている生成されたマシン名をオーバーライドするホスト マシン名を指定します。 <code>Hostname</code> を使用しないと、マシン名として <code>VirtualMachine.Admin.Name</code> 値が使用されます。 <code>Hostname</code> 値に使用できる文字数は最大で 15 文字です。
<code>Hyperv.Network.Type</code>	仮想マシンのネットワーク アダプタ タイプを指定します。このプロパティは、Hyper-V との併用にのみ有効です。デフォルト値は <code>Synthetic</code> です。以前の値は、WinXP または Server 2003 x64 のゲスト OS と互換性がありません。



## カスタム プロパティ | テーブル

このセクションでは、英字 I で始まる vRealize Automation カスタム プロパティを示します。

表 3-7. カスタム プロパティ | テーブル

プロパティ	定義
<b>Image.ISO.Location</b>	<p>このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの場所を指定します (例: <code>http://192.168.2.100/site2/winpe.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。</p> <p>vCenter Server による仮想プロビジョニングの場合、この値にはプロビジョニング コンピュータ リソースからアクセスできるインスタンス内のデータストアの名前を指定します。XenServer による仮想プロビジョニングの場合、ストレージ リポジトリの名前を指定します。</p> <p>物理プロビジョニングの場合、Web 上でアクセスできる、イメージの HTTP URL を指定します。</p>
<b>Image.ISO.Name</b>	<p>このプロパティの値は大文字と小文字が区別されます。起動元の ISO イメージの名前を指定します (例: <code>/ISO/Microsoft/WinPE.iso</code>)。この値の形式は、プラットフォームによって異なります。詳細については、プラットフォームに付属しているドキュメントを参照してください。このプロパティは、WIM ベース プロビジョニング、Linux キックスタートおよび AutoYaST プロビジョニング、SCCM ベース プロビジョニングに必須です。</p> <p>vCenter Server による仮想プロビジョニングの場合、この値は <b>Image.ISO.Location</b> で指定されるデータストア内のイメージのパスを指定します (例: <code>/&lt;MyISOs&gt;/Microsoft/MSDN/win2003.iso</code>)。この値にはスラッシュを使用する必要があります。この値の先頭はスラッシュにする必要があります。XenServer による仮想プロビジョニングの場合、<b>Image.ISO.Location</b> で指定されるストレージ リポジトリ内のイメージの名前を指定します。Hyper-V による仮想プロビジョニングでは、イメージのフル ローカル パスを指定します。</p> <p>物理プロビジョニングの場合、イメージのファイル名を指定します。</p>
<b>Image.ISO.UserName</b>	CIFS 共有にアクセスするユーザー名を、 <code>&lt;username@domain&gt;</code> という形式で指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<b>Image.ISO.Password</b>	<b>Image.ISO.UserName</b> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。アクセスするのに認証が必要な CIFS 共有上にイメージが置かれている Dell iDRAC 統合用です。
<b>Image.WIM.Path</b>	WIM ベースのプロビジョニングでイメージの展開元となる WIM ファイルの UNC パスを指定します。パスの形式は <code>\\&lt;server&gt;\&lt;share\$&gt;</code> となります (例: <code>\\lab-ad\dfs\$</code> )。
<b>Image.WIM.Name</b>	<b>Image.WIM.Path</b> プロパティによって配置された WIM ファイルの名前を指定します (例: <code>win2k8.wim</code> )。
<b>Image.WIM.Index</b>	WIM ファイルから正しいイメージを展開するために使用されるインデックスを指定します。
<b>Image.Network.User</b>	プロビジョニングされたマシン上のネットワーク ドライブに WIM イメージ パス ( <b>Image.WIM.Path</b> ) をマッピングするために使用されるユーザー名を指定します。これは、通常、ネットワーク共有へのアクセス権限があるドメイン アカウントです。
<b>Image.Network.Password</b>	<b>Image.Network.User</b> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<b>Image.Network.Letter</b>	プロビジョニングされたマシンで WIM イメージ パスがマッピングされているドライブを示す文字を指定します。デフォルト値は K です。
<b>Infrastructure.Admin.MachineObjectOU</b>	マシンの組織単位 (OU) を指定します。ビジネス グループ OU 設定によって必要な OU にマシンが配置される場合には、このプロパティは不要です。
<b>Infrastructure.Admin.ADUser</b>	ドメイン管理者のユーザー ID を指定します。この ID は、匿名のバインドを使用できない場合に、Active Directory ユーザーとグループを問い合わせるために使用されます。

表 3-7. カスタム プロパティ | テーブル (続き)

プロパティ	定義
<code>Infrastructure.Admin.ADPassw ord</code>	<code>Infrastructure.Admin.ADUser</code> ドメイン管理者ユーザー ID に関連付けられて いるパスワードを指定します。
<code>Infrastructure.Admin.Default Domain</code>	マシン上のデフォルト ドメインを指定します。
<code>Infrastructure.ResourcePool. Name</code>	マシンが属するリソース プールを指定します (存在する場合)。デフォルトは、マシンの プロビジョニング元である予約で指定された値です。

## カスタム プロパティ | テーブル

このセクションには、L で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-8. カスタム プロパティ | テーブル

プロパティ	説明
<code>Linux.ExternalScript.LocationType</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> プロパティで指定されたカスタ マイズ スクリプトの場所タイプを指定します。ローカルまたは NFS のい ずれかを指定できます。  また、 <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用してスク リプトの場所を指定する必要もあります。場所タイプが NFS の場合は、 <code>Linux.ExternalScript.Server</code> プロパティも使用します。
<code>Linux.ExternalScript.Name</code>	オペレーティング システムがインストールされた後に、Linux ゲスト エ ージェントが実行するオプションのカスタマイズ スクリプトの名前を指定し ます (例: <code>config.sh</code> )。このプロパティは、Linux エージェントがイ ンストールされたテンプレートからクローン作成される Linux マシンで使 用可能です。  外部スクリプトを指定する場合は、 <code>Linux.ExternalScript.LocationType</code> プロパティおよび <code>Linux.ExternalScript.Path</code> プロパティを使用して、その場所 も定義する必要があります。
<code>Linux.ExternalScript.Path</code>	Linux カスタマイズ スクリプトへのローカルパスまたは NFS サーバ上の Linux カスタマイズへのエクスポートパスを指定します。値はスラッシュ から始まり、ファイル名は含みません (例: <code>/scripts/linux/config.sh</code> )。
<code>Linux.ExternalScript.Server</code>	<code>Linux.ExternalScript.Name</code> で指定された Linux 外部カスタ マイズ スクリプトが配置される NFS サーバの名前を指定します (例: <code>lab- ad.lab.local</code> )。
<code>LoadSoftware</code>	ソフトウェア インストール オプションを有効にするには、True に設定し ます。

## カスタム プロパティ M テーブル

このセクションには、M で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-9. カスタム プロパティ M テーブル

プロパティ	説明
MaximumProvisionedMachines	1 つのマシン スナップショットに対するリンク クローンの最大数を指定します。デフォルトは無制限です。
Machine.SSH	このブループリントからプロビジョニングされた Linux マシンの vRealize Automation の [アイテム] ページにある [SSH を使用して接続] オプションを有効にするには、True に設定します。True に設定して、[RDP または SSH を使用した接続] によるマシン操作をブループリントで有効にした場合、ブループリントからプロビジョニングされるすべての Linux マシンが、[SSH を使用して接続] オプションを資格のあるユーザーに表示します。 [SSH を使用して接続] オプションを使用するには、SSH をサポートするプラグインがブラウザにインストールされている必要があります（たとえば、Mozilla Firefox および Google Chrome 用の FireSSH SSH ターミナル クライアント）。プラグインが存在する場合、[SSH を使用して接続] を選択すると、SSH コンソールが開き、管理者の認証情報の入力が必要になります。

## カスタム プロパティ O テーブル

このセクションには、O で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-10. カスタム プロパティ O テーブル

プロパティ	説明
Opware.BootImage.Name	HP Server Automation で定義されている 32 ビット WinPE イメージの起動イメージ値を指定します（例：winpe32）。クローン作成によるプロビジョニングの場合、このプロパティは不要です。
Opware.Customer.Name	HP Server Automation で定義されているユーザー名の値を指定します（例：MyCompanyName）。
Opware.Facility.Name	HP Server Automation で定義されている設備名の値を指定します（例：Cambridge）。
Opware.Machine.Password	HP Server Automation で定義されている <b>Opware.OSSequence.Name</b> などのオペレーティングシステム シーケンス WIM イメージのデフォルトのローカル管理者パスワードを指定します（例：P@ssword1）。
Opware.OSSequence.Name	HP Server Automation で定義されているオペレーティングシステム シーケンス名の値を指定します（例：Windows 2008 WIM）。
Opware.ProvFail.Notify	（オプション）プロビジョニングで障害が発生した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します（例：provisionfail@lab.local）。
Opware.ProvFail.Owner	（オプション）プロビジョニングで障害が発生した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。
Opware.ProvSuccess.Notify	（オプション）プロビジョニングが成功した場合に HP Server Automation が使用する通知用の電子メール アドレスを指定します。
Opware.ProvSuccess.Owner	（オプション）プロビジョニングが成功した場合に、所有権が割り当てられる HP Server Automation ユーザーを指定します。
Opware.Realm.Name	HP Server Automation で定義されているレルム名の値を指定します（例：Production）。
Opware.Register.Timeout	プロビジョニング ジョブの作成が完了するまでの待機時間を秒単位で指定します。

表 3-10. カスタム プロパティ O テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>Opware.Server.Name</code>	HP Server Automation サーバの完全修飾名を指定します。
<code>Opware.Server.Username</code>	エージェント ディレクトリ内のパスワード ファイルが作成されたときに提供されるユーザー名を指定します (例: <code>opswreadmin</code> )。このユーザー名は、HP Server Automation インスタンスにアクセスするための管理者権限のあるものでなければなりません。
<code>Opware.Software.Install</code>	HP Server Automation がソフトウェアをインストールできるようにするためには、 <code>True</code> に設定します。

## カスタム プロパティ P テーブル

このセクションには、P で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-11. カスタム プロパティ P テーブル

プロパティ	説明
<code>Plugin.AdMachineCleanup.Delete</code>	破棄されたマシンのアカウントを無効にする代わりに削除するには、 <code>True</code> に設定します。
<code>Plugin.AdMachineCleanup.Execute</code>	Active Directory クリーンアップ プラグインを有効にするには、 <code>True</code> に設定します。デフォルトの場合、各マシンのアカウントは破棄されると、無効になります。
<code>Plugin.AdMachineCleanup.MoveToOu</code>	破棄するマシンのアカウントを新しい Active Directory の組織単位に移動します。値はアカウントの移動先の組織単位です。この値の形式は <code>&lt;ou=OU,dc=dc&gt;</code> です (例: <code>ou=trash,cn=computers,dc=lab,dc=local</code> )。
<code>Plugin.AdMachineCleanup.UserName</code>	Active Directory のアクション (Active Directory アカウントの削除、無効化、名前変更、移動など) の実行に必要な権限を持つ Active Directory アカウント ユーザー名を指定します。値は <code>&lt;domain\username&gt;</code> の形式で指定します (例: <code>lab\administrator</code> )。vRealize Automation マネージャ サービスがドメイン内でこの権限を持たない場合、このプロパティが必要になります。これは、複数のドメインにマシンをプロビジョニングする場合に発生します。
<code>Plugin.AdMachineCleanup.Password</code>	<code>Plugin.AdMachineCleanup.UserName</code> プロパティに関連するパスワードを指定します。
<code>Plugin.AdMachineCleanup.Domain</code>	破棄するマシン アカウントが含まれる Active Directory ドメイン名を指定します。
<code>Plugin.AdMachineCleanup.RenamePrefix</code>	プリフィックスを追加して、破棄するマシンのアカウント名を変更します。プリフィックス文字列を値の先頭に追加します (例: <code>destroyed_</code> )。
<code>Pxe.Clean.ScriptName</code>	vRealize Automation Model Manager にインストールされた EPI PowerShell スクリプトの名前を指定し、マシンのプロビジョニング後にマシン上で実行します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: <code>clean.ps1</code> )。
<code>Pxe.Setup.ScriptName</code>	PXE ネットワーク起動プログラムを使用して開始する前に、マシン上で実行するカスタム EPI PowerShell スクリプトを指定します。この値は、スクリプトが Model Manager にアップロードされるときにスクリプトに割り当てられる名前です (例: <code>setup.ps1</code> )。

## カスタム プロパティ R テーブル

このセクションには、R で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-12. カスタム プロパティ R テーブル

プロパティ	説明
ReservationPolicyID	予約ポリシー名を指定します。
RDP.File.Name	設定の取得元である RDP ファイルを指定します。たとえば <b>My_RDP_Settings.rdp</b> 。このファイルは、vRealize Automation インストール ディレクトリの <b>Website\Rdp</b> サブディレクトリに存在している必要があります。

## カスタム プロパティ S テーブル

このセクションには、S で始まる vRealize Automation カスタム プロパティが一覧表示されています。

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル

プロパティ	説明
SysPrep.<Section.Key> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ SysPrep.GuiUnattended.AdminPassword</li> <li>■ SysPrep.GuiUnattended.EncryptedAdminPassword</li> <li>■ SysPrep.GuiUnattended.TimeZone</li> </ul>	<p>プロビジョニングの WinPE ステージで、マシン上の SysPrep 応答ファイルに追加する情報を指定します。SysPrep 応答ファイルにすでに存在する情報は、これらのカスタム プロパティで上書きされます。&lt;Section&gt; は、SysPrep 応答ファイルのセクションの名前を表します。たとえば、GuiUnattended や UserData のように指定します。&lt;Key&gt; は、セクション内のキー名を表します。たとえば、プロビジョニングされたマシンのタイムゾーンを西太平洋標準時に設定するには、カスタム プロパティ <b>GuiUnattended.UserData.TimeZone</b> を定義し、値を 275 に設定します。</p> <p>セクション、キー、および指定できる値の詳細な一覧については、System Preparation Utility for Windows のドキュメントを参照してください。</p> <p>次に示す &lt;Section.Key&gt; ペアは、WIM ベース プロビジョニングに対して指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ GuiUnattended               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ AdminPassword</li> <li>■ EncryptedAdminPassword</li> <li>■ TimeZone</li> </ul> </li> <li>■ UserData               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ProductKey</li> <li>■ FullName</li> <li>■ ComputerName</li> <li>■ OrgName</li> </ul> </li> <li>■ 識別名               <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DomainAdmin</li> <li>■ DomainAdminPassword</li> <li>■ JoinDomain</li> <li>■ JoinWorkgroup</li> </ul> </li> </ul>
Sysprep.Identification.DomainAdmin	Active Directory のターゲット ドメインに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。vCloud Director または vCloud Air に送信する認証情報にはユーザー ドメインを含めないでください。
Sysprep.Identification.DomainAdminPassword	<b>Sysprep.Identification.DomainAdmin</b> プロパティに関連付けるパスワードを指定します。

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>Sysprep.Identification.JoinDomain</code>	Active Directory に参加させるドメインの名前を指定します。
<code>Sysprep.Identification.JoinWorkgroup</code>	ドメインを使用しない場合は、参加させるワークグループの名前を指定します。
<code>SysPrep.UserData.ComputerName</code>	マシン名を指定します (例: lab-client005)。
<code>SysPrep.UserData.FullName</code>	ユーザーの氏名を指定します。
<code>SysPrep.UserData.OrgName</code>	ユーザーの組織名を指定します。
<code>SysPrep.UserData.ProductKey</code>	Windows のプロダクト キーを指定します。
<code>SCCM.Collection.Name</code>	オペレーティング システムの展開タスク シーケンスが含まれる SCCM コレクションの名前を指定します。
<code>SCCM.CustomVariable.&lt;Name&gt;</code>	カスタム変数の値を指定します。<Name> は、プロビジョニングされたマシンが SCCM コレクションに登録された後で SCCM タスク シーケンスが使用できるカスタム変数の名前です。値は、選択するカスタム変数によって決まります。統合で必要になる場合は、 <b>SCCM.RemoveCustomVariablePrefix</b> を使用して、カスタム変数から <b>SCCM.CustomVariable.</b> プリフィックスを削除できます。
<code>SCCM.Server.Name</code>	このコレクションが存在する SCCM サーバの完全修飾ドメイン名を指定します (例: lab-sccm.lab.local)。
<code>SCCM.Server.SiteCode</code>	SCCM サーバのサイト コードを指定します。
<code>SCCM.Server.UserName</code>	SCCM サーバに管理者レベルでアクセスできるユーザーの名前を指定します。
<code>SCCM.Server.Password</code>	<b>SCCM.Server.UserName</b> プロパティに関連付けられているパスワードを指定します。
<code>SCCM.RemoveCustomVariablePrefix</code>	カスタム プロパティ <b>SCCM.CustomVariable.&lt;Name&gt;</b> を使用して作成した SCCM カスタム変数から <b>SCCM.CustomVariable.</b> プリフィックスを削除するには、<true> に設定します。
<code>Snapshot.Policy.AgeLimit</code>	マシンに適用できるスナップショットの存続期限を日数で設定します。このプロパティは、vSphere プロビジョニングに適用されます。 スナップショットがこの存続期限を超えると、[適用] オプションは使用できなくなります。 スナップショットの存続期限に達すると、スナップショットは維持されますが、そのスナップショットに戻すことはできなくなります。vSphere クライアントを使用して、スナップショットを削除できます。
<code>Snapshot.Policy.Limit</code>	マシンあたりに許可されるスナップショットの数を設定します。デフォルトの設定は、マシンあたり 1 つのスナップショットです。このプロパティは、vSphere プロビジョニングに適用されます。0 に設定すると、スナップショットを作成するブループリント オプションは、サポート ロールとマネージャ ロールを除き、すべてのユーザーに表示されなくなります。 スナップショットは階層構造で表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 深さ – 最大は 31。</li> <li>■ 幅 – 制限なし。</li> </ul>

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>Snapshot.Policy.Disable</code>	<p>true に設定すると、すべての vRealize Automation ユーザー ロールはスナップショット作成機能を使用できなくなり、スナップショット オプションは [アイテム] タブに表示されなくなります。</p>
<code>software.http.proxyHost</code>	<p>プロキシ サーバのホスト名またはアドレスを指定します。ソフトウェア コンテンツ プロパティでプロキシ サーバを使用するには、<b>software.http.proxyHost</b> と <b>software.http.proxyPort</b> の両方を使用する必要があります。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイル パスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>
<code>software.http.proxyPassword</code>	<p>プロキシ サーバへの認証に使用されるユーザー名のパスワードを指定します。<b>software.http.proxyUser</b> と組み合わせて使用します。</p> <p><b>software.http.proxyUser</b> 設定を使用する場合は、<b>software.http.proxyPassword</b> 設定が必要になります。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイル パスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>
<code>software.http.proxyPort</code>	<p>プロキシ サーバのポート番号を指定します。ソフトウェア コンテンツ プロパティでプロキシ サーバを使用するには、<b>software.http.proxyHost</b> と <b>software.http.proxyPort</b> の両方を使用する必要があります。デフォルトの <b>software.http.proxyPort</b> 値はありません。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイル パスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>

表 3-13. カスタム プロパティ S テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>software.http.proxyUser</code>	<p>プロキシ サーバへの認証に使用されるユーザー名を指定します。<code>software.http.proxyPassword</code>と組み合わせて使用します。</p> <p><code>software.http.proxyUser</code> 設定はオプションです。<code>software.http.proxyUser</code> 設定を使用する場合は、<code>software.http.proxyPassword</code> 設定が必要になります。</p> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイル パスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>
<code>software.http.noProxyList</code>	<p>プロキシ ホストを使用できないホストとポート (オプション) のリストを指定します。元のコンテンツ プロパティでは、リストのパターンと一致する URL から直接ダウンロードされます。プロキシ サーバが構成されている場合にのみ、<code>software.http.noProxyList</code> 設定は適用されます。たとえば、次のコンマ区切りリストでは次のようになります。</p> <p><code>"buildweb.eng.vmware.com,confluence.eng.vmware.com:443,*.eng.vmware.com:80"</code></p> <p>次の内容が適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ホストが「<code>buildweb.eng.vmware.com</code>」であるすべての URL では、プロキシ サーバを使用できません。</li> <li>■ ホストが「<code>confluence.eng.vmware.com</code>」であり、ポートが443であるすべての URL では、プロキシ サーバを使用できません。</li> <li>■ ホストが「<code>eng.vmware.com</code>」名前空間に含まれ、ポートが80であるすべての URL では、プロキシ サーバを使用できません。</li> </ul> <p>注意 ソフトウェア プロキシ設定を使用して、ソフトウェア コンポーネントのコンテンツ プロパティ タイプの値を定義できます。コンテンツ プロパティとは、エージェントがダウンロードを行う URL です。エージェントはローカルにダウンロードされたファイルへのファイル パスとして変数を使用します。ただし、ソフトウェア プロキシ設定を使用して、URL からではなく、プロキシ ホストを介してダウンロードすることができます。</p>



## カスタム プロパティ V テーブル

このセクションでは、文字 V から始まる vRealize Automation のカスタム プロパティを一覧表示します。

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル

プロパティ	説明
<b>VbScript.PreProvisioning.Name</b>	マシンのプロビジョニングの前に実行される Visual Basic スクリプトのフル パスを指定します。たとえば、 <b>%System-Drive%\Program Files(x86)\VMware\VCAC Agents\EPI_Agent\Scripts\SendEmail.vbs</b> を指定します。スクリプト ファイルは、Visual Basic スクリプトの EPI エージェントがインストールされているシステムに存在する必要があります。
<b>VbScript.PostProvisioning.Name</b>	マシンのプロビジョニングの後に実行される Visual Basic スクリプトのフル パスを指定します。たとえば、 <b>%System-Drive%\Program Files(x86)\VMware\VCAC Agents\EPI_Agent\Scripts\SendEmail.vbs</b> を指定します。スクリプト ファイルは、Visual Basic スクリプトの EPI エージェントがインストールされているシステムに存在する必要があります。
<b>VbScript.UnProvisioning.Name</b>	マシンの破棄時に実行される Visual Basic スクリプトのフル パスを指定します。たとえば、 <b>%System-Drive%\Program Files (x86)\VMware\VCAC Agents\EPI_Agent\Scripts\SendEmail.vbs</b> を指定します。スクリプト ファイルは、Visual Basic スクリプトの EPI エージェントがインストールされているシステムに存在する必要があります。
<b>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</b>	vCloud Director または vCloud Air でプロビジョニングされたマシンで、vCloud Director または vCloud Air でその期間内に有効期限が切れるように設定されている場合にのみ vCloud Director と vRealize Automation 間のリースの同期が行われるように、コンピュータ リソースの整数のしきい値を指定します。競合が見つかったと、リース値は vRealize Automation で定義されているリースの長さに合わせて同期されます。 <b>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</b> のデフォルト値は 720 分 (12 時間) です。 <b>VCloud.Lease.Sync.TimeBufferMins</b> が存在しない場合、デフォルト値が使用されます。たとえば、デフォルト値が使用される場合、vRealize Automation によってリースの同期チェック ワークフローが 45 分 (ワークフローのデフォルト) ごとに実行され、12 時間以内に有効期限が切れるように設定されたマシンのリースのみが、vRealize Automation で定義されているリースの長さに合わせて変更されます。
<b>VCloud.Owner.UseEndpointAccount</b>	プロビジョニングおよびインポート操作で vCloud Air または vCloud Director のマシン所有者としてエンドポイント アカウントを割り当てる場合は、true に設定します。所有権の変更操作の場合、その所有者はエンドポイントでは変更されません。指定しなかったり、false に設定されていたりする場合、vRealize Automation の所有者はマシン所有者です。

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VCloud.Template.MakeIdenticalCopy</code>	<p>マシン プロビジョニングで vCloud Air または vCloud Director テンプレートの同一コピーをクローン作成する場合は、true に設定します。マシンは、テンプレートの同一コピーとしてプロビジョニングされます。ストレージパスを含め、テンプレートで指定される設定は、ブループリントで指定される設定より優先されます。テンプレートからの唯一の変更点は、ブループリントで指定されたマシン プリフィックスから生成される、クローン作成されたマシンの名前です。</p> <p>同一コピーとしてプロビジョニングされる vCloud Air または vCloud Director マシンでは、vRealize Automation 予約では使用することができないネットワークとストレージ プロファイルを使用できます。不明な予約の割り当てが発生するのを防止するため、テンプレートで指定されているストレージ プロファイルまたはネットワークが予約に含まれていることを確認してください。</p>
<code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names. &lt;name&gt;</code>	<p>プロビジョニング中に仮想マシンが割り当てられる vCloud Networking and Security ロード バランシング プールを指定します。仮想マシンは、指定したすべてのプールの全サービス ポートに割り当てられます。値は <code>&lt;edge/pool&gt;</code> 名またはコマンドで区切られた <code>&lt;edge/pool&gt;</code> 名のリストになります。名前の大文字と小文字は区別されません。</p> <p>注意 <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names</code> のカスタム プロパティを使用して、マシン IP アドレスを既存のロード バランサに追加できます。vRealize Automation および NSX は、指定の Edge ロード バランサ プールの最初のメンバーを使用し、新しいメンバー ポートを特定してポート設定を監視します。ただし、NSX 6.2 ではメンバーのポート設定を指定する必要がありません。NSX 6.2 で <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names</code> を使用して、マシンを既存のプールに追加する場合にプロビジョニングが失敗しないように、NSX でロード バランサ プールの最初のメンバーにポート値を指定する必要があります。</p> <p>名前を追加すると、複数のバージョンのカスタム プロパティを作成できます。たとえば、次のプロパティでは、一般用途向けに設定されるロード バランシング プールや、高、中、低のパフォーマンス要件があるマシンに設定されるロード バランシング プールを一覧表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names</code></li> <li>■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.moderate</code></li> <li>■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.high</code></li> <li>■ <code>VCNS.LoadBalancerEdgePool.Names.low</code></li> </ul>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
VCNS.SecurityGroup.Names.<name>	<p>プロビジョニング中に仮想マシンが割り当てられる 1 つ以上の vCloud Networking and Security セキュリティ グループを指定します。値はセキュリティ グループ名またはコマンドで区切られた名前のリストになります。名前の大文字と小文字は区別されます。</p> <p>名前を追加すると、複数のバージョンのプロパティを作成できます。これは、個別に使用することも、組み合わせて使用することもできます。たとえば、次のプロパティでは、一般用途、販売部、およびサポートのためのセキュリティ グループを一覧表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ VCNS.SecurityGroup.Names</li> <li>■ VCNS.SecurityGroup.Names.sales</li> <li>■ VCNS.SecurityGroup.Names.support</li> </ul>
VCNS.SecurityGroup.Names.<blueprint_name>	<p>vCloud Networking and Security を使用する場合は、ブループリントに関連付ける Edge プールを指定します。</p>
VCNS.SecurityTag.Names.<name>	<p>プロビジョニング中に仮想マシンが関連付けられる 1 つ以上の vCloud Networking and Security セキュリティ タグを指定します。この値は、セキュリティ タグの 1 つの名前、またはコマンド区切りの名前のリストです。名前の大文字と小文字は区別されます。</p> <p>名前を追加すると、複数のバージョンのプロパティを作成できます。これは、個別に使用することも、組み合わせて使用することもできます。たとえば、次のプロパティでは、一般用途、販売部、およびサポートのためのセキュリティ タグを一覧表示できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ VCNS.SecurityTag.Names</li> <li>■ VCNS.SecurityTag.Names.sales</li> <li>■ VCNS.SecurityTag.Names.support</li> </ul>
VirtualMachine.Admin.UseGuestAgent	<p>クローン作成用テンプレートのサービスとしてゲスト エージェントがインストールされている場合、マシン ブループリントで True に設定すると、そのテンプレートからクローン作成されたマシンのゲスト エージェント サービスが有効になります。マシンを起動すると、ゲスト エージェント サービスが起動します。ゲスト エージェントを無効にする場合は、False に設定します。False に設定すると、拡張クローン ワークフローでゲスト OS タスクにゲスト エージェントが使用されなくなり、機能が VMwareCloneWorkflow に制限されます。指定しない場合、または False 以外に設定した場合、拡張クローン ワークフローからゲスト エージェントに作業アイテムが送信されます。</p>
VirtualMachine.Admin.NameCompletion	<p>ユーザー インターフェイス オプションの [RDP を使用して接続] または [SSH を使用して接続] の場合に、RDP または SSH ファイルで生成されるマシンの完全修飾ドメイン名に含めるドメイン名を指定します。たとえば、値を myCompany.com に設定すると、RDP または SSH ファイルに &lt;my-machine-name&gt;.myCompany.com という完全修飾ドメイン名が生成されます。</p>
VirtualMachine.Admin.ConnectAddress	<p>[RDP を使用して接続] オプションが使用されている場合や、自動電子メールに接続されている場合に、RDP ファイルのダウンロード先となるマシンの RDP 接続アドレスを指定します。ユーザーにプロンプトを表示する必要があったり、デフォルト値を指定していなかったりする場合を除いて、ブループリントまたはプロパティ グループでは使用しないでください。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.ConnectAddress.Regex</code>	<p>vRealize Automation 管理者が RDP 接続のようなターミナル接続の IP アドレスと一致する正規表現を定義するために使用します。一致した場合、IP アドレスは <b>VirtualMachine.Admin.ConnectAddress</b> カスタム プロパティに保存されます。それ以外の場合、最初に使用可能な IP アドレスが指定されます。</p> <p>たとえば、プロパティ値を <b>10.10.0.</b> に設定すると、仮想マシンに割り当てられている <b>10.10.0.*</b> サブネットから IP アドレスを選択できます。サブネットが割り当てられていない場合、このプロパティは無視されます。</p> <p>このプロパティは、Openstack に対して使用できます。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.ThinProvision</code>	<p>ローカルストレージまたは iSCSI ストレージを使用する ESX コンピュータ リソースでシン プロビジョニングを使用するかどうかを決定します。シン プロビジョニングを使用する場合は、<b>True</b> に設定します。標準のプロビジョニングを使用する場合は、<b>False</b> に設定します。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.CustomizeGuestOSDelay</code>	<p>カスタマイズが完了してからゲスト OS のカスタマイズが開始するまでの待機時間を指定します。値は HH:MM:SS 形式にする必要があります。値が設定されていない場合、デフォルト値は 1 分 (00:01:00) になります。このカスタム プロパティを含めない場合、ゲストエージェントの作業アイテムが完了する前に仮想マシンが再起動すると、プロビジョニングに失敗する場合があります。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.NetworkInterfaceType</code>	<p>ゲスト オペレーティング システムでサポートおよびエミュレートされるネットワーク アダプタ タイプを示します。テンプレートのクローン作成操作のために新しい仮想マシンを作成し、特定のアダプタ タイプを割り当てるために使用します。新しくプロビジョニングされた仮想マシンのネットワーク設定を変更する場合に使用します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ E1000 (デフォルト)</li> <li>■ VirtIO</li> <li>■ RTL8139</li> <li>■ RTL8139 VirtIO</li> </ul>
<code>VirtualMachine.Admin.Name</code>	<p>vSphere 用に生成されるマシン名 (CodyVM01 など) を指定します。仮想マシン名をカスタマイズするためにカスタム ワークフローまたはプラグインを作成する場合は、その仮想マシンの名前と一致するようにこのプロパティを設定します。これは、仮想マシンに命名するためにエージェントが使用する内部入力プロパティです。</p> <p>注意 このプロパティは、vSphere 専用です。</p> <p>ブループリントで指定された値は、このプロパティに影響しません。このプロパティは、ユーザーにプロンプトを表示するために使用することを想定していません。ユーザーにプロンプトを表示するには、<b>HostName</b> プロパティを使用します。このプロパティをランタイムに設定すると、ハイパーバイザーで作成されるコンテナ名がアイテム レコード名と一致しなくなる可能性があります。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.UUID</code>	<p>マシンの UUID を指定します。ゲスト エージェントは、マシンが作成されると値を記録します。この値は読み取り専用になります。ブループリントまたはプロパティ グループの値は、このプロパティに影響しません。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.AgentID</code>	<p>ゲスト エージェントの UUID を指定します。ゲスト エージェントは、マシンが作成されると値を記録します。この値は読み取り専用になります。ブループリントまたはプロパティ グループの値は、このプロパティに影響しません。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.Owner</code>	マシン所有者のユーザー名を指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.Approver</code>	マシン申請を承認したグループ マネージャのユーザー名を指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.Description</code>	マシンの所有者や管理者が入力または変更するマシンの説明を指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.EncryptPasswords</code>	True に設定する場合は、管理者パスワードが暗号化されるように指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.AdministratorEmail</code>	マネージャのメール アドレス、またはプロビジョニング ブループリントのビジネス グループの Active Directory アカウントを指定します。複数のメール アドレスは、 <b>JoeAdmin@VMware.com,WeiLeeMgr@VMware.com</b> のようにコンマで区切ります。
<code>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</code>	マシンで使用する総ディスク容量 ( <b>VirtualMachine.DiskN.Size</b> プロパティで指定されたすべてのディスクと <b>VMware.Memory.Reservation</b> プロパティで指定されたスワップ ファイルを含む) を指定します。
<code>VirtualMachine.Admin.Hostname</code>	<p>エンドポイントのマシンのプロビジョニングに使用されるホストを管理者に通知します。指定した値はマシンで実装され、データ収集中に取り込まれます。たとえば、マシンのコンピュータ リソースが変更されると、プロキシ エージェントによってマシンの <b>VirtualMachine.Admin.Hostname</b> プロパティの値がアップデートされます。</p> <p>注意 これは、エージェントからの内部出力プロパティで、データ収集プロセス中に取り込まれ、これによりマシンが存在するホストが識別されます。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.ClusterName</code>	<p>使用するマシンのコンピュータ リソースが含まれているクラスタを管理者に通知します。</p> <p>注意 これは、エージェントからの内部出力プロパティで、データ収集プロセス中に取り込まれ、これによりマシンが存在するクラスタが識別されます。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.ApplicationID</code>	マシンに割り当てることができるアプリケーション ID をリストします。
<code>VirtualMachine.Admin.AddOwnerToAdmins</code>	<p><b>VirtualMachine.Admin.Owner</b> プロパティで指定されたマシンの所有者をマシンのローカル管理者グループに追加する場合は、True (デフォルト) に設定します。</p> <p>クローン作成によるプロビジョニングでは、このプロパティが使用できません。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.AllowLogin</code>	<b>VirtualMachine.Admin.Owner</b> プロパティでの指定に従ってマシン所有者をローカルのリモート デスクトップ ユーザー グループに追加するには、True (デフォルト) に設定します。
<code>VirtualMachine.Admin.DiskInterfaceType</code>	<p>ディスク ドライバのタイプを指定します。次のディスク ドライバがサポートされています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ IDE (デフォルト)</li> <li>■ VirtIO</li> </ul> <p>これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Admin.EagerZero</code>	<p>True は、マシン ディスクが Eager Zero の VMware プロビジョニング フォーマットを使用してプロビジョニングされることを指定します。</p> <p>Eager Zero シック プロビジョニングは、フォールトトレランスなどのクラスタリング機能をサポートする、シック仮想ディスクのタイプです。仮想ディスクに必要な容量は、作成時に割り当てられます。フラットフォーマットの場合とは異なり、物理デバイスに残っているデータは、仮想ディスクの作成時に消去されます。このフォーマットでのディスクの作成には、ほかのタイプのディスクに比べて非常に長い時間がかかることがあります。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.ForceHost</code>	<p>ESX ホストの名前を指定します。このプロパティは、<b>VirtualMachine.Admin.HostSelectionPolicy</b> が EXACT_MATCH に設定されている場合にのみ有効と見なされます。</p> <p>注意 このプロパティは、vSphere 専用です。</p> <p>vSphere クラスタに対してプロビジョニングする場合は、<b>VirtualMachine.Admin.ForceHost</b> プロパティを使用してプロビジョニングの対象マシンが存在するホストを指定することができます。このプロパティは、クラスタで DRS が [自動] に設定されていない場合にのみ使用されます。クラスタで DRS が有効になっており、[自動] に設定されている場合は、vSphere により、プロビジョニング対象マシンが再起動されるときに、そのマシンが再配置されます。</p>
<code>VirtualMachine.Admin.HostSelectionPolicy</code>	<p><b>VirtualMachine.Admin.ForceHost</b> プロパティで指定されているホストにマシンを配置する必要がある場合は、任意で EXACT_MATCH に設定できます。ホストが使用不能な場合、申請は失敗します。ホストが指定されていない場合、次に最適な使用可能なホストが選択されます。EXACT_MATCH に設定する場合は、指定したホストに十分なメモリがなかったり、メンテナンス モードになっていたりすると、エラーが発生します。</p> <p>注意 このプロパティは、vSphere にのみ適用されます。</p>
<code>VirtualMachine.Agent.CopyToDisk</code>	<p>ゲスト エージェントの実行可能ファイルをマシンのディスクの <code>%System-Drive%\VRM\Build\Bin</code> にコピーする場合は、True (デフォルト) に設定します。</p>
<code>VirtualMachine.Agent.GuiRunOnce</code>	<p>ゲスト エージェント実行を <b>SysPrep.inf</b> の run once セクションに含める場合は、True に設定します。Linux エージェントでプロビジョニング ワークフローを停止する場合は、False に設定します。</p>
<code>VirtualMachine.Agent.Reboot</code>	<p>ゲスト OS のインストール後にゲスト エージェントによってマシンが再起動されるように指定する場合は、True (デフォルト) に設定します。</p>
<code>VirtualMachine.CDRom.Attach</code>	<p>CD-ROM デバイスを使用せずにマシンをプロビジョニングする場合は、False に設定します。デフォルトは True です。</p>
<code>VirtualMachine.CPU.Count</code>	<p>マシンに割り当てる CPU 数 (たとえば、2) を指定します。デフォルトは、ブループリントの CPU 設定で指定した値です。</p> <p>注意 このカスタム プロパティ値は、マシンが最初にプロビジョニングされるときにブループリントの CPU 値によってオーバーライドされます。</p>
<code>VirtualMachine.Customize.WaitComplete</code>	<p>すべてのカスタマイズが完了するまで、プロビジョニング ワークフローで作業アイテムがゲスト エージェントに送信されないようにする場合は、True に設定します。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Core.Count</code>	<p>0 を超える値は、仮想マシンをプロビジョニングする際のソケットあたりのコア数を指定します。</p> <p>このプロパティをブループリントに対して使用して、仮想ソケットあたりのコア数またはソケットの総数を指定します。たとえば、ライセンス条件によってライセンスされるソフトウェアがソケット単位に制限される場合や、使用可能なオペレーティングシステムで多くのソケットが認識されるために追加の CPU を追加のコアとしてプロビジョニングする必要がある場合などです。</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.Letter</code>	<p>マシンのディスク <b>N</b> のドライブ文字またはマウント ポイントを指定します。デフォルトは <b>C</b> です。たとえば、ディスク 1 に文字 <b>D</b> を指定するには、カスタム プロパティを <b>VirtualMachine.Disk1.Letter</b> として定義し、値として <b>D</b> と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントと組み合わせて使用する場合、ゲスト エージェントは、この値によって指定されたドライブ文字またはマウント ポイントを使用して、追加ディスク &lt;N&gt; をゲスト OS にマウントします。</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.Size</code>	<p>ディスク &lt;N&gt; のサイズ (GB) を定義します。たとえば、150 GB のサイズをディスク <b>G</b> に割り当てるには、カスタム プロパティ <b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> を定義し、値として 150 と入力します。ディスク番号は連番にする必要があります。デフォルトで、マシンには <b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> で参照されるディスクが 1 台あります。サイズは、マシンのプロビジョニング元のブループリントにあるストレージ値によって指定されます。ブループリント ユーザー インターフェイスのストレージ値は、<b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> プロパティの値に上書きされます。</p> <p><b>VirtualMachine.Disk0.Size</b> プロパティは、ブループリントのストレージ オプションとの関係により、カスタム プロパティとして使用することはできません。</p> <p><b>VirtualMachine.Disk1.Size</b>、<b>VirtualMachine.Disk2.Size</b> のように指定することで、ディスクをさらに追加できます。</p> <p><b>VirtualMachine.Admin.TotalDiskUsage</b> は、常に <b>.DiskN.Size</b> プロパティと <b>VMware.Memory.Reservation</b> のサイズ割り当ての合計を表します。</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.IsFixed</code>	<p>マシンの再構成時に特定のディスクを編集することを無効にします。特定のボリュームの編集容量オプションの表示を無効にする場合は、True に設定します。値 True の大文字と小文字は区別されます。&lt;N&gt; 値は、ディスクの 0 ベース インデックスです。</p> <p>あるいは、データベースの <code>VirtualMachineProperties</code> テーブルで <b>VirtualMachine.Disk&lt;N&gt;.IsFixed</b> カスタム プロパティを True に設定するか、リポジトリ API を使用して、<code>../Repository/Data/ManagementModelEntities.svc/VirtualMachines(guid'60D93A8A-F541-4CE0-A6C6-78973AC0F1D2')/VirtualMachineProperties</code> などの URI 値を指定することができます。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.Label</code>	マシンのディスク <N> のラベルを指定します。ディスク ラベルの最大文字数は 32 文字です。ディスク番号は連番にする必要があります。ゲスト エージェントに対して使用する場合は、ゲスト OS 内でマシンのディスク <N> のラベルを指定します。
<code>VirtualMachine.DiskN.Active</code>	マシンのディスク <N> が有効であることを指定する場合は、True (デフォルト) に設定します。マシンのディスク <N> が有効ではないことを指定する場合は、False に設定します。
<code>VirtualMachine.DiskN.FS</code>	マシンのディスク <N> のファイルシステムを指定します。オプションは、NTFS (デフォルト)、FAT および FAT32 です。
<code>VirtualMachine.DiskN.Percent</code>	マシンで使用できるようにゲスト エージェントによってフォーマットされるディスク <N> の割合を指定します。そのマシンは、ディスクの残りの部分を使用できません。
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicy</code>	<p>ディスク &lt;N&gt; のストレージを検出するために使用するストレージ予約ポリシーを指定します。また、名前付きストレージ予約ポリシーをボリュームに割り当てます。このプロパティを使用するには、プロパティ名の &lt;N&gt; をボリューム番号に置き換えて、ストレージ予約ポリシー名をその値として指定します。このプロパティは、ブループリントで指定されているストレージ予約ポリシー名と同等です。ディスク番号は連番にする必要があります。このプロパティは、すべての仮想および vCloud 予約で有効です。このプロパティは、物理、Amazon、または OpenStack 予約では無効です。</p> <p><b>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicyMode</b> を使用して、ストレージ予約ポリシーのデータストアに十分な容量がない場合にプロビジョニングが失敗しないようにできます。このカスタム プロパティを使用すると、ポリシーのデータストアに十分な容量が残っていない場合に、vRealize Automation が、指定したストレージ予約ポリシーの外にあるデータストアを選択できるようになります。</p>
<code>VirtualMachine.DiskN.StorageReservationPolicyMode</code>	ディスク <N> を最適なストレージ予約ポリシーに割り当てます。
<code>VirtualMachine.DiskN.Storage</code>	マシン ディスク <N> を配置するデータストア (たとえば、DATASTORE01) を指定します。このプロパティは、1 つのデータストアをリンク クローン ブループリントに追加するために使用されることもあります。<N> は、割り当てるボリュームのインデックス (0 から開始) です。ボリュームに割り当てるデータストアの名前を入力します。これは、[コンピュータリソースの編集] ページの [ストレージパス] に表示されるデータストア名です。ディスク番号は連番にする必要があります。



表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.DiskN.VMwareType</code>	<p>マシンのディスク &lt;N&gt; の VMware ディスク モードを指定します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>persistent</code></li> <li>■ <code>independent_persistent</code></li> <li>■ <code>independent_nonpersistent</code></li> </ul> <p>このカスタム プロパティを <code>independent_persistent</code> または <code>independent_nonpersistent</code> に設定すると、ユーザー側では、vRealize Automation の使用前にマシンをパワーオフしてスナップショットを作成することが必要になります。注意 このプロパティは、vSphere にのみ適用されます。詳細については、『VMware vSphere Web Services SDK ドキュメント』の <b>VirtualDeviceDeviceBackingOption</b> データ オブジェクトのヘルプを参照してください。</p>
<code>VirtualMachine.EPI.Type</code>	<p>外部プロビジョニング インフラストラクチャのタイプを指定します。</p> <p>BMC BladeLogic の統合の場合は、BMC に設定します。</p> <p>Citrix プロビジョニング サーバの統合の場合は、CitrixProvisioning に設定します。</p>
<code>VirtualMachine.EULA.AcceptAll</code>	<p>vCloud Air または vCloud Director エンドポイントの仮想マシン テンプレートの EULA すべてがプロビジョニング中に承諾されるように指定するには、<code>true</code> に設定します。</p>
<code>VirtualMachine.Host.TpmEnabled</code>	<p>Trust Protection Module (TPM) デバイスがインストールされていて、ESX および vSphere で認識されるホストにしか仮想マシンを配置できないようにします。デフォルト値は <code>False</code> です。</p> <p>クラスタ内のすべてのホストに Trust Protection Module デバイスがインストールされている必要があります。条件を満たすホストまたはクラスタが見つからない場合、このプロパティを削除するまでマシンをプロビジョニングすることはできません。</p>
<code>VirtualMachine.Memory.Size</code>	<p>マシンのメモリのサイズ (MB) を指定します (1024 など)。デフォルトは、ブループリントのメモリ設定で指定された値です。</p> <p>注意 このカスタム プロパティ設定は、マシンが最初にプロビジョニングされるときにブループリントのメモリ設定によってオーバーライドされます。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.Address</code>	<p>固定 IP アドレスを使用してプロビジョニングされるマシンのネットワーク デバイス &lt;N&gt; の IP アドレスを指定します。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.NetworkN.AdditionAddress&lt;M&gt;</code>	<p>ネットワーク &lt;N&gt; の Openstack インスタンス用に割り当てられる追加の &lt;M&gt; IP アドレスを定義します。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;.Address</b>。プロパティによって指定された IP アドレス セットは除外します。[ネットワーク] タブの [追加アドレス] 列に、他のアドレスが表示されます。</p> <p>このプロパティは、Openstack のマシン状態のデータ収集で使用されます。</p> <p>OpenStack エンドポイントによってのみデータ収集が実行されますが、このプロパティは OpenStack に固有ではなく、他のエンドポイント タイプのライフサイクルの拡張性のために使用することができます。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.AddressType</code>	<p>ネットワーク プロバイダに対して IP アドレスを割り当てる方法を指定します。ここでの <code>Network&lt;N&gt;</code> は 0 から始まるネットワーク番号です。 使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ DHCP</li> <li>■ Static</li> <li>■ MANUAL (vCloud Air と vCloud Director でのみ使用可能)</li> </ul> <p>MANUAL 値では、IP アドレスも指定する必要があります。</p> <p>このプロパティは、ブループリントにおいて、vCloud Air、vCloud Director、および vSphere マシン コンポーネントを構成する場合に使用できます。</p> <p>「<b>VirtualMachine.NetworkN.Name</b>」も参照してください。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</code>	<p>これにより、ネットワーク デバイス &lt;N&gt; の MAC アドレスが生成されるのか、またはユーザー定義 (固定) なのかを指定します。 このプロパティは、クローン作成で使用できます。</p> <p>デフォルト値は generated です。 値が static の場合は、<b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddress</b> を使用して MAC アドレスも指定する必要があります。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.MacAddress</code>	<p>ネットワーク デバイス &lt;N&gt; の MAC アドレスを指定します。このプロパティは、クローン作成で使用できます。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</b> の値が generated の場合、このプロパティには生成されたアドレスが含まれます。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.MacAddressType</b> の値が static の場合は、このプロパティで MAC アドレスを指定します。 ESX Server ホストでプロビジョニングされた仮想マシンの場合、アドレスは、VMware で指定された範囲内に収まっている必要があります。詳細については、vSphere のドキュメントを参照してください。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.NetworkN.Name</code>	<p>接続先のネットワークの名前、たとえばマシンの接続先のネットワーク デバイス &lt;N&gt; を指定します。これは、ネットワーク インターフェイス カード (NIC) と同等です。</p> <p>デフォルトの場合、マシンがプロビジョニングされる予約で利用できるネットワーク パスからネットワークが割り当てられます。</p> <p><b>[VirtualMachine.NetworkN.AddressType]</b> も参照してください。</p> <p>ネットワーク デバイスが確実に特定のネットワークに接続されるようにするには、このプロパティの値を使用可能な予約のネットワーク名に設定します。たとえば、プロパティを <code>N = 0</code> および <code>N = 1</code> と指定すると、関連付けられている予約でネットワークが選択されている場合には、2 つの NIC とその割り当て値が得られます。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、ブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p> <p>このプロパティは、ブループリントにある vCloud Air または vCloud Director マシン コンポーネントに追加できます。</p>
<code>VirtualMachine.NetworkN.PortID</code>	<p>vSphere Distributed Switch で dvPort グループを使用する場合、ネットワーク デバイス &lt;N&gt; で使用するポート ID を指定します。</p> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</code>	<p>ネットワーク プロファイルの名前を指定します。このネットワーク プロファイルに基づいて、固定 IP アドレスをネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当てたり、クローン作成されたマシンのネットワーク デバイス &lt;N&gt; に割り当て可能な固定 IP アドレスの範囲を取得したりします。&lt;N&gt;=0 は最初のデバイス、以降 &lt;N&gt;=1 は 2 番目、2 は 3 番目のデバイスとこのように指定します。</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName</b> プロパティを使用する際には、これが指し示すネットワーク プロファイルを使用して、IP アドレスが割り当てられます。ただし、プロビジョニングされたマシンは、ラウンドロビン方式モデルを使用して予約で選択されたネットワークに接続されます。</p> <p>ネットワークが割り当てられた後でこのプロパティ値を変更しても、指定のマシンに割り当てられる IP アドレス値には影響しません。</p> <p>仮想マシンの WIM ベース プロビジョニングでは、このプロパティを使用して、ネットワーク プロファイルおよびネットワーク インターフェイスを指定できます。または、[仮想予約] ページの [ネットワーク] セクションを使用することもできます。さらに、</p> <p><b>VirtualMachine.NetworkN.Name</b> カスタム プロパティを使用して、ネットワーク インターフェイスを仮想ネットワークに割り当てることもできます。</p> <p>ネットワーク プロファイルの次の属性を使用して、クローン作成ブループリントで固定 IP アドレスを割り当てることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</code></li> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</code></li> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</code></li> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</code></li> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</code></li> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</code></li> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</code></li> <li>■ <code>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</code></li> </ul> <p><b>VirtualMachine.Network&lt;N&gt;</b> カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p> <p>このカスタム プロパティは、オンデマンド NAT やオンデマンドルーティングネットワークのプロファイル名を定義するためには使用できません。オンデマンド ネットワーク プロファイル名は割り当て時（プロビジョニング中）に生成されるため、ブループリントの作成または編集中にはそれらの名前はまだ不明です。NSX オンデマンド ネットワーク情報を指定するには、vSphere マシン コンポーネント用のブループリント デザイン キャンパスで該当するネットワーク コンポーネントを使用します。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<ul style="list-style-type: none"> <li>VirtualMachine.NetworkN.SubnetMask</li> <li>VirtualMachine.NetworkN.Gateway</li> <li>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryDns</li> <li>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryDns</li> <li>VirtualMachine.NetworkN.PrimaryWins</li> <li>VirtualMachine.NetworkN.SecondaryWins</li> <li>VirtualMachine.NetworkN.DnsSuffix</li> <li>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes</li> </ul>	<p>VirtualMachine.NetworkN.ProfileName で指定されたネットワーク プロファイルの属性を構成します。</p> <p>VirtualMachine.Network&lt;N&gt; カスタム プロパティは、個々のブループリントおよびマシンに固有です。マシンが申請されると、マシンが予約に割り当てられる前に、ネットワークおよび IP アドレスの割り当てが実行されます。ブループリントは特定の予約に割り当てられない可能性もあるため、このプロパティを予約で使用しないでください。</p> <p>VirtualMachine.NetworkN.DnsSearchSuffixes を使用して複数の DNS 検索サフィックスの値を指定する場合、Windows 展開用に値をコンマで区切ることができます。</p>
VirtualMachine.Rdp.File	<p>マシンへの RDP リンクを開くときに使用される設定がある RDP ファイルを指定します。</p> <p>VirtualMachine.Rdp.Setting&lt;N&gt; と一緒に、またはその代わりとして使用できます。このファイルは、vRealize Automation サーバのインストール ディレクトリ (たとえば、%SystemDrive%\Program Files x86\VMware\VCAC\Server\Rdp\console.rdp) に格納する必要があります。</p> <p>Rdp ディレクトリを作成する必要があります。</p>
VirtualMachine.Rdp.SettingN	<p>特定の RDP を設定します。&lt;N&gt; は、各 RDP 設定を区別するために使用される一意の番号です。たとえば、認証要件が指定されないように認証レベルを指定するには、カスタム プロパティ VirtualMachine.Rdp.Setting1 を定義し、値を authentication level:3 に設定します。RDP リンクを開いて設定の指定に使用します。</p> <p>使用可能な設定および正しい構文のリストについては、Microsoft Windows RDP のドキュメントを参照してください。</p>
VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu	<p>マシンの再構成アクションで指定されたマシンが再起動されるように指定するには、true に設定します。デフォルトでは、マシンの再構成アクション時にマシンは再起動されません。</p> <p>CPU、メモリ、またはストレージのホット アドを実行すると、vSphere でマシンまたはテンプレートの Hot Add 設定が有効になっていなければ、マシンの再構成アクションに失敗し、マシンが再起動されません。</p> <p>VirtualMachine.Reconfigure.DisableHotCpu=true を vRealize Automation ブループリントのマシン コンポーネントに追加して Hot Add 設定を無効にし、vSphere の Hot Add 設定に関係なくマシンを強制的に再起動することができます。このカスタム プロパティは、ハードウェアの再構成をサポートするマシン タイプ、すなわち vSphere、vCloud Air、および vCloud Director でのみ使用できます。</p>
VirtualMachine.Request.Layout	<p>仮想マシンの申請ページで使用されるプロパティ レイアウトを指定します。この値は、使用されるレイアウトの名前と一致している必要があります。</p>
VirtualMachine.SoftwareN.Name	<p>プロビジョニング中にインストールまたは実行するソフトウェア アプリケーション &lt;N&gt; やスクリプトの分かりやすい名前を指定します。これは、任意の参照専用プロパティです。このプロパティは、拡張クローン ワークフローやゲスト エージェントでは実質的に機能しませんが、ユーザー インターフェイスでカスタム ソフトウェアを選択する場合や、ソフトウェアの使用状況をレポートする場合に役立ちます。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code>	<p>アプリケーションのインストール スクリプトへの完全パスを指定します。このパスは、ゲスト OS で参照される有効な絶対パスにする必要があります。また、スクリプト ファイル名が含まれている必要があります。</p> <p>パスの文字列に {&lt;CustomPropertyName&gt;} を挿入することで、カスタム プロパティ値をパラメータとしてスクリプトに渡すことができます。たとえば、名前が <b>ActivationKey</b> で値が 1234 のカスタム プロパティがある場合、スクリプト パスは、<b>D:\InstallApp.bat -key {ActivationKey}</b> となります。ゲスト エージェントはコマンド <b>D:\InstallApp.bat -key 1234</b> を実行します。その後、この値を受け入れて使用するようスクリプト ファイルをプログラムできます。</p> <p>また、パスの文字列に {&lt;YourCustomProperty&gt;} を挿入すると、カスタム プロパティ値をパラメータとしてスクリプトに渡すことができます。たとえば、</p> <p>値 <b>\\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat</b> を入力すると、共有された場所から <b>changeIP.bat</b> スクリプトが実行されますが、</p> <p>値 <b>\\vra-scripts.mycompany.com\scripts\changeIP.bat {VirtualMachine.Network0.Address}</b> を入力すると、<b>changeIP</b> スクリプトが実行され、さらに <b>VirtualMachine.Network0.Address</b> プロパティ値がパラメータとしてスクリプトに渡されます。</p> <p>マシン所有者名をスクリプトに渡すには、{Owner} を挿入します。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code>	<p>適切にフォーマットされた <code>VirtualMachine.SoftwareN.ScriptPath</code> カスタム プロパティ ステートメントとして gagent コマンドラインに渡される暗号化文字列を vRealize Automation が取得できるようにします。</p> <p>パスワードなどの暗号化文字列をコマンドライン引数のカスタム プロパティとして指定することができます。これにより、ゲスト エージェントが復号化して有効なコマンドライン引数として認識可能な、暗号化された情報を格納できます。たとえば、</p> <pre>VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat &lt;password&gt;</pre> <p>カスタム プロパティ文字列は、実際のパスワードを含むため、安全ではありません。</p> <p>パスワードを暗号化するには、vRealize Automation カスタム プロパティ (たとえば、<code>MyPassword = password</code>) を作成し、使用可能なチェック ボックスをオンにして暗号化を有効にします。ゲスト エージェントは、<code>[MyPassword]</code> エントリをカスタム プロパティ <code>MyPassword</code> の値に復号化し、このスクリプトを <code>c:\dosomething.bat password</code> として実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ カスタム プロパティ <code>MyPassword = &lt;password&gt;</code> を作成します。ここで、<code>&lt;password&gt;</code> は、実際のパスワードの値です。使用可能なチェック ボックスをオンにして暗号化を有効にします。</li> <li>■ カスタム プロパティ <code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code> を <code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt = true</code> として設定します。</li> <li>■ カスタム プロパティ <code>VirtualMachine.Software0.ScriptPath</code> を <code>VirtualMachine.Software0.ScriptPath = c:\dosomething.bat [MyPassword]</code> として設定します。</li> </ul> <p><code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code> を <code>false</code> に設定した場合、または <code>VirtualMachine.ScriptPath.Decrypt</code> カスタム プロパティを作成しない場合、角かっこ ([ および ]) 内の文字列は復号化されません。</p>
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ISOName</code>	<p>データストアのルートに対する ISO ファイルの相対パスおよびファイル名を指定します。形式は <code>&lt;/folder_name/subfolder_name/file_name&gt;.iso</code> です。値が設定されていない場合、ISO はマウントされません。</p>
<code>VirtualMachine.SoftwareN.ISOLocation</code>	<p>アプリケーションまたはスクリプトで使用する ISO イメージ ファイルが含まれるストレージ パスを指定します。ホスト予約で表示されるパスの形式に設定します (例: <code>netapp-1:it_nfs_1</code>)。値が設定されていない場合、ISO はマウントされません。</p>
<code>VirtualMachine.Storage.Name</code>	<p>マシンが存在するストレージ パスを識別します。デフォルトは、マシンのプロビジョニングで使用された予約で指定されている値です。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VirtualMachine.Storage.AllocationType</code>	収集したグループを単一データストアに保存します。分散環境では、ラウンドロビン方式でディスクが保存されます。
<code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Enabled</code>	True に設定すると、マシンでストレージ クラスタの自動化が有効になります。False に設定すると、マシンでストレージ クラスタの自動化が無効になります。ストレージ クラスタの自動化タイプは、 <b>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</b> カスタム プロパティによって決まります。
<code>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</code>	<b>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Enabled</b> が True に設定されている場合の SDRS の動作タイプを指定します。 指定可能な動作タイプ値は、automated または manual です。 <b>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Enabled</b> および <b>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</b> プロパティは、マシンがプロビジョニングされた後、およびインベントリ データ収集が終了した後に設定されます。自動化を無効にすると、 <b>VirtualMachine.Storage.Cluster.Automation.Behavior</b> はマシンに表示されません。
<code>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</code>	vSwap ストレージ割り当てを管理して可用性を確保し、予約で割り当てを設定する場合は、True に設定します。vSwap 割り当ては、仮想マシンを作成または再構成するときに考慮されます。vSwap 割り当てチェックは、vSphere エンドポイントでのみ使用できます。 注意 vRealize Automation からマシンを作成またはプロビジョニングするときに <b>VirtualMachine.Storage.ReserveMemory</b> カスタム プロパティを指定しないと、スワップ容量の可用性は確保されません。すでにプロビジョニング済みのマシンにこのプロパティを追加するときに、割り当て済みの予約がいっぱいになっていると、予約での割り当てストレージが実際の割り当てストレージの容量を超過する可能性があります。
<code>VirtualMachine.VDI.Type</code>	仮想デスクトップ インフラストラクチャのタイプを指定します。 XenDesktop プロビジョニングの場合は、XenDesktop に設定します。
<code>VMware.AttributeN.Name</code>	vRealize Orchestrator の属性の名前を指定します。たとえば、 <b>VMware.AttributeN.Name</b> プロパティで使用される属性の値が指定されます。文字 <N> を番号に置き換えます。この番号は 0 から始まり、各属性が設定されるたびに増分されます。
<code>VMware.AttributeN.Value</code>	<b>VMware.AttributeN.Name</b> プロパティで使用される属性の値を指定します。文字 <N> を番号に置き換えます。この番号は 0 から始まり、各属性が設定されるたびに増分されます。
<code>VMware.Endpoint.Openstack.IdentityProvider.Version</code>	Openstack エンドポイントを認証するときに使用する Openstack ID プロバイダ (Keystone) のバージョンを指定します。Keystone バージョン 3 OpenStack ID プロバイダに対して認証するために、値 <b>3</b> を設定します。他の値を使用する場合、またはこのカスタム プロパティを使用しない場合、デフォルトで Keystone バージョン 2 を使用して認証が行われます。



表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VMware.Endpoint.Openstack.Release</code>	廃止されました。OpenStack エンドポイントの作成時に、OpenStack リリース (Havana や Icehouse など) を指定します。6.2.1、6.2.2、および 6.2.3 OpenStack プロビジョニングに必要です。
<code>VMware.Hardware.Version</code>	vSphere 設定で使用する仮想マシン ハードウェア バージョンを指定します。現在サポートされている値は、vmx-04、vmx-07、vmx-08、vmx-09 および vmx-10 です。このプロパティは、仮想マシンの作成フローおよびアップデートフローに適用され、基本ワークフローのブループリントでのみ使用できます。
<code>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</code>	<p>vCenter Server がマシンの作成時に使用する vCenter Server ゲスト OS のバージョン (<b>VirtualMachineGuestOsIdentifier</b>) を指定します。このオペレーティングシステムのバージョンは、プロビジョニングされたマシンにインストールされるオペレーティングシステムのバージョンと一致する必要があります。管理者は、いずれかのプロパティ セット (正しい <b>VMware.VirtualCenter.OperatingSystem</b> 値が含まれるように事前定義された <b>VMware[OS_Version]Properties</b> など) を使用してプロパティ グループを作成できます。これは、仮想プロビジョニング用のプロパティです。</p> <p>このプロパティ値が Windows 以外の値の場合、[RDP を使用して接続] ユーザー インターフェイス オプションは無効になります。このプロパティは、仮想ブループリント、クラウドブループリント、または物理ブループリントで使用できます。</p> <p>関連情報については、vSphere API/SDK ドキュメントにある列挙タイプ <b>VirtualMachineGuestOsIdentifier</b> を参照してください。現在使用できる値のリストについては、vCenter Server のドキュメントを参照してください。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<b>VMware.SCSI.Type</b>	<p>ブループリントの vCloud Air、vCloud Director、または vSphere マシン コンポーネントの場合は、以下の値のいずれかを使用して、SCSI マシン タイプを指定します (大文字と小文字は区別されます)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ buslogic 仮想ディスクに BusLogic エミュレーションを使用します。</li> <li>■ lsilogic 仮想ディスクに LSILogic エミュレーションを使用します (デフォルト)。</li> <li>■ lsilogicsas 仮想ディスクに LSILogic SAS 1068 エミュレーションを使用します。</li> <li>■ pvscsi 仮想ディスクに準仮想化エミュレーションを使用します。</li> <li>■ none このマシンの SCSI コントローラが存在しない場合に使用します。</li> </ul> <p><b>VMware.SCSI.Type</b> プロパティは、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローでは使用できません。ブループリント デザイン キャンバスでマシン コンポーネントを設定するときに、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローを指定する場合は、<b>VMware.SCSI.Type</b> プロパティを使用できません。</p>
<b>VMware.SCSI.Sharing</b>	<p>マシンの VMware SCSI バスの共有モードを指定します。使用可能な値は、<b>VirtualSCSISharing</b> ENUM 値に基づいており、noSharing、physicalSharing、および virtualSharing などが含まれます。</p> <p>ブループリント デザイン キャンバスでマシン コンポーネントを構成するときに、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローを指定する場合は、<b>VMware.SCSI.Sharing</b> プロパティは使用できません。</p> <p><b>VMware.SCSI.Sharing</b> プロパティは、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローでは使用できません。ブループリント デザイン キャンバスでマシン コンポーネントを設定するときに、CloneWorkflow プロビジョニング ワークフローを指定する場合は、<b>VMware.SCSI.Sharing</b> プロパティを使用できません。</p>
<b>VMware.Memory.Reservation</b>	<p>マシンのスワップ ファイルのサイズを指定します (たとえば、1024)。</p>
<b>VMware.Network.Type</b>	<p>ネットワークを指定し、予約で指定したとおり仮想マシンを接続します。このマシン上のネットワーク アダプタは、固有のネットワークに接続する必要があります。</p> <p>次のアダプタ タイプ値を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ Flexible (デフォルト)</li> <li>■ VirtualPCNet32 (vSphere と非互換)。</li> <li>■ E1000 または VirtualE1000</li> <li>■ VMXNET または VirtualVMXNET</li> <li>■ VMXNET2</li> <li>■ VMXNET3</li> </ul> <p>ESX Server ホストに Windows 32 ビット仮想マシンをプロビジョニングして、正しいネットワーク アダプタでマシンが作成されるようにする場合は、E1000 に設定します。このプロパティは、物理プロビジョニングでは使用されません。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<code>VMware.VCenterOrchestrator.EndpointName</code>	指定したエンドポイント設定をオーバーライドするか、特定のエンドポイントが vRealize Automation IaaS プロビジョニングプロセス時に使用されるように指定します。このプロパティの値は、環境内に存在する外部 VRO などの該当する vRealize Orchestrator エンドポイントに設定できます。
<code>VMware.VirtualCenter.Folder</code>	仮想マシンを配置するデータセンターのインベントリ フォルダの名前を指定します。デフォルトでは VRM です。VRM は、このプロパティが使用されない場合に、vRealize Automation によってプロビジョニング済みのマシンが配置される vSphere フォルダでもあります。この値は、 <code>production\email servers</code> などのように、複数のフォルダが含まれるパスになる場合もあります。フォルダが存在しない場合は、プロキシ エージェントによって、vSphere に指定のフォルダが作成されます。フォルダ名の大文字と小文字は区別されます。このプロパティは、仮想プロビジョニングで使用できます。
<code>VDI.Server.Website</code>	<p>マシンへの接続で使用する Citrix Web インターフェイス サイトのサーバ名を指定します。<code>VDI.Server.Name</code> の値が XenDesktop ファームである場合、このプロパティには適切な値を設定する必要があります。そうしないと、マシン所有者は XenDesktop を使用してマシンに接続できません。このプロパティを指定しない場合、<code>VDI.Server.Name</code> プロパティによって、接続先のデスクトップ配信コントローラが決まります。これは、デスクトップ配信コントローラをホストするサーバの名前である必要があります。</p> <p>注意 Citrix Web インターフェイス (WI) が StoreFront (SF) に置き換えられている場合、<code>VDI.Server.Name</code> の代わりにこのプロパティを使用して XenDesktop サーバに接続できます。値は <code>VDI.Server.Website=sqa-xddc-7.sqa.local/Citrix/StoreWeb</code> のようになります。詳細については、<code>VDI.Server.Name</code> を参照してください。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<b>VDI.Server.Name</b>	<p>登録するデスクトップ配信コントローラをホストするサーバ名、または登録するデスクトップ配信コントローラが含まれる XenDesktop ファームの名前を指定します。</p> <p>値が XenDesktop ファーム名の場合、<b>VDI.Server.Website</b> プロパティ値は、マシンへの接続で使用する適切な Citrix Web インターフェイス サイトの URL にする必要があります。</p> <p>値がサーバ名で、デスクトップ配信コントローラ サーバを指定せずに少なくとも 1 つの汎用 XenDesktop VDI エージェントがインストールされている場合、この値で目的のサーバが申請されます。値がサーバ名で、特定の DDC サーバの専用 XenDesktop VDI エージェントがインストールされている場合、この値は専用エージェント用に設定されたサーバ名と完全に一致している必要があります。</p> <p>注意 StoreFront を IIS のデフォルト ページにする方法の詳細については、Citrix のドキュメントを参照してください。また、<b>VDI.Server.Website</b> も参照してください。</p> <p>注意 Citrix Web インターフェイス プロトコルを変更すると、<b>VDI.Server.Name</b> のデフォルト値の認識方法に影響します。<b>VDI.Server.Name</b> プロパティの値は、ユーザーが仮想デスクトップに接続するときに Citrix Web インターフェイスを開くためのデフォルトの接続文字列として使用されます。これは、常に XD サーバの DNS/IP になります。その値で Citrix インターフェイスに接続されない場合、仮想マシンにアクセスできません。ただし、XenDesktop サーバ以外のサーバで Citrix Web インターフェイスがホストされている場合、<b>VDI.Server.Website</b> カスタム プロパティを使用できます。このプロパティが仮想マシンに存在している場合は、<b>VDI.Server.Name</b> の代わりに使用されます。</p>
<b>VDI.Server.Group</b>	<p>XenDesktop 5 の場合は、&lt;group_name;catalog_name&gt; の形式で、マシンの追加先となる XenDesktop グループの名前と、グループが属するカタログの名前を指定します。</p> <p>XenDesktop 4 の場合は、マシンの追加先となる XenDesktop グループの名前を指定します。XenDesktop 4 の事前に割り当てられているグループがサポートされています。</p>
<b>VDI.ActiveDirectory.Interval</b>	<p>仮想デスクトップ インフラストラクチャ マシンの Active Directory 登録チェックの任意の間隔値 (期間形式) を指定します。デフォルト値は 00:00:15 (15 秒) です。</p>
<b>VDI.ActiveDirectory.Timeout</b>	<p>Active Directory の登録を再試行するまでの待ち時間のタイムアウト値を指定します (オプション)。デフォルト値は 00:00:15 (30 分) です。</p>
<b>VDI.ActiveDirectory.Delay</b>	<p>Active Directory に正常にマシンを追加してから XenDesktop の登録を開始するまでの任意の遅延時間値 (期間形式) を指定します。デフォルト値は 00:00:05 (5 秒) です。</p>

表 3-14. カスタム プロパティ V テーブル (続き)

プロパティ	説明
<b>Vrm.DataCenter.Policy</b>	<p>プロビジョニングで、特定の場所に関連付けられたコンピュート リソースを使用する必要があるのか、どの場所でも問題ないのかを指定します。この機能を有効にするには、データセンターを場所ファイルに追加する必要があります。各コンピュート リソースを場所に関連付けます。</p> <p>ブループリントで指定した場所に関連付けられたコンピュート リソースで申請されたマシンをプロビジョニングする場合は、Exact (デフォルト) に設定します。予約が申請された場所と一致しない場合、申請は失敗します。プロパティが存在しない場合、デフォルト値 Exact が使用されます。</p> <p>ブループリントで指定した場所に関連付けられた、十分な容量があるコンピュート リソースで申請されたマシンをプロビジョニングする場合は、NonExact に設定します。そのようなコンピュート リソースが使用できない場合は、場所に関係なく、十分な容量がある次に使用可能なコンピュート リソースが使用されます。</p>
<b>Vrm.Software.Id&lt;NNNN&gt;</b> この行は BMC BladeLogic に固有です。	<p>ブループリントからプロビジョニングされたすべてのマシンに適用されるソフトウェア ジョブまたはポリシーを指定します。値を <b>job_type=job_path</b> に設定します。ここで、<b>job_type</b> は BMC BladeLogic ジョブ タイプを表す数字で、<b>job_path</b> は BMC BladeLogic のジョブの場所です。たとえば、<b>4=/Utility/putty</b> のようになります。</p> <p>&lt;NNNN&gt; は、1000 ~ 1999 の数値です。最初のプロパティは 1000 から始まり、番号順に各追加プロパティの値が 1 つずつ増えていきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1 - AuditJob</li> <li>2 - BatchJob</li> <li>3 - ComplianceJob</li> <li>4 - DeployJob</li> <li>5 - FileDeployJob</li> <li>6 - NSHScriptJob</li> <li>7 - PatchAnalysisJob</li> <li>8 - SnapshotJob</li> </ul>
<b>Vrm.Software.Id&lt;NNNN&gt;</b> この行は HP Server Automation に固有です。	<p>(オプション) ブループリントからプロビジョニングされたすべてのマシンに適用される HP Server Automation ポリシーを指定します。&lt;NNNN&gt; は、1000 ~ 1999 の数値です。最初のプロパティは 1000 から始まり、番号順に各追加プロパティの値が 1 つずつ増えていきます。</p>

## カスタム プロパティ X テーブル

このセクションでは、X で始まる vRealize Automation のカスタム プロパティを示します。

表 3-15. カスタム プロパティ X テーブル

プロパティ	説明
<b>Xen.Platform.Viridian</b>	<p>仮想プロビジョニングの場合、XenServer ホストまたはプールで Windows 仮想マシンをプロビジョニングするときには False に設定します。デフォルトは True です。このプロパティは、物理プロビジョニングで使用されません。</p>



## プロパティ ディクショナリの使用

---

プロパティ ディクショナリを使用して、新しいカスタム プロパティ定義とプロパティ グループを定義できます。

プロパティは、特定のデータ タイプと、そのデータ タイプ内での表示制御スタイルをサポートするために定義します。再利用可能なプロパティ グループを作成して、複数のプロパティの追加を簡素化することもできます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [プロパティ定義の使用 \(P. 87\)](#)
- [プロパティ グループの使用 \(P. 105\)](#)

### プロパティ定義の使用

vRealize Automation には、多くのカスタム プロパティが用意されています。さらに、新しいプロパティを定義して一意のカスタム プロパティを作成し、マシンのプロビジョニングをより適切に制御することもできます。

プロパティをブループリントまたは予約に追加する場合、プロパティ値を指定するプロンプトを表示するかどうか、およびプロパティ値を暗号化するかどうかを設定できます。

また、プロパティの表示方法を指定できます。たとえば、カスタムの vRealize Orchestrator ワークフローから取得した値をチェックボックスとして表示するか、ドロップダウン メニューとして表示するかを指定できます。

またプロパティを使用して、カスタム ワークフローがどのように機能するかを制御することもできます。vRealize Automation Designer を使用してカスタム ワークフローの定義や操作を行う方法の詳細については、ライフ サイクルの拡張性を参照してください。

---

**注意** 指定した vRealize Automation カスタム プロパティと命名が競合しないようにするため、作成したすべてのプロパティ名に、標準的で意味のあるプリフィックスを使用します。すべての新しいプロパティ名で、会社名または機能名などの後ろにドットを付けたプリフィックスを使用します。VMware で予約したプロパティ名にはすべて、ドット (.) が含まれていません。この推奨に従わないプロパティ名は、vRealize Automation カスタム プロパティと競合する場合があります。この場合、vRealize Automation のカスタム プロパティは、作成したプロパティ定義よりも優先されます。

---

次の手順は、一般的な新しいプロパティ定義の作成および使用方法です。

- 1 新しいプロパティ定義を作成して、その定義を、真偽値や整数値のコンテンツなど、特定タイプのコンテンツで利用できるデータ タイプに関連付けます。<my\_grouping\_prefix>.<my\_property\_name> などの新しいプロパティ名には標準命名規則を使用します。
- 2 プロパティ定義を、チェック ボックスやドロップダウン メニューなどの表示タイプに関連付けます。使用可能な表示タイプは、選択したデータ タイプに基づいて生成されます。
- 3 プロパティをブループリントに個別に追加するか、プロパティ グループの一部として追加します。

プロパティをブループリントに追加して、プロパティ値が暗号化される必要があるかどうかを指定します。

プロパティをブループリントに追加して、プロパティ値を指定するプロンプトをユーザーに表示する必要があるかどうかを指定します。

#### 4 マシン申請者として、プロンプトに対して必要な値を指定します。

vRealize Orchestrator のスクリプト アクションを使用してプロパティ値をドロップダウン メニューに設定することもできます。vRealize Orchestrator のスクリプト アクションを使用すると、別のプロパティに指定された値に基づいてドロップダウン メニューの値を設定することもできます。

**vra content list --type property-definition** vRealize CloudClient コマンドを使用すると、現在の vRealize Automation インスタンス テナントのすべてのプロパティ定義を一覧表示できます。また、**vra content list --type property-group** vRealize CloudClient コマンドを使用すると、すべてのプロパティ グループを一覧表示できます。プロパティ定義とプロパティ グループの一部またはすべてをパッケージに追加し、そのパッケージを zip ファイル形式でエクスポートできます。また、エクスポートしたパッケージは、別の vRealize Automation インスタンス テナントにインポートできます。vRealize CloudClient とその使用方法の詳細については、VMware Developer Center (<https://developercenter.vmware.com/tool/cloudclient>) を参照してください。

## カスタム プロパティ定義の作成とテスト

カスタム プロパティが vRealize Automation にどのように表示されるかを決定するカスタム プロパティ定義を作成します。カスタム プロパティによってチェック ボックス、ドロップダウン メニュー、またはその他のコントロール タイプが想定どおりに表示されることを確認できるように、カスタム プロパティをブループリントに追加することができます。

カスタム プロパティ定義を作成してテストするには、自分自身または、自分がアクセスできるテスト ユーザーのアカウントに対してすでに資格が付与されているブループリントが必要です。このテスト用ブループリントを使用すると、カスタム プロパティを作成してブループリントに追加したうえで、カスタム プロパティが想定どおりに表示されることを確認することができます。カスタム プロパティの検証後、必要に応じて本番環境のブループリントに追加できます。

### 開始する前に

- アクションの追加先となるブループリントが存在することを確認します。『vRealize Automation の構成』を参照してください。
- ブループリント内のカスタム プロパティをテストできるように、ブループリントが自分に対して資格付与されていることを確認します。『vRealize Automation の構成』を参照してください。
- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

### 手順

#### 1 カスタム プロパティ定義の作成 (P. 89)

カスタム プロパティが vRealize Automation にどのように表示されるかを決定するカスタム プロパティ定義を作成します。本番環境のブループリントに追加する前に、カスタム プロパティをテスト用のブループリントで検証できます。

#### 2 ブループリントへのカスタム プロパティの追加 (P. 97)

カスタム プロパティは、vRealize Automation の多くの部分、たとえば、承認ポリシー、ビジネス グループ、エンドポイント、予約ポリシーなどに追加できます。ただし、プロパティ定義として構成する表示オプションがサポートされるのは、マシン ブループリントのみです。カスタム プロパティをブループリントに追加すると、プロパティ定義で設計されたようにそのカスタム プロパティがユーザー インターフェイスに表示されることを簡単に確認できます。

#### 3 カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認 (P. 99)

vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティ定義の作成者として、カスタム プロパティをテストし、正しい値が申請フォームに表示されることを確認します。



## カスタム プロパティ定義の作成

カスタム プロパティが vRealize Automation にどのように表示されるかを決定するカスタム プロパティ定義を作成します。本番環境のブループリントに追加する前に、カスタム プロパティをテスト用のブループリントで検証できます。

### ■ プロパティ定義の作成 (P. 89)

プロパティ定義を作成して、vRealize Automation のカスタマイズ レベルを追加することができます。プロパティ定義の作成時には、プロパティのデータ タイプ（文字列、ブール値タイプなど）を指定します。

### ■ 正規表現の検証を行うカスタム プロパティの作成 (P. 91)

サービス カタログのユーザーにカタログ申請フォームで検証済みデータの提供を求める場合は、正規表現を評価するカスタム プロパティ定義を作成します。

### ■ vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 (P. 92)

vRealize Orchestrator アクションを含むカスタム プロパティ定義を作成すると、ブループリントにカスタム プロパティを追加できるようになります。このアクションは、サービス カタログ ユーザーが申請フォームでカスタム プロパティを構成しているときに実行されます。このアクションにより、フォームに表示されているデータが取得されます。

### ■ カスタム プロパティのバインドによる親子関係の作成 (P. 93)

カスタム プロパティ間に親子関係を作成するには、親のプロパティを子のプロパティにバインドします。親と子の各カスタム プロパティをブループリントに追加する際、要求側ユーザーは親プロパティの値を選択します。選択された値によって子プロパティのとり得る値が決まります。

## プロパティ定義の作成

プロパティ定義を作成して、vRealize Automation のカスタマイズ レベルを追加することができます。プロパティ定義の作成時には、プロパティのデータ タイプ（文字列、ブール値タイプなど）を指定します。

指定した vRealize Automation のカスタム プロパティが競合する可能性を回避するため、`<my_prefix.my_property_name1>` という命名形式を使用します。たとえば、会社名や機能名など、標準的な意味のあるプリフィックスを使用し、ドット (.) の後に短くて分かりやすい名前を付けます。この推奨に従わないプロパティを作成すると、vRealize Automation 指定のカスタム プロパティと競合する場合があります。この場合、vRealize Automation のカスタム プロパティは、作成したプロパティよりも優先されます。

## 開始する前に

テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

## 手順

1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ定義] の順に選択します。

2  [新規] をクリックします。

3 [名前] テキスト ボックスに新規プロパティ定義名を入力します。

`<my_grouping_prefix>.<my_property_name>` などの新しいプロパティ名には標準命名規則を使用します。

[名前] の値はプロパティの識別子 (ID) として内部的に保存されます。

4 [ラベル] テキスト ボックスの生成された値を受け入れます。

[ラベル] の値には、[名前] テキスト ボックスに入力した値が自動的に設定されます。[ラベル] の値を最初に入力すると、[名前] テキスト ボックスに同一の値が入力されます。

[ラベル] の値は、ブループリントにプロパティを追加するときなど、プロパティを要求するときにプロパティの名前としてユーザー インターフェイスに表示されます。

[ラベル] の値には、[名前] の値よりも広範囲の文字を含めることができます。

- 5 [可視性] セクションでは、[すべてのテナント] または [このテナント] を選択してプロパティを使用できる場所を判断します。

テナント管理者の権限のみでログインする場合、[このテナント] のみを使用できます。ファブリック管理者の権限のみでログインする場合、[すべてのテナント] のみを使用できます。

アイテム作成後に、[すべてのテナント] または [このテナント] の設定を変更することはできません。

- 6 (オプション) [説明] テキスト ボックスにプロパティの説明を入力します。

プロパティ定義の目的や、プロパティに関して役立つ情報を説明します。

- 7 (オプション) [表示順序] テキスト ボックスに値を入力します。

入力する番号が、プロパティ名を申請フォームに表示する方法を制御します。次の順序付けルールが適用されます。

- 表示順序は、[プロンプト表示] または [申請フォームに表示] の設定で設定されているプロパティにのみ適用されます。
- 表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、表示順序がないプロパティがその後に表示されます。
- 表示順序があるプロパティは、表示順序の値に従ってソートされます（最小値から最大値の順）。負の数値は使用できません。
- すべてのプロパティがアルファベット順に並べられます。ただし、表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、表示順序がないプロパティはその後に表示されます。
- 2つのプロパティの表示順序の値が同じ場合は、アルファベット順にソートされます。

- 8 [データ タイプ] ドロップダウン メニューからプロパティ定義のデータ タイプを選択します。

**表 4-1. プロパティ定義のデータ タイプ**

データ タイプ	説明
[真偽値]	真偽値を許可します。 表示方法のオプションは、[チェックボックス] と [はい/いいえ] です。
[日時]	日時の表示形式で入力された値を許可します。 表示方法のオプションは、[日時ピッカー] です。
[10 進数]	整数または 10 進数値を許可します。 表示方法のオプションは、[ドロップダウン]、[スライダ]、および [テキストボックス] です。
[整数]	整数値を許可します。 表示方法のオプションは、[ドロップダウン]、[スライダ]、および [テキストボックス] です。
[セキュリティで保護された文字列]	パスワードなどの、セキュリティで保護された内容または暗号化された内容を許可します。 表示方法のオプションは、[テキストボックス] です。
[文字列]	文字列値を許可します。 表示方法のオプションは、[ドロップダウン]、[電子メール]、[ハイパーリンク]、[テキスト領域]、および [テキストボックス] です。

- 9 [必須] オプションが使用可能な場合、ドロップダウン メニューから [はい] または [いいえ] を選択し、このプロパティに値を入力する必要があるかどうかを指定します。

- 10 [最小値] オプションが使用可能な場合、最小値を指定します。

- 11 [表示方法] ドロップダウン メニューから、このプロパティの表示コントロール タイプを選択します。利用可能なオプションが、[データ タイプ] の選択に基づいて表示されます。

表 4-2. プロパティ定義の表示方法のオプション

表示方法のオプション	説明
[チェックボックス]	1 つのチェック ボックス コントロールを提供します。
[日時ピッカー]	<YYYY-MM-DD> または <MM/DD/YYYY> 形式の日付と時間コントロール、および <HH:MM> 形式の時間コントロール (24 時制で表示するか AM または PM を付加) を提供します。
[ドロップダウン]	ドロップダウン メニュー コントロールを提供します。
[電子メール]	電子メール コントロールを提供します。
[ハイパーリンク]	リンク テキストとしてプロパティ表示名、URL としてプロパティ値が設定されたリンクを表示します。
[スライダ]	値の幅をスライダで制御します。
[テキスト領域]	情報を入力または表示するテキスト エリアを提供します。
[テキストボックス]	値を入力するテキスト ボックスを提供します。
[はい/いいえ]	[はい] または [いいえ] の値を指定します。

- 12 [値] 領域の [固定リスト] オプションをクリックします。
- [固定リスト] 領域で [新規] をクリックして、プロパティ名と値を追加します。
- 13 (オプション) 必要に応じて [カスタムの値入力を有効化] チェック ボックスをオンにして、ユーザーが定義済みの値のほかにカスタム値も指定できるようにします。
- 14 [OK] をクリックします。

プロパティが作成され、[プロパティ定義] ページで利用可能になります。

#### 正規表現の検証を行うカスタム プロパティの作成



サービス カタログのユーザーにカタログ申請フォームで検証済みデータの提供を求める場合は、正規表現を評価するカスタム プロパティ定義を作成します。

たとえば、特殊文字を含めない 5 ～ 10 文字のアプリケーション名または関数名を要求側ユーザーが入力する英数字テキスト ボックスを追加する場合を考えます。このシナリオでは `^[a-zA-Z0-9]{5,10}$` のような形に設定された、正規表現によるカスタム プロパティを使用します。

#### 開始する前に

- 指定された値が想定どおりであるかを検証する正規表現となるようにします。
- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

#### 手順

- 1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ定義] の順に選択します。
- 2  [新規] アイコン (  ) をクリックします。
- 3 オプションを入力します。

オプション	説明
名前	新しいプロパティ名として、 <b>my_grouping_prefix.my_property_name</b> のような標準の命名規則を使用した値を入力します。
ラベル	ラベルは名前に基づいて設定されます。ラベルを変更して、わかりやすい名前にすることができます。

オプション	説明
可視性	アクションのカスタム プロパティは、現在のテナントでのみ使用できます。別のテナントで使用できるようにするには、そのテナントにログインして設定する必要があります。
説明	プロパティ定義の目的や、プロパティに関して役立つ情報を説明します。
表示順序	<p>入力する番号が、プロパティ名を申請フォームに表示する方法を制御します。次の順序付けルールが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 表示順序は、[プロンプト表示] または [申請フォームに表示] の設定で設定されているプロパティにのみ適用されます。</li> <li>■ 表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、順序インデックスのないプロパティがその後に表示されます。</li> <li>■ 表示順序があるプロパティは、順序インデックス値が最低のものから最高のものへと順にソートされます。負の値を使用することができます。</li> <li>■ すべてのプロパティがアルファベット順に並べられます。ただし、表示順序があるすべてのプロパティが表示順序のないプロパティよりも前に表示されます。</li> <li>■ 2つのプロパティの表示順序の値が同じ場合は、アルファベット順にソートされます。</li> </ul>
データ タイプ	ドロップダウン メニューで [文字列] を選択します。
必須	ドロップダウン メニューで [いいえ] を選択します。
表示方法	ドロップダウン メニューで [テキストボックス] を選択します。
有効なユーザー入力	正規表現を入力します。

4 正規表現が動作することを確認するには、テスト用テキスト ボックスに値を入力します。

5 [OK] をクリックします。

カスタム プロパティ定義がリストに追加され、ブループリントに追加できるようになります。

次に進む前に

カスタム プロパティをマシン ブループリントに追加します。[「ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)」](#)を参照してください。

#### vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成

vRealize Orchestrator アクションを含むカスタム プロパティ定義を作成すると、ブループリントにカスタム プロパティを追加できるようになります。このアクションは、サービス カタログ ユーザーが申請フォームでカスタム プロパティを構成しているときに実行されます。このアクションにより、フォームに表示されているデータが取得されます。

開始する前に

- 作成するカスタム プロパティの構成の詳細を確認します。[「vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成 \(P. 100\)」](#)を参照してください。
- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ定義] の順に選択します。

2  [新規] アイコン (  ) をクリックします。

## 3 オプションを入力します。

オプション	説明
名前	構成の詳細を確認します。カスタム プロパティによっては、特定の名前またはフォーマットが必要な場合があります。可能な場合は、新しいプロパティ名に対して、標準の命名規則を使用します ( <b>my_grouping_prefix.my_property_name</b> など)。
ラベル	ラベルは名前に基づいて設定されます。ラベルを変更して、わかりやすい名前にすることができます。
可視性	アクションのカスタム プロパティは、現在のテナントでのみ使用できます。別のテナントで使用できるようにするには、そのテナントにログインして設定する必要があります。
説明	プロパティ定義の目的や、プロパティに関して役立つ情報を説明します。
表示順序	<p>入力した番号によって、申請フォームのどこにプロパティ名が表示されるかが制御されます。次の順序付けルールが適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 表示順序は、[プロンプト表示] または [申請フォームに表示] の設定で設定されているプロパティにのみ適用されます。</li> <li>■ 表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、順序インデックスのないプロパティがその後に表示されます。</li> <li>■ 表示順序があるプロパティは、表示順序の値に従ってソートされます (最小値から最大値の順)。負の値を使用することができます。</li> <li>■ すべてのプロパティがアルファベット順に並べられます。ただし、表示順序があるすべてのプロパティが先に表示され、表示順序がないプロパティはその後に表示されます。</li> <li>■ 2つのプロパティの表示順序の値が同じ場合は、アルファベット順にソートされます。</li> </ul>

## 4 構成の詳細を確認し、値に何を指定する必要があるのかを判断します。

構成の詳細には、次の値が含まれています。

- データ タイプ
- 表示方法
- 値
- Action フォルダ
- スクリプト アクション
- 入力パラメータ

## 5 [OK] をクリックします。

カスタム プロパティ定義がリストに追加され、ブループリントに追加できるようになります。

## 次に進む前に

ブループリントにカスタム プロパティを追加します。カスタム プロパティをマシン プロパティとネットワーク プロパティのいずれとして追加するかは、そのプロパティによって決まります。[「ブループリントへのカスタム プロパティの追加 \(P. 97\)」](#)を参照してください。

## カスタム プロパティのバインドによる親子関係の作成

カスタム プロパティ間に親子関係を作成するには、親のプロパティを子のプロパティにバインドします。親と子の各カスタム プロパティをブループリントに追加する際、要求側ユーザーは親プロパティの値を選択します。選択された値によって子プロパティのとり得る値が決まります。

- 親カスタム プロパティの定義は、固定リストにすることも、vRealize Orchestrator アクションによって決まる外部値にすることもできます。このプロパティ定義では、子プロパティ定義に対して設定可能な入力パラメータを指定します。

- 子カスタム プロパティ定義は、vRealize Orchestrator アクションを呼び出す必要があります。子カスタム プロパティでは、入力パラメータ値を指定できるように親カスタム プロパティをバインドします。

たとえば、開発チームが本番環境と非本番環境の各システムで作業を行っているとして。また、5 つのデータセンターがあります。3 つのデータセンターは開発テスト用のデータセンターであり、残り 2 つでは組織内クライアントにサービスを提供しています。テスト用データセンターと組織内クライアント用のデータセンターのどちらの環境にも同じブループリントを開発者が展開できるように、2 つのカスタム プロパティ定義を作成してバインドを行います。要求側ユーザーは、最初のカスタム プロパティを使用して、本番環境または非本番環境のどちらかを選択できます。申請フォームでユーザーが選択した環境に基づき、2 つ目のカスタム プロパティには下記の値のいずれかが表示されます。

- 非本番環境の 3 つのテスト用データセンターのリスト。
- 本番環境の 2 つの組織内クライアント用データセンター。

この手順の目的は、親子関係でバインドする 2 つのカスタム プロパティを作成することです。バインドにより、選択されている本番環境の状態に基づいて適切な場所を選択できます。

#### 開始する前に

- この例では、場所の情報としてデータセンター名を指定する vRealize Orchestrator アクションを作成します。このアクションに `datacenters_prod` という名前をつけ、`prod` という入力パラメータを文字列タイプとして追加して、このサンプル スクリプトをアクション スクリプトに使用します。

```
if(prod == null) {
    return ['Empty1', 'Empty2'];
} else if (prod.equals('nonprod')) {
    return ['WestDC for development testing', 'EastDC for QA automation testing',
'CentralDC for scale testing'];
} else {
    return ['NorthDC for AMEA clients', 'SouthDC for Asia Pacific clients'];
}
```

ワークフローの開発、vRealize Orchestrator スクリプト アクションの作成および使用方法については、『VMware vCenter Orchestrator における開発』を参照してください。

- テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

## 手順

- 1 ユーザーが本番環境または非本番環境を選択できるように、カスタム プロパティ 定義を作成します。
  - a [管理]-[プロパティ ディクショナリ]-[プロパティ 定義]の順に選択します。
  - b カスタム プロパティのオプションを設定します。

オプション	値の例
名前	<b>production.ready</b>
ラベル	<b>Environment</b>
説明	<b>Select the production or non-production environment.</b>
表示順序	<b>1</b> ブループリントでこのカスタム プロパティが最初に表示されるように 1 を選択します。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	固定リスト
固定リスト値	以下のキーペアのペアを追加します。 ■ <b>Production</b> と <b>prod</b> ■ <b>Non-Production</b> と <b>nonprod</b>

- c [OK] をクリックします。

production.ready カスタム プロパティの設定と追加が行われ、使用可能な状態になります。

- 2 カスタム場所アクションを実行する vRealize Orchestrator アクション カスタム プロパティ 定義を作成します。
  - a [管理]-[プロパティ ディクショナリ]-[プロパティ定義] の順に選択します。
  - b カスタム プロパティのオプションを設定します。

The screenshot shows the 'Edit Property Definition' window in the VMware vRealize Automation console. The window is titled 'プロパティ定義の編集: Target data center'. It contains the following fields and options:

- 名前:** datacenter
- ラベル:** Target data center
- 対象:** このテナント
- 説明:** (Empty text area)
- 表示順序:** 2
- \*データタイプ:** 文字列
- \*必須:** いいえ
- \*選択方法:** ドロップダウン
- \*値:** 事前定義 (radio button selected), 外部指定 (radio button unselected)
- カスタムの値を入力を有効化:** (checkbox unselected)
- スクリプト アクション:** mycompany.datacenters.id... (button to change)
- 入力パラメータ:**

名前	バインド	値
prod	はい	production.ready

オプション	値の例
名前	datacenter
ラベル	Target data center
説明	Select the datacenter base on whether you are deploying a production or non-production blueprint.
表示順序	2 ブループリントでこのカスタム プロパティが production.ready カスタム プロパティの後に表示されるように 2 を選択します。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部値
スクリプト アクション	[選択] をクリックして datacenters_prod アクションを特定します。

入力パラメータ テーブルには、prod パラメータが含まれています。

- c 入力パラメータ テーブルで、prod の行を選択し、[編集] をクリックします。
- d [バインド] チェック ボックスをオンにします。
- e ドロップダウン メニューで [production.ready] を選択します。
- f [OK] をクリックします。
- g [OK] をクリックします。

このデータセンター カスタム プロパティが構成され、使用可能な状態になります。

次に進む前に

- 2 つのプロパティ定義間の関係により、2 つのプロパティ定義をプロパティ グループに追加します。[「プロパティ グループの作成 \(P. 106\)」](#) を参照してください。
- production-datacenter プロパティ グループをブループリントに追加します。[「ブループリント マシン プロパティ としてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)」](#) を参照してください。



## ブループリントへのカスタム プロパティの追加

カスタム プロパティは、vRealize Automation の多くの部分、たとえば、承認ポリシー、ビジネス グループ、エンドポイント、予約ポリシーなどに追加できます。ただし、プロパティ定義として構成する表示オプションがサポートされるのは、マシン ブループリントのみです。カスタム プロパティをブループリントに追加すると、プロパティ定義で設計されたようにそのカスタム プロパティがユーザー インターフェイスに表示されることを簡単に確認できます。

カスタム プロパティは、[プロパティ] タブの仮想マシン ブループリントに関連付けられているものもあれば、[ネットワーク] タブの仮想マシン ブループリントに関連付けられているものもあります。

### ■ [ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加](#) (P. 97)

カスタム プロパティをマシン カスタム プロパティとして追加すると、サービス カタログ ユーザーは、アイテムを申請するときに、値を選択または構成できるようになります。プロパティは、個々に追加することも、グループとして追加することもできます。

### ■ [ネットワーク カスタム プロパティとしてのカスタム プロパティの追加](#) (P. 98)

カスタム プロパティをネットワーク カスタム プロパティとして追加すると、サービス カタログ ユーザーは、アイテムを申請するときに、必要なネットワーク プロファイルの値を選択できるようになります。

## ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加

カスタム プロパティをマシン カスタム プロパティとして追加すると、サービス カタログ ユーザーは、アイテムを申請するときに、値を選択または構成できるようになります。プロパティは、個々に追加することも、グループとして追加することもできます。

このワークフローでは、カスタム プロパティを追加し、そのカスタム プロパティがブループリントで正常に機能することを確認します。カスタム プロパティは、ビジネス グループや承認ポリシーなどのコンポーネントにも追加できます。

### 開始する前に

- 必要なプロパティ定義が作成されていることを確認します。[「カスタム プロパティ定義の作成 \(P. 89\)」](#)を参照してください。
- プロパティ グループを追加する場合は、関連するプロパティ定義がプロパティ グループに追加されていることを確認します。[「プロパティ グループの作成 \(P. 106\)」](#)を参照してください。プロパティ定義の表示機能をテストするには、プロパティをグループに追加するときに [申請に表示] を選択する必要があります。
- vRealize Orchestrator アクションをカスタム プロパティとして追加する場合は、構成の詳細を調べて、そのカスタム プロパティが正しい場所に追加されたことを確認します。[「vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成 \(P. 100\)」](#)を参照してください。
- カスタム プロパティの追加先のブループリントが作成されていることを確認します。『vRealize Automation の構成』を参照してください。
- インフラストラクチャ アーキテクトとして vRealize Automation コンソールにログインします。

### 手順

- 1 [設計] - [ブループリント] を選択します。
- 2 カスタム プロパティの追加先のブループリントを選択し、[編集] をクリックします。
- 3 ターゲットのマシンのコンポーネントをクリックします。  
仮想マシンの構成オプションがキャンバスに表示されます。

- 4 [プロパティ] タブをクリックした後、[カスタム プロパティ] タブまたは[プロパティ グループ] タブをクリックします。

- カスタム プロパティを追加するには、[新規] をクリックし、ドロップダウン メニューでプロパティ定義を選択します。

オプション	説明
名前	選択したカスタム プロパティ定義の名前。
値	(オプション) デフォルト値を入力します。
暗号化済み	vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティを追加するときは、値を暗号化しないでください。
オーバーライド可能	このオプションを選択すると、申請中のユーザーが申請フォームの値を選択できます。
申請に表示	このオプションを選択すると、申請中のユーザーがプロパティを確認して、申請フォームの値を選択できます。

- プロパティ グループを追加するには、[追加] をクリックしてグループを選択します。

- 5 [OK] をクリックします。

カスタム プロパティがブループリントに追加されます。

- 6 [終了] をクリックします。

- 7 ブループリントを公開します。

ブループリントには、カスタム プロパティが含まれます。

#### 次に進む前に

申請フォームのカスタム プロパティをテストします。[「カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認 \(P. 99\)」](#)を参照してください。

#### ネットワーク カスタム プロパティとしてのカスタム プロパティの追加

カスタム プロパティをネットワーク カスタム プロパティとして追加すると、サービス カatalog ユーザーは、アイテムを申請するときに、必要なネットワーク プロファイルの値を選択できるようになります。

#### 開始する前に

- 必要なカスタム プロパティ定義があることを確認します。[「vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)」](#)を参照してください。
- vRealize Orchestrator アクションをカスタム プロパティとして追加する場合は、構成の詳細を調べて、そのカスタム プロパティが正しい場所に追加されたことを確認します。[「vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成 \(P. 100\)」](#)を参照してください。
- カスタム プロパティの追加先のブループリントが作成されていることを確認します。[『vRealize Automation の構成』](#)を参照してください。
- インフラストラクチャ アーキテクトとして vRealize Automation コンソールにログインします。

#### 手順

- 1 [設計] - [ブループリント] を選択します。
- 2 ネットワーク カスタム プロパティの追加先のブループリントを選択し、[編集] をクリックします。
- 3 ターゲットの仮想マシンのコンポーネントをクリックします。  
仮想マシンの構成オプションがキャンバスに表示されます。
- 4 [ネットワーク] タブをクリックします。
- 5 [新規] をクリックします。

- 6 [ネットワーク] ドロップダウン メニューでネットワーク プロファイルを選択し、[OK] をクリックします。
- 7 新しい行で [カスタム プロパティの編集] をクリックします。
- 8 ネットワーク カスタム プロパティを選択し、オプションを構成します。

オプション	説明
名前	プロパティ名は変更できません。
値	(オプション) デフォルト値を入力します。
暗号化済み	vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティを追加するときは、値を暗号化しないでください。
オーバーライド可能	このオプションを選択すると、申請中のユーザーが申請フォームの値を選択できます。
申請に表示	このオプションを選択すると、申請中のユーザーがプロパティを確認して、申請フォームの値を選択できます。

- 9 [OK] をクリックします。  
ネットワーク カスタム プロパティがブループリントに追加されます。
- 10 [終了] をクリックします。
- 11 ブループリントを公開します。

ブループリントには、カスタム プロパティが含まれます。

#### 次に進む前に

申請フォームのカスタム プロパティをテストします。[「カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認 \(P. 99\)」](#)を参照してください。

### カタログ申請フォームのカスタム プロパティの確認

vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティ定義の作成者として、カスタム プロパティをテストし、正しい値が申請フォームに表示されることを確認します。

#### 開始する前に

- カスタム プロパティをブループリントの適切な場所に追加します。[「ブループリントへのカスタム プロパティの追加 \(P. 97\)」](#)を参照してください。
- ブループリント内のカスタム プロパティをテストできるように、ブループリントが自分に対して資格付与されていることを確認します。[『vRealize Automation の構成』](#)を参照してください。
- テスト ブループリントにアクセスできるユーザーとして vRealize Automation にログインします。

#### 手順

- 1 [カタログ] を選択します。
- 2 テスト ブループリントを選択し、[申請] をクリックします。
- 3 申請フォームで、カスタム プロパティを追加したマシンをクリックします。
- 4 カスタム プロパティを見つけてドロップダウン矢印をクリックします。

vRealize Orchestrator アクションが実行され、表示するように構成されている値が取得されます。予期される値が表示されることを確認します。

#### 次に進む前に

必要に応じてカスタム プロパティを本番のブループリントに追加します。

## vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の詳細構成

外部ファイルまたは vRealize Automation 構成情報からキーと値のペアを取得するには、vRealize Orchestrator アクションを実行するカスタム プロパティ定義を作成します。カスタム プロパティがカタログ申請フォームに表示されるように、カスタム プロパティをブループリントに追加します。

アイテムを申請するサービス カatalog ユーザーは、展開に含める値を選択できます。ユーザーがドロップダウン メニューをクリックして値を選択すると、vRealize Orchestrator アクションが実行され、ユーザーが選択したメニューに表示されるデータが取得されます。

各 vRealize Orchestrator アクションのプロパティ定義の構成ワークフローは似ていますが、詳細の一部が異なります。たとえば、前提条件および制限に違いがあり、カスタム プロパティをブループリントに適用した場合、異なる可能性があります。

- **ネットワークのカスタム プロパティ定義** (P. 100)  
申請フォームでネットワークをユーザーに選択させる場合、vRealize Automation データベースからネットワーク名を取得するカスタム プロパティを追加します。ネットワーク セレクタのカスタム プロパティは、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。
- **予約ポリシーのカスタム プロパティ定義** (P. 101)  
申請ユーザーにより申請フォームで予約ポリシー名が選択された場合、申請ユーザーに適用できる予約ポリシー名を取得するカスタム プロパティ定義を追加します。予約ポリシー セレクタのカスタム プロパティ定義は、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。
- **PowerShell スクリプトのカスタム プロパティ定義** (P. 102)  
スクリプトを使用してデータを取得し、申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、PowerShell スクリプトを実行するカスタム プロパティを追加します。PowerShell スクリプトのカスタム プロパティは、vRealize Orchestrator アクションを使用してスクリプトを実行し、値を取得します。
- **データベース クエリのカスタム プロパティ定義** (P. 103)  
データベースから値を取得して申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、そのデータベースを照会するカスタム プロパティを追加します。データベース カスタム プロパティは vRealize Orchestrator アクションを使用してクエリを実行し、値を取得します。
- **カスタム アクションのカスタム プロパティ定義** (P. 104)  
取得した値を申請フォームでユーザーに選択させる場合、vRealize Orchestrator のカスタム アクションを使用してソースからデータを取得するカスタム プロパティを追加します。

### ネットワークのカスタム プロパティ定義

申請フォームでネットワークをユーザーに選択させる場合、vRealize Automation データベースからネットワーク名を取得するカスタム プロパティを追加します。ネットワーク セレクタのカスタム プロパティは、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。

#### 制限事項

ネットワーク セレクタのカスタム プロパティを使用する場合は次の制限を考慮します。

- カスタム プロパティの名前は `VirtualMachine.network0.Name` にする必要があります。この名前は必須です。ネットワーク セレクタ用の複数のプロパティ定義を作成することはできません。
- このアクションは、ターゲット vCenter Server インスタンスにネットワーク名が適用されるかどうかを検証せずに、申請ユーザーのすべてのネットワーク名を取得します。サービス カatalog ユーザーは、選択したターゲットに適用できないネットワークを選択する場合があります。誤ったネットワークが選択された場合、カタログ申請は失敗します。

- このアクションは、申請ユーザーのネットワーク名のみを取得します。他のユーザーの代わりに申請を送信しても、自分のネットワークとして取得されます。たとえば、ネットワーク A とネットワーク C がビジネス グループ 1 に関連付けられている場合、ビジネス グループ 1 ユーザーにはネットワーク B ではなくネットワーク A と C のみが表示されます。

#### 前提条件

なし。

#### カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

**表 4-3. ネットワークのカスタム プロパティの設定値**

オプション	値
名前	VirtualMachine.network0.Name を使用する必要があります。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.reservations
スクリプト アクション	getApplicableNetworks このスクリプト アクションはスクリプトの一例です。環境に固有のアクションを作成できます。
入力パラメータ	パラメータは不要です。

#### ブループリントの設定

ブループリントの [ネットワーク] タブでカスタム プロパティを追加します。[\[ネットワーク カスタム プロパティとしてのカスタム プロパティの追加 \(P. 98\)\]](#) を参照してください。

#### 予約ポリシーのカスタム プロパティ定義

申請ユーザーにより申請フォームで予約ポリシー名が選択された場合、申請ユーザーに適用できる予約ポリシー名を取得するカスタム プロパティ定義を追加します。予約ポリシー セレクタのカスタム プロパティ定義は、vRealize Orchestrator アクションを使用して値を取得します。

#### 制限事項

予約ポリシー セレクタのカスタム プロパティを使用する場合は次の制限を考慮します。

- カスタム プロパティの名前は ReservationPolicyID にする必要があります。この名前は必須です。予約ポリシー セレクタに複数のプロパティ定義を作成することはできません。
- このアクションは、ターゲット エンドポイント (vCenter Server インスタンスや他のプラットフォームなど) に予約ポリシーが適用されるかどうかを検証せずに、申請ユーザーに適用できるすべての予約ポリシーを取得します。サービス カタログ ユーザーは、選択したブループリントのターゲット システムに適用できない予約を選択する場合があります。ユーザーが誤った予約を選択した場合、カタログ申請は失敗します。
- このアクションは、申請ユーザーの予約ポリシーのみを取得します。別のユーザーの代わりに申請を送信しても、自分の予約ポリシーとして取得されます。たとえば、予約 1 と予約 3 がビジネス グループ 1 に関連付けられている場合、ビジネス グループ 1 ユーザーには予約 2 ではなく予約 1 と 3 のみが表示されます。

#### 前提条件

なし。

### カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

**表 4-4. 予約ポリシー カスタム プロパティの設定値**

オプション	値
名前	ReservationPolicyID を使用する必要があります。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.reservations
スクリプト アクション	getApplicableReservationPolicies このスクリプト アクションはスクリプトの一例です。環境に固有のアクションを作成できます。
入力パラメータ	パラメータは不要です。

### ブループリントの設定

[ブループリントのプロパティ] タブにカスタム プロパティを追加するには、[「ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)」](#) を参照してください。

### PowerShell スクリプトのカスタム プロパティ定義

スクリプトを使用してデータを取得し、申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、PowerShell スクリプトを実行するカスタム プロパティを追加します。PowerShell スクリプトのカスタム プロパティは vRealize Orchestrator アクションを使用してスクリプトを実行し、値を取得します。

たとえば、クラウド管理者として、vRealize Automation に登録されている Active Directory からユーザー ID を取得する PowerShell スクリプトを使用します。このスクリプトの目的は、Active Directory の実際の値が「JSmith01」の場合に「John Smith」を取得して表示することです。

PowerShell スクリプト アクションを使用する利点には、スクリプトの一元管理があります。中央サーバにスクリプトを保存してターゲットの仮想マシンで実行することも、vRealize Orchestrator に保存してターゲットの仮想マシンで実行することもできます。一元管理によりメンテナンス時間が短縮されます。バックアップとリストアが構成済みで vRealize Orchestrator にスクリプトを保存すると、システム障害が発生した場合にスクリプトを確実にリストアできます。

### 制限事項

なし。

### 前提条件

キー ペア値を返す PowerShell スクリプトが動作することを確認します。このスクリプトはアクセスできるサーバで利用できるか、vRealize Orchestrator にアップロードされている必要があります。

### カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

**表 4-5. PowerShell スクリプトのカスタム プロパティの設定値**

オプション	値
名前	任意の文字列を使用できます。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン

表 4-5. PowerShell スクリプトのカスタム プロパティの設定値 (続き)

オプション	値
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.powershell
スクリプト アクション	<p>PowerShell スクリプトが配置されている場所に基づいてアクションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ PowerShell スクリプトが中央サーバにある場合、executeExternalPowerShellScriptOnHostByName を使用します。</li> <li>■ PowerShell スクリプトが vRealize Orchestrator にアップロードされている場合、executePowershellScriptFromResourceOnHostByName を使用します。</li> </ul> <p>これらのスクリプト アクションはスクリプトの例です。環境に固有のアクションを作成できます。</p>
入力パラメータ	<p>選択したアクションに基づいて入力パラメータを設定します。</p> <p>パラメータの定義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ executeExternalPowerShellScriptOnHostByName を使用する場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>■ [hostName]。スクリプトが配置されている中央サーバの名前。</li> <li>■ [externalPowershellScript]。ホスト上の PowerShell ファイルのパス。</li> <li>■ [Arguments]。スクリプトに渡すパラメータ。引数はカンマ区切りにします。例：Argument1,Argument2</li> </ul> </li> <li>■ executePowershellScriptFromResourceOnHostByName を使用する場合： <ul style="list-style-type: none"> <li>■ vRealize Orchestrator.ホストとして使用している vRealize Orchestrator インスタンスの名前。</li> <li>■ [scriptResourcePath]。ホスト上の PowerShell ファイルのパス。</li> <li>■ [scriptResourceName]。vRealize Orchestrator にアップロードされたリソースとしての PowerShell ファイルのパス。例：</li> </ul> </li> </ul>

### ブループリントの設定

[ブループリントのプロパティ] タブにカスタム プロパティを追加するには、「[ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)](#)」を参照してください。

### データベース クエリのカスタム プロパティ定義

データベースから値を取得して申請フォームのカスタム プロパティに取り込む場合、そのデータベースを照会するカスタム プロパティを追加します。データベース カスタム プロパティは vRealize Orchestrator アクションを使用してクエリを実行し、値を取得します。

このアクションは次のデータベースでサポートされます。

- Microsoft SQL Server
- MySQL
- Oracle
- PostgreSQL

### 制限事項

取得されたすべての値は文字列に変換されます。

### 前提条件

vRealize Orchestrator SQL プラグインがインストールされ、ターゲット データベースに接続するように構成されていることを確認します。

### カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。

**表 4-6. データベース クエリのカスタム プロパティの設定値**

オプション	値
名前	任意の文字列を使用できます。
データ タイプ	文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	com.vmware.vra.sql
スクリプト アクション	executeSQLSelectOnDatabase このスクリプト アクションはスクリプトの一例です。環境に固有のアクションを作成できます。
入力パラメータ	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ [databaseName]。vRealize Orchestrator が接続されるデータベースの名前。</li> <li>■ [sqlSelectQuery]。値を取得するためにデータベースで実行される SQL の選択クエリ。select * &lt;table name&gt; など。</li> <li>■ [keyColumnName]。キー ペア値のキーであるデータベース カラムの名前。</li> <li>■ [valueColumnName]。値を取得するデータベース カラムの名前。</li> </ul>

### ブループリントの設定

[ブループリントのプロパティ] タブにカスタム プロパティを追加するには、[「ブループリント マシン プロパティとしてのカスタム プロパティまたはプロパティ グループの追加 \(P. 97\)」](#) を参照してください。

### カスタム アクションのカスタム プロパティ定義

取得した値を申請フォームでユーザーに選択させる場合、vRealize Orchestrator のカスタム アクションを使用してソースからデータを取得するカスタム プロパティを追加します。

### 制限事項

制限はカスタム アクションによって異なります。

### 前提条件

動作する vRealize Orchestrator アクションがあることを確認します。vRealize Orchestrator スクリプト アクションの開発ワークフロー、作成および使用方法については、[『VMware vCenter Orchestrator における開発』](#) を参照してください。

アクション スクリプトは入力パラメータ値を受け入れる必要があります。この値はキーと値のペアとして設定できます。キーと値のペアを使用して、わかりにくい ID に対してユーザーが判別可能な名前を示すことができます。

### カスタム プロパティの設定値

これらのオプションは、カスタム プロパティを作成するために使用します。全体の手順については、[\[vRealize Orchestrator アクションのカスタム プロパティ定義の作成 \(P. 92\)\]](#) を参照してください。



表 4-7. カスタム アクションのカスタム プロパティの設定値

オプション	値
名前	任意の文字列を使用できます。
データ タイプ	10 進数、整数、または文字列
表示方法	ドロップダウン
値	外部
Action フォルダ	カスタム アクションの場所。
スクリプト アクション	カスタム アクションの名前。
入力パラメータ	カスタム アクションによって異なります。

### ブループリントの設定

通常は、ブループリントの [プロパティ] タブでカスタム プロパティを追加します。カスタム プロパティを [プロパティ] タブに追加するかどうかは、アクションによって異なります。[「ブループリントへのカスタム プロパティの追加 \(P. 97\)」](#)を参照してください。

## プロパティ グループの使用

プロパティ グループを作成し、プロパティを単一のユニットにまとめることができます。

プロパティ グループは、論理的かつ再利用可能なプロパティのグループです。プロパティ グループには、自分で作成するプロパティ定義または提供されているカスタム プロパティを含めることができます。プロパティ グループは、プロパティをブループリントまたは他の使用可能な vRealize Automation 要素に追加するプロセスを簡素化します。プロパティを論理的にグループ化することで、個別に追加する場合に比べ、効率的にプロパティを追加できるようになります。

一般的に、プロパティ グループには、一緒に使用されるプロパティが含まれます。たとえば、WIM ベースのプロビジョニングで広く使用されるプロパティをまとめて、WimImagingProperties という名前のプロパティ グループを作成できます。

- Image.ISO.Location
- Image.ISO.Name
- Image.Network.Password
- Image.Network.User
- Image.WIM.Index
- Image.WIM.Name
- Image.WIM.Path

また、次のプロパティを含む、vCloud Air または vCloud Director マシン プロビジョニングのプロパティ グループを作成することもできます。

- VirtualMachine.Network0.Name
- VCloud.Template.MakeIdenticalCopy
- VMware.SCSI.Type
- Sysprep.Identification.DomainAdmin
- Sysprep.Identification.DomainAdminPassword
- Sysprep.Identification.JoinDomain

`vra content list --type property-definition` vRealize CloudClient コマンドを使用すると、現在の vRealize Automation インスタンス テナントのすべてのプロパティ定義を一覧表示できます。また、`vra content list --type property-group` vRealize CloudClient コマンドを使用すると、すべてのプロパティ グループを一覧表示できます。プロパティ定義とプロパティ グループの一部またはすべてをパッケージに追加し、そのパッケージを zip ファイル形式でエクスポートできます。また、エクスポートしたパッケージは、別の vRealize Automation インスタンス テナントにインポートできます。vRealize CloudClient とその使用方法の詳細については、VMware Developer Center (<https://developercenter.vmware.com/tool/cloudclient>) を参照してください。

## プロパティ グループの作成

特定のカスタム プロパティをプロパティ グループに編成し、複数のカスタム プロパティをより簡単にブループリントに追加できるようにします。

開始する前に

テナント管理者またはファブリック管理者として vRealize Automation コンソールにログインします。

手順

- 1 [管理] - [プロパティ ディクショナリ] - [プロパティ グループ] を選択します。

- 2  [新規] をクリックします。

- 3 新しいプロパティ グループ名と ID を入力します。  
[名前] の値を最初に入力すると、[ID] テキスト ボックスに同じ値が取り込まれます。

- 4 [可視性] セクションでは、[すべてのテナント] または [このテナント] を選択してプロパティを使用できる場所を判断します。

テナント管理者の権限のみでログインする場合、[このテナント] のみを使用できます。ファブリック管理者の権限のみでログインする場合、[すべてのテナント] のみを使用できます。

アイテム作成後に、[すべてのテナント] または [このテナント] の設定を変更することはできません。

- 5 (オプション) プロパティ グループの説明 (**My\_CloningProperties\_vSphere**) を入力します。

- 6 [プロパティ] ボックスを使用してグループにプロパティを追加します。

- a  [新規] をクリックします。

- b プロパティ名を入力します。  
たとえば、**VirtualMachine.Storage.ReserveMemory** と入力します。

- c (オプション) プロパティ値を入力します。  
たとえば、**True** と入力します。

- d (オプション) [暗号化済み] チェック ボックスを選択して、そのプロパティ値に暗号化が必要なことを指定します。たとえば、値がパスワードやその他のセキュア エントリとなる場合、暗号化されたオプションを使用して値の文字を非表示にします。

- e (オプション) [申請に表示] チェック ボックスを選択して、マシン プロビジョニング申請時に申請フォームにプロパティが表示されるようにします。

- f [OK] をクリックして、グループにプロパティを追加します。

- 7 追加のプロパティをグループに追加します。

- 8 [保存] をクリックします。

# インデックス

## A

Amazon、使用可能なカスタム プロパティ 53

## H

HP Server Automation、必須のカスタム プロパティ 47

## L

Linux キックスタート プロビジョニング、カスタム プロパティ 27

## O

Openstack、エンドポイント用のカスタム プロパティ 17

## P

PowerShell スクリプト、プロパティ定義 102  
PXE プロビジョニング、カスタム プロパティ 40

## S

SCCM のプロビジョニング、カスタム プロパティ 28

## V

vCloud Air のブループリント、カスタム プロパティの追加 32  
vCloud Director のブループリント、カスタム プロパティの追加 32  
VirtualMachine.Network、ネットワーク デバイスの指定 35  
vRealize Orchestrator アクション  
PowerShell スクリプトのプロパティ定義 102  
カスタム アクションのプロパティ定義 104  
データベース クエリのプロパティ定義 103  
ネットワークのプロパティ定義 100  
プロパティ定義 92  
予約ポリシーのプロパティ定義 101  
vRealize Orchestrator のカスタム アクション、プロパティ定義 104

## W

WIM のプロビジョニング、カスタム プロパティ 29

## か

カスタム 10  
カスタム プロパティ  
FlexClone ブループリント用 24  
HP Server Automation の統合に必要 47  
Linux キックスタート プロビジョニング 27

Openstack エンドポイント 17

o プロパティ 59

PowerShell スクリプト 102

PXE プロビジョニング 40

SCCM のプロビジョニング 28

vCloud Air および vCloud Director のブループリント 32

WIM のプロビジョニング 29

新しいプロパティの定義 87

カスタム プロパティのタイプ 12

関連ガイド 5

機能別に表示 13

基本ワークフロー ブループリント用 26

クローン ブループリント用 18, 42

更新されたプロパティ情報 7

使用理由 9

申請フォームのテスト 99

正規表現 91

データベース クエリ 103

名前別に表示 51

ネットワーク 35, 100

バインド 93

必須およびオプション 46

ブループリント 15

ブループリントでのテスト 97, 98

プロパティ グループの作成 106

プロパティ定義 88

プロパティ ディクショナリの使用 87

プロパティの指定 9

プロビジョニングの問題のデバッグ 16

マシン プロビジョニング 10

優先順位 10

予約ポリシー 101

リンク クローン ブループリント用 21

カスタム プロパティ、a プロパティ 53

カスタム プロパティ、b プロパティ 53

カスタム プロパティ、c プロパティ 54

カスタム プロパティ、l プロパティ 58

カスタム プロパティ、p プロパティ 60

カスタム プロパティ、s プロパティ 61

カスタム プロパティ、アンダースコア ( \_ ) プロパティ 52

カスタム プロパティ、e プロパティ 54

カスタム プロパティ、h で始まるプロパティ 56

カスタム プロパティ、i プロパティ 57

カスタム プロパティ、m プロパティ 59  
カスタム プロパティ、r プロパティ 61  
カスタム プロパティ、v プロパティ 65  
カスタム プロパティ、x プロパティ 85

## し

申請フォーム、カスタム プロパティのテスト 99

## せ

正規表現、プロパティ定義 91

## つ

追加、プロパティ定義 88,89

## て

データベース クエリ、プロパティ定義 103

## ね

ネットワーク、プロパティ定義 100

## は

バインド  
    プロパティ 93  
    プロパティ定義 93

## ふ

ブループリント  
    カスタム プロパティ 15,46  
    カスタム プロパティの追加 97,98  
    カスタム プロパティのテスト 97,98  
    ネットワーク カスタム プロパティの追加 98  
プロパティ  
    暗号化済み 106  
    オーバーライド可能 106  
    申請に表示 106  
プロパティ グループ  
    カスタム プロパティ グループの使用 105  
    作成 106  
プロパティ定義  
    PowerShell スクリプト 102  
    vRealize Orchestrator アクション 92  
    vRealize Orchestrator のカスタム アクション 104  
    正規表現 91  
    追加 88,89  
    データベース クエリ 103  
    ネットワーク 100  
    バインド 93  
    ブループリントでのテスト 97,98  
    予約ポリシー 101  
プロパティ ディクショナリ、プロパティ定義の作成 89

## ま

マシン プロビジョニング、カスタム プロパティ 10

## よ

予約ポリシー、プロパティ定義 101